

高齢者の生活と健康に関する調査
高齢期の生活と健康に関する意識調査

調査結果中間報告

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査の種別と調査対象	1
3 調査内容	1
4 調査期間	2
5 調査方法	2
6 回収結果	2
7 報告書の見方	2
第2章 高齢者一般調査	4
1 対象者についての基本的事項	4
2 身体・生活の状況について	10
3 介護予防と介護のあり方について	23
4 介護保険制度について	28
第3章 居宅サービス利用者調査	33
1 対象者についての基本的事項	33
2 身体・生活の状況について	41
3 介護保険サービスの利用状況	52
4 介護予防と介護のあり方について	61
5 介護保険制度について	66
6 在宅介護の状況について	69
第4章 居宅サービス未利用者調査	72
1 対象者についての基本的事項	72
2 身体・生活の状況について	80
3 介護保険サービスの利用状況	91
4 介護予防と介護のあり方について	98
5 介護保険制度について	103
6 在宅介護の状況について	106
第5章 若年者調査	109
1 対象者についての基本的事項	109
2 身体・生活の状況について	115
3 介護予防と介護のあり方について	127
4 介護保険制度について	132

第1章 調査の概要

1 調査目的

本調査は、介護サービスの利用状況及び今後の利用意向等を把握し、次期介護保険事業計画における各サービスの見込み量設定等の基礎データを得るとともに、介護保険制度や高齢者保健福祉施策全般に対する市民の意向を把握し、「京都市民長寿すこやかプラン」（京都市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）の見直しに向けての基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の種別と調査対象

種別	調査対象
A 高齢者一般調査	要介護（要支援）認定を受けていない65歳以上の方 4,000人（抽出）
B 居宅サービス利用者調査	介護保険の居宅サービスを利用している方 3,500人（抽出）
C 居宅サービス未利用調査	要介護（要支援）認定を受けているが、介護サービスを利用していない方 1,750人（抽出）
D 若年者調査	40歳以上65歳未満の方 3,000人（抽出）

3 調査内容

(1) 高齢者一般調査・若年者調査

- ア 基本属性
- イ 身体・生活の状況
- ウ 外出や生きがい活動の状況
- エ 介護予防に関する取り組みと意向
- オ 介護と在宅生活に対する意向
- カ 介護保険制度に対する意向

(2) 居宅サービス利用者調査・居宅サービス未利用者調査

- ア 基本属性
- イ 身体・生活の状況
- ウ 外出や生きがい活動の状況
- エ 介護サービスの利用状況と利用意向
- オ 介護サービスの未利用理由
- カ 介護サービス等の情報に対する意向
- キ 施設への入所申込の状況
- ク 介護予防に関する取り組みと意向
- ケ 介護と在宅生活に対する意向
- コ 保険料、利用料に対する意向
- サ 在宅介護の状況と意向

4 調査期間

平成 19 年 12 月 14 日～12 月 28 日

5 調査方法

郵送法

6 回収結果

種別	発送数	有効回収数	有効回収率
A 高齢者一般調査	4,000	2,549	63.7%
B 居宅サービス利用者調査	3,500	1,863	53.2%
C 居宅サービス未利用者調査	1,750	832	47.5%
D 若年者調査	3,000	1,419	47.3%

7 報告書の見方

- (1) 集計結果は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入しており、比率の合計が 100.0%にならないことがある。
- (2) 図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。
MA% (Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
2 L A% (2 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを 2 つ以内で選択する場合
3 L A% (3 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つ以内で選択する場合
複数回答を依頼した質問では、集計結果の合計が 100.0%を超える場合がある。
- (3) 回答比率 (%) はその質問の回答者数を基数 (N = Number of case) として算出した。
なお、回答者数が少ない場合は、比率の数字に偏りが生じやすく、厳密な比較をすることが難しいため、図表に数値は掲載しているが、文章中では言及していない。
- (4) 「B 居宅サービス利用者調査」及び「C 居宅サービス未利用者調査」の調査対象者の抽出を本市の介護保険被保険者・受給者台帳データを用いて実施したが、対象者の抽出の資料とした給付実績（利用月）と調査時点との時間差により、介護サービスの利用有無の回答で抽出区分と違う回答をした方があった。調査票はすべて同一の質問項目を用いているため、集計に当たっては、回答内容によって、介護サービスの利用者・未利用者に振り分けた。
- (5) 本調査結果を、要介護（支援）者の出現率や各介護サービス量の見込み量設定等に活用するためには、年齢階層別や要介護度別に、十分な分析ができるだけの回答数を得る必要がある。このため、「A 高齢者一般調査」及び「D 若年者調査」については、標本数を年齢 5 歳階級別に同数ずつ配分することにより、最小の分析単位における有効回収数が 100 以上となるように設定した。同様に、「B 居宅サービス利用者調査」及び「C 居宅サービス未利用者調査」については、要介護度別に同数ずつを配分した。回収票の

集計に当たっては、母集団における年齢構成比及び要介護度別構成比を反映するために、ウェイトをつけて集計した。本報告書における回答比率（％）はウェイトバック後の数値である。なお、ウェイトバック後の調査数と、各カテゴリーの回答数の合計とは、小数点以下の四捨五入の関係で一致しない場合がある。

第2章 高齢者一般調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 1-1 記入者

(上段：件 下段：%)

調査数 (N)	宛名の本人	家族	その他	無回答
2474 100.0	2324 93.9	81 3.3	8 0.3	61 2.5

アンケートの回答者は、「宛名の本人」93.9%に対し、「家族」3.3%、「その他」0.3%となっている。

イ 本人が回答できない理由

表 1-2 本人が回答できない理由

(上段：件 下段：%)

調査数 (N)	病院に入院中	介護保険施設に入所 (老人ホームなど)	病気やけが	物が忘れがあり、意思疎通が時々難しい	認知症のため意思疎通が難しい	障害(身体障害、知的障害など)	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
89 100.0	14 16.1	0 0.3	5 5.5	17 18.7	1 0.9	7 7.8	2 2.1	10 11.4	22 25.3	11 12.0

本人が回答できない理由としては、「物忘れがあり、意思疎通が時々難しい」が18.7%、「病院に入院中」が16.1%となっている。

(2) 年齢別・性別構成

図 1-1 年齢構成

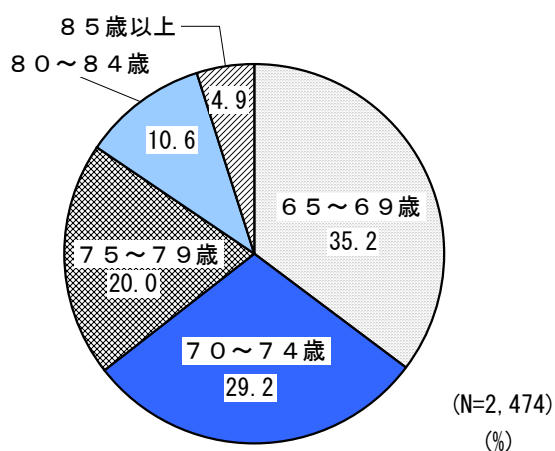
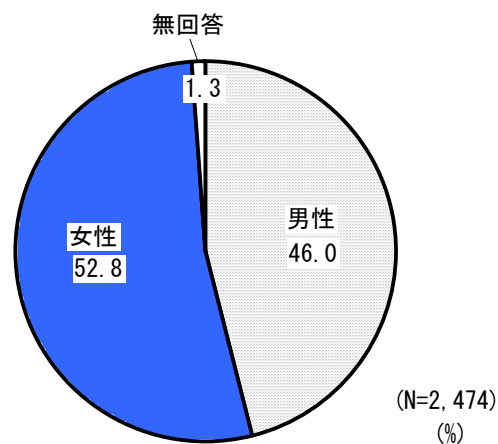


図 1-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「65～69歳」が35.2%と最も多く、「85歳以上」が4.9%と最も少なくなっている。

性別構成については、男性46.0%，女性52.8%と女性の方が多くなっている。

(3) 居住地域

ア 居住地区

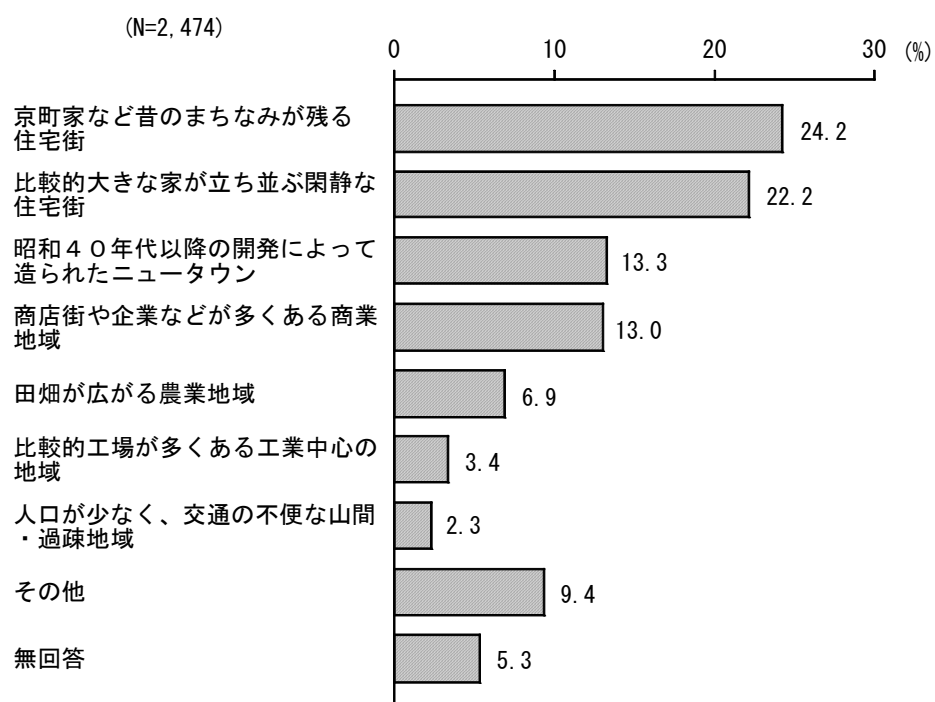
表 1-3 居住地区

調査数 (N)	(上段：件 下段：%)														
	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
2474	243	158	307	167	103	229	145	147	294	206	12	388	37	32	5
100.0	9.8	6.4	12.4	6.8	4.2	9.3	5.9	6.0	11.9	8.3	0.5	15.7	1.5	1.3	0.2

居住地区をみると、「伏見区」が15.7%と最も多く、「左京区」「右京区」も10%を超えている。

イ 地域の特性

図 1-3 地域の特性

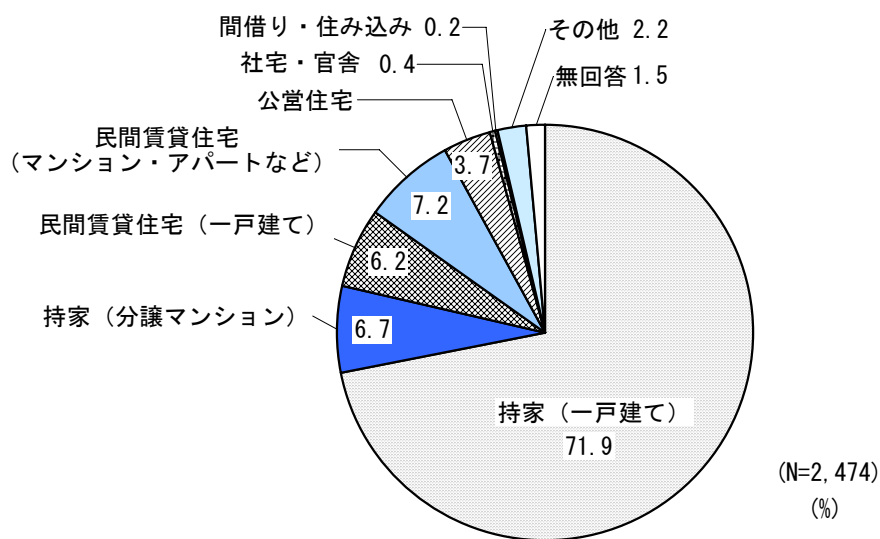


住まいの地域については、「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」が24.2%と最も多く、次いで「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」(22.2%)、「昭和40年代以降の開発によって造られたニュータウン」(13.3%)、「商店街や企業などがある商業地域」(13.0%)の順となっている。

(4) 住居形態

ア 住まいの形態

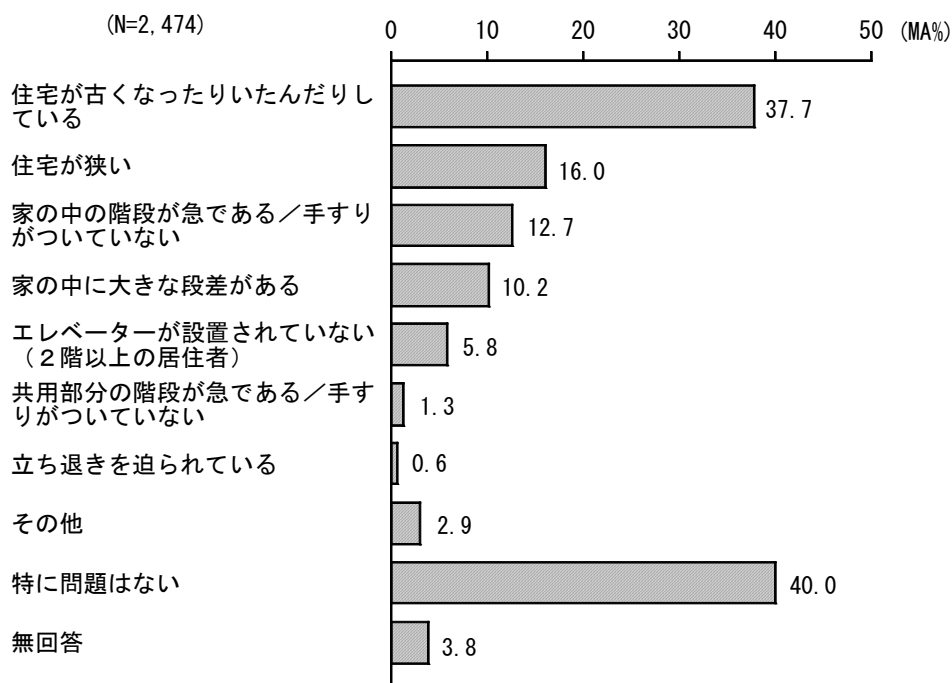
図 1-4 住まいの形態



住まいの形態をみると、「持家（一戸建て）」が71.9%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が7.2%、「民間賃貸住宅（一戸建て）」が6.2%などとなっている。

イ 住まいの状況

図 1-5 住まいの状況

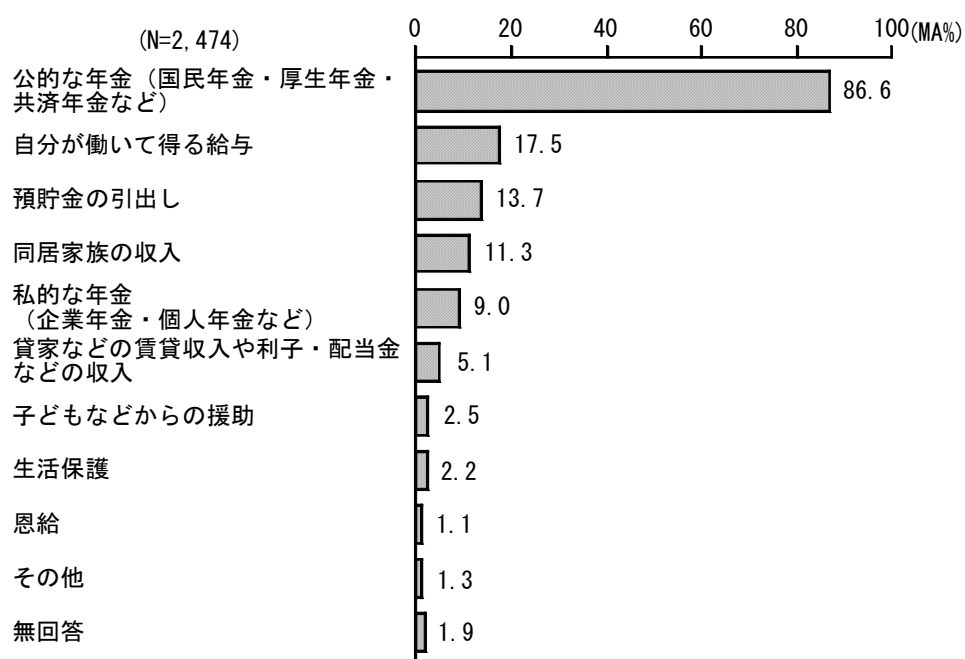


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が37.7%と最も多く、次いで「住宅が狭い」(16.0%)、「家の中の階段が急である／手すりがついていない」(12.7%)となっている。

(5) 収入

ア 主な収入源

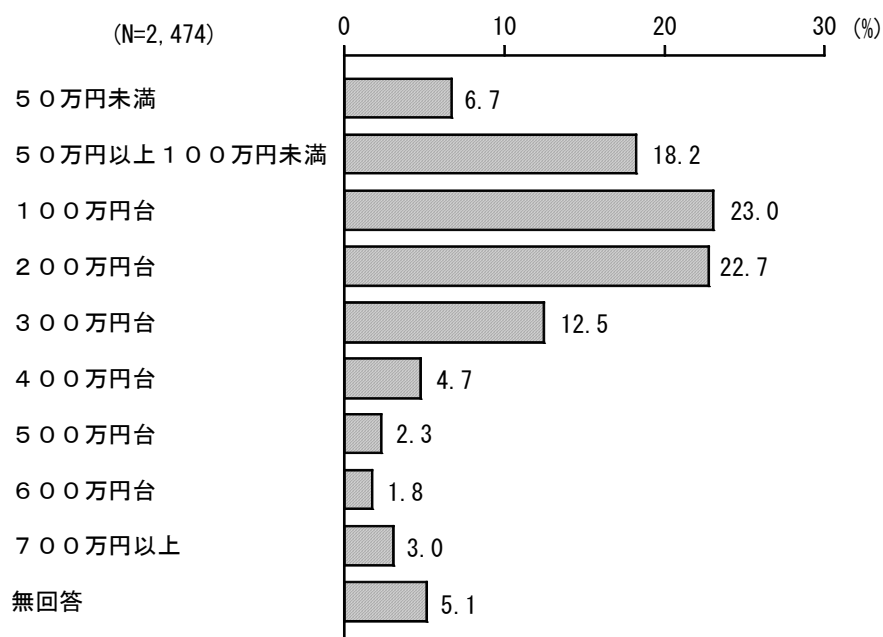
図 1-6 主な収入源



主な収入源については、「公的な年金（国民年金・厚生年金・共済年金など）」が86.6%と圧倒的に多く、次いで「自分が働いて得る給与」が17.5%、「預貯金の引出し」が13.7%となっている。

イ 本人の年収

図 1-7 本人の年収

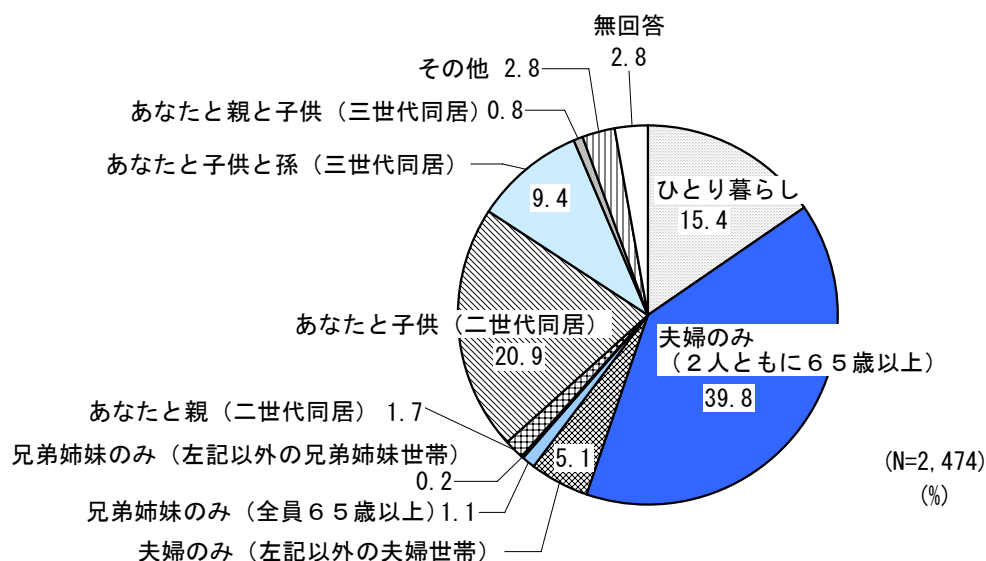


調査対象者本人の年収は、「100万円台」が23.0%と最も多く、次いで「200万円台」が22.7%となっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成

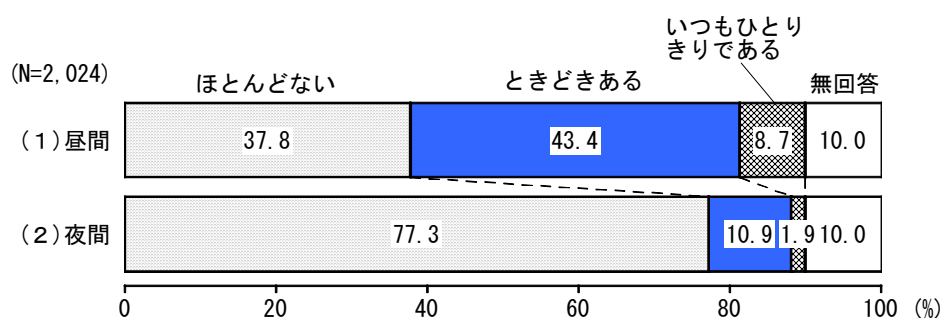
図 1-8 世帯構成



世帯構成は「夫婦のみ (2人とも65歳以上)」が39.8%と最も多く、次いで「あなたと子供 (二世世代同居)」(20.9%)、「ひとり暮らし」(15.4%)、「あなたと子供と孫 (三世世代同居)」(9.4%) となっている。

イ 昼間・夜間独居の状況

図 1-9 昼間・夜間独居の状況



家族と同居している高齢者のうち、昼間、ひとりきりになることがある人は52.1%を占め、「いつもひとりきりである」は8.7%となっている。

同様に、夜間、ひとりきりになることがある人は12.8%であり、「いつもひとりきりである」は1.9%となっている。

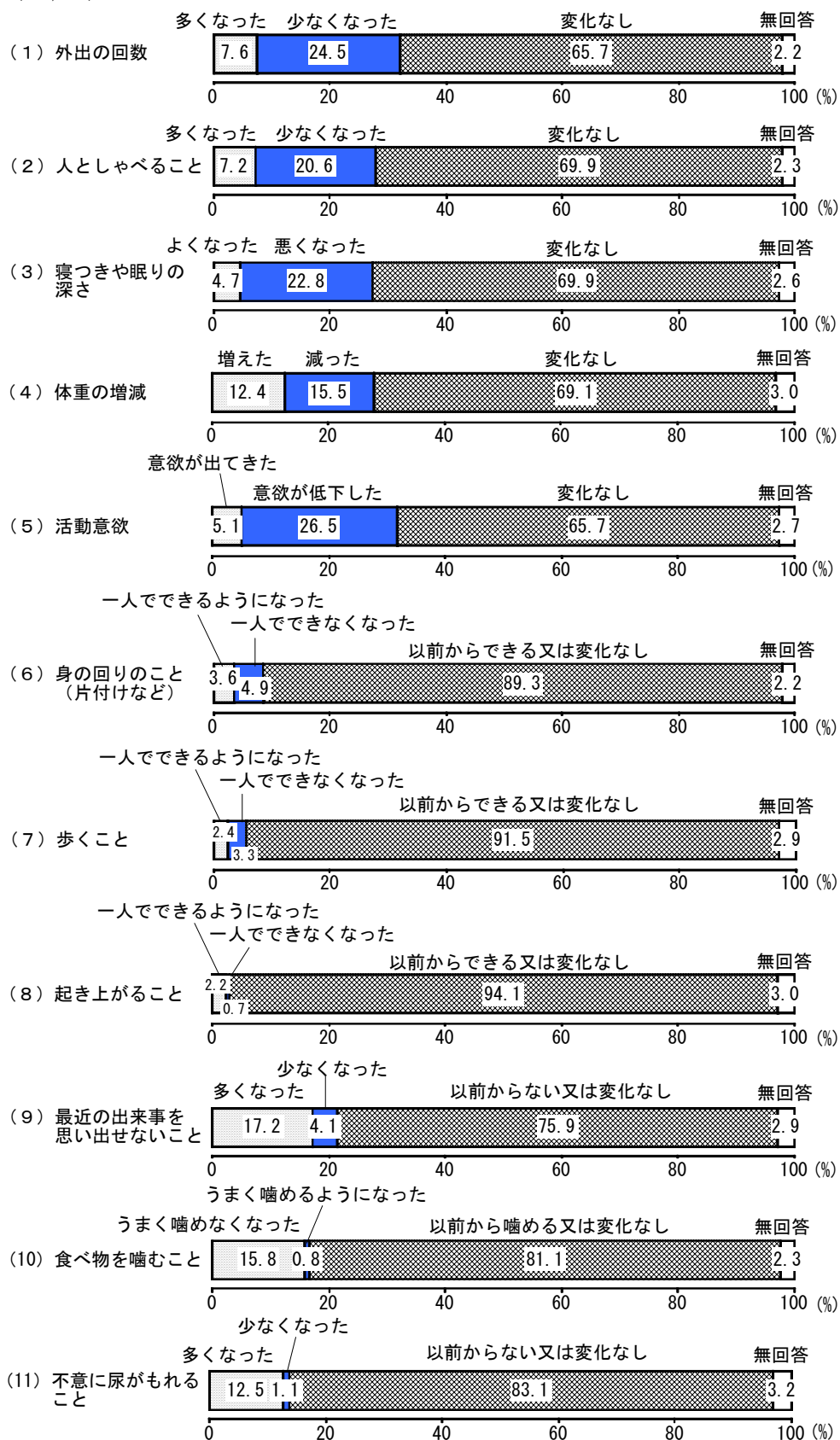
2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

図 1-10 最近半年間の心身の変化

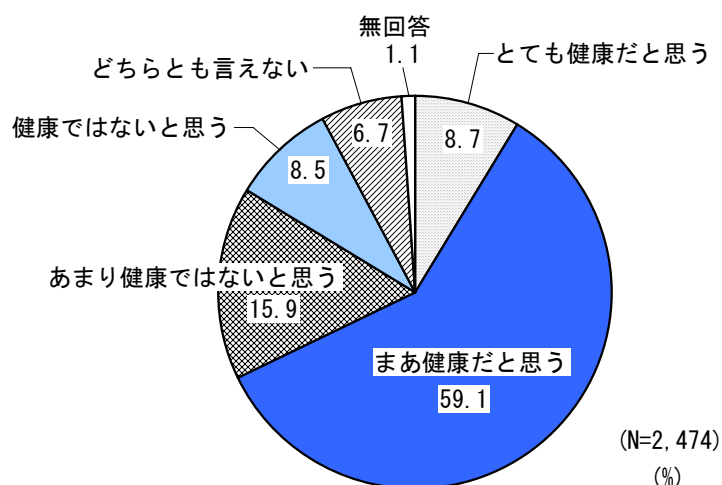
(N=2,474)



この半年間に心身の状態に変化が見られたかたずねたところ、いずれの項目でも「変化なし」が過半数を占めているが、『(1) 外出の回数』をはじめとして、『(5) 活動意欲』『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(2) 人としゃべること』の各項目では、悪化もしくは低下を表す回答が20%を超えている。

イ 日ごろの健康状態

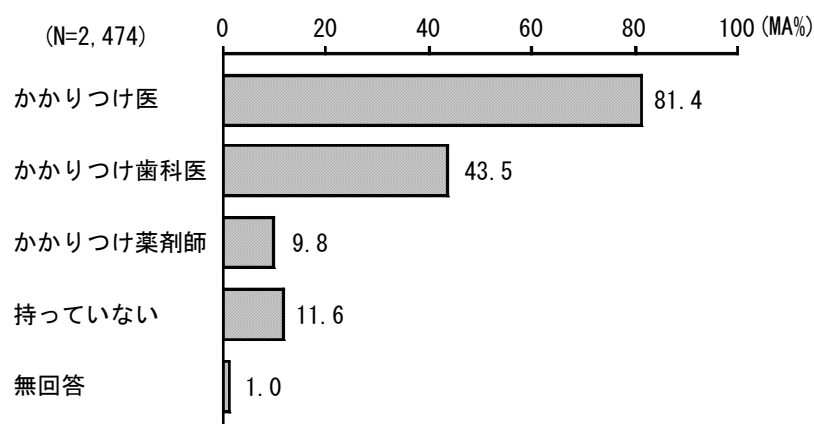
図 1-11 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う (計)』(「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合) が67.8%を占め、『健康ではないと思う (計)』(「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合) は24.4%となっている。

ウ かかりつけ医の有無

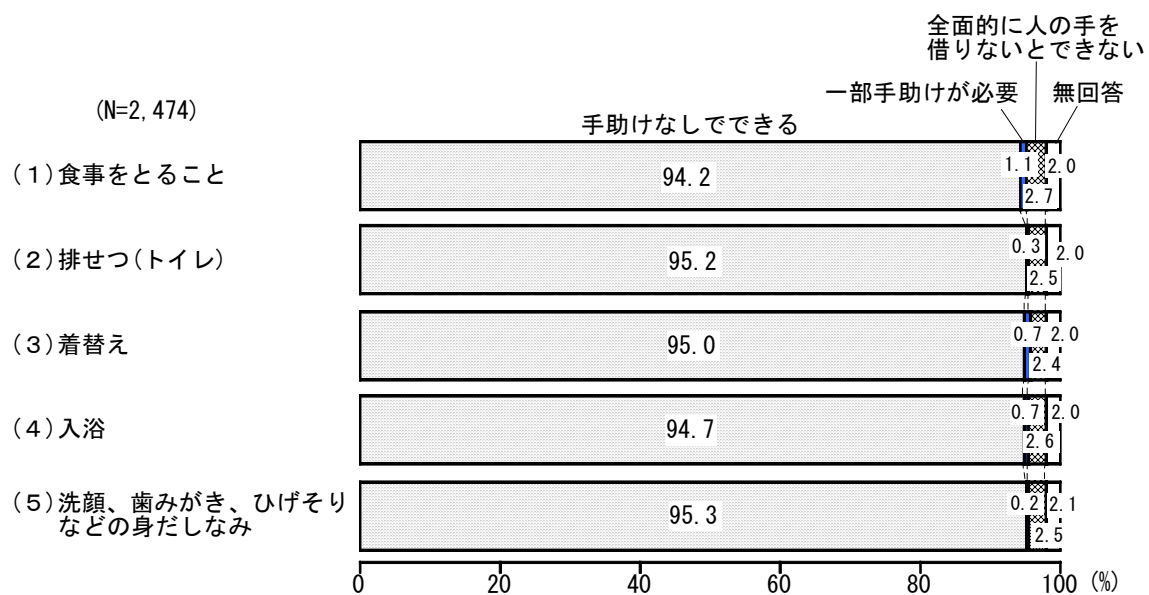
図 1-12 かかりつけ医の有無



かかりつけ医の有無については、「かかりつけ医」が81.4%を占め、次いで「かかりつけ歯科医」が43.5%、「かかりつけ薬剤師」が9.8%となっており、一方で「持っていない」は11.6%となっている。

(2) 日常生活動作（基本的A D L）

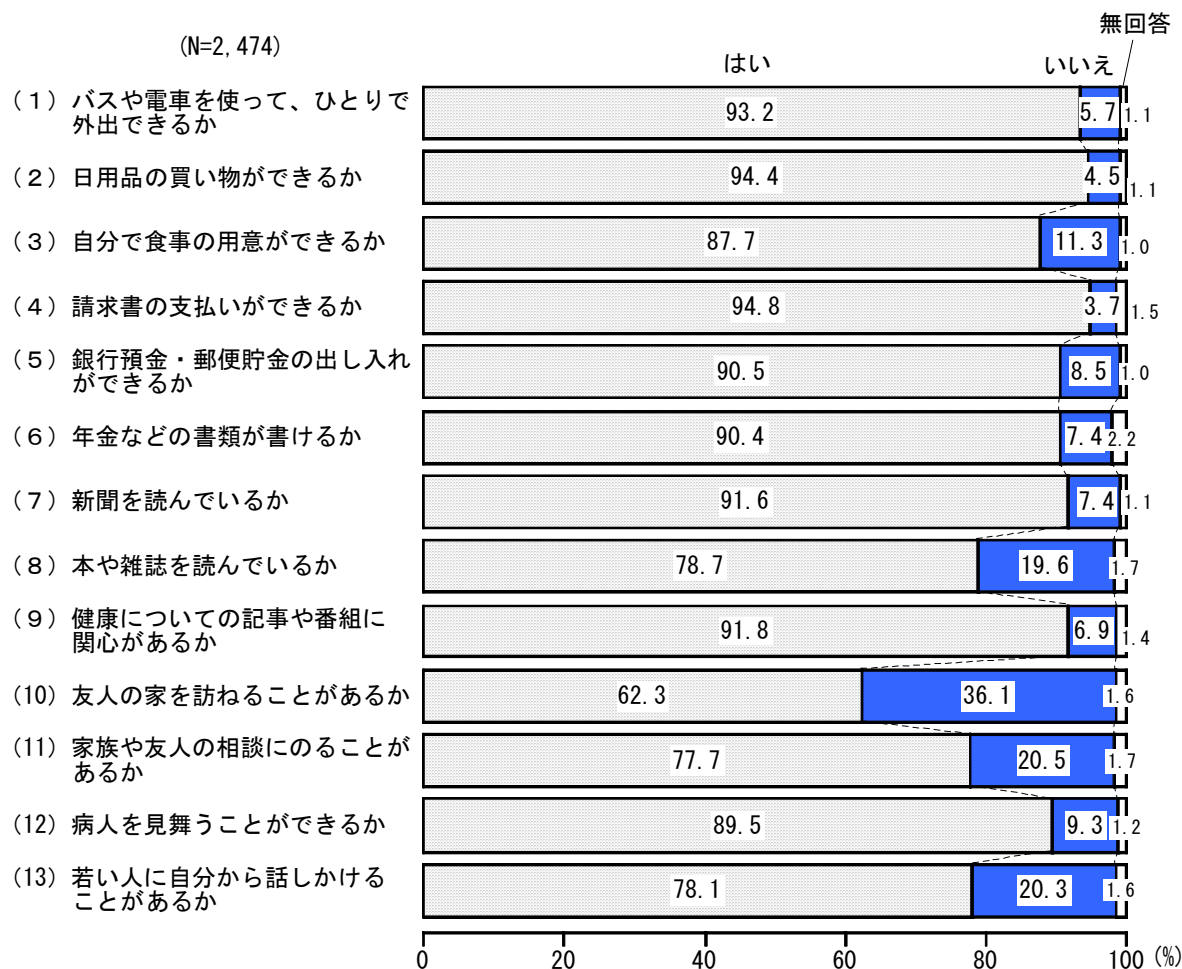
図 1-13 日常生活動作（基本的A D L）



基本的な日常基本動作についてみると、いずれの項目でも「手助けなしでできる」が90%以上を占めている。

(3) 老研式活動能力指標（高次A D L）

図 1-14 老研式活動能力指標（高次A D L）



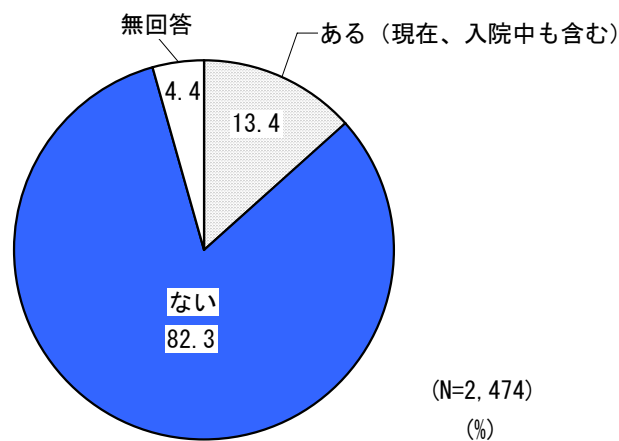
高次の日常生活動作をみると、老研式活動能力指標の13項目中9項目について「はい」が80%以上を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがあるか』(62.3%)、『(11) 家族や友人の相談にのることがあるか』(77.7%) などでは、やや割合が低くなっている。

老研式活動能力指標総合点の平均は11.3点となっている。

(4) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この1年間に入院した経験

図 1-15 この1年間に入院した経験



この1年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め13.4%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 1-4 現在治療を受けている病気

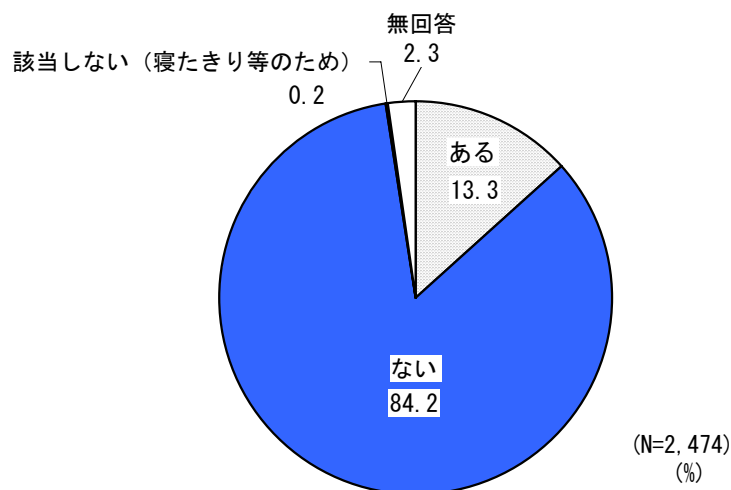
調査数 (N)	(上段：件 下段：MA%)																	
	高血圧症	腰痛、膝痛などの病気	眼の病気	歯の病気	高脂血症	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	糖尿病	消化器系疾患	泌尿器系疾患	耳、鼻の病気	呼吸器系疾患（喘息、肺炎など）	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	肝臓病	腎臓病	精神疾患	結核	その他	特にない
2474	901	605	495	467	281	279	259	239	182	150	132	101	81	53	52	6	203	388
100.0	36.4	24.5	20.0	18.9	11.3	11.3	10.5	9.7	7.3	6.1	5.3	4.1	3.3	2.1	2.1	0.2	8.2	15.7

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」が36.4%と最も多く、次いで「腰痛、膝痛などの病気」(24.5%)、「眼の病気」(20.0%)、「歯の病気」(18.9%)の順となっている。

(5) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

図 1-16 この1年間に転倒してケガをした経験

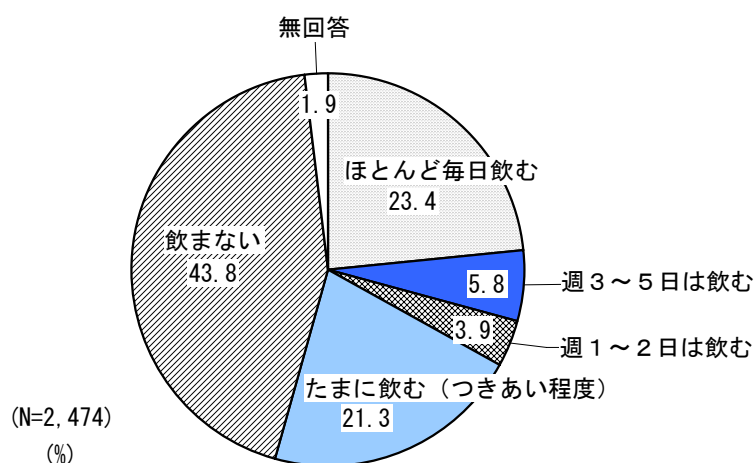


この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、13.3%となっている。

(6) 飲酒・喫煙の習慣

ア 飲酒の状況

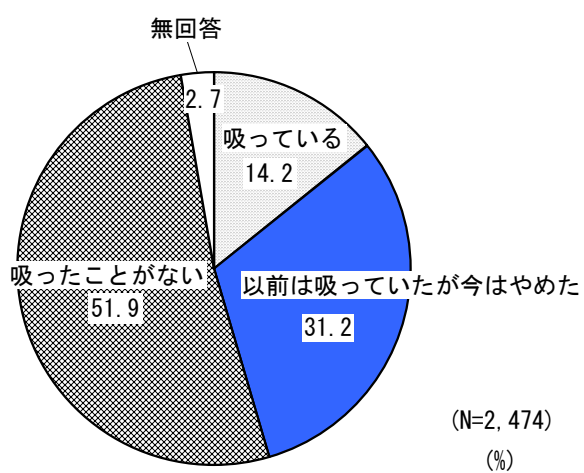
図 1-17 飲酒の状況



週1回以上の飲酒習慣のある人は33.1%であり、「ほとんど毎日飲む」が23.4%となっている。

イ 喫煙の状況

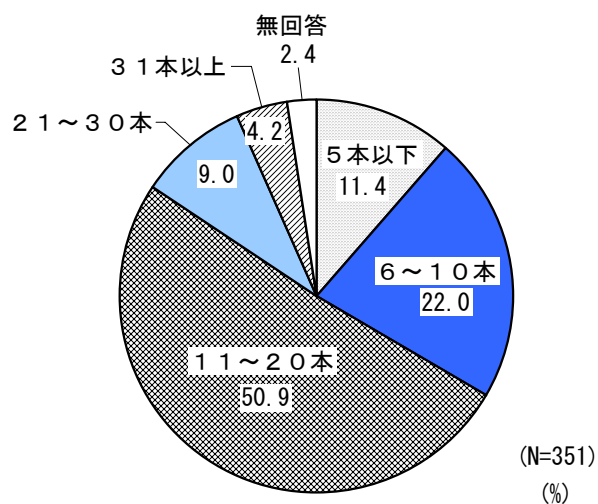
図 1-18 喫煙の状況



現在、喫煙の習慣のある人は全体の14.2%であり、「以前は吸っていたが今はやめた」(31.2%)を含めると45.4%となる。

ウ 1日の喫煙本数

図 1-19 1日の喫煙本数

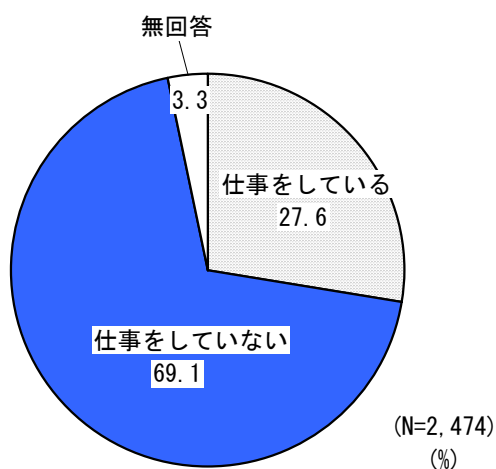


1日の喫煙本数をみると、「11~20本」が50.9%と最も多く、次いで「6~10本」が22.0%で、平均本数は16.6本となっている。

(7) 就労状況

ア 就労の有無

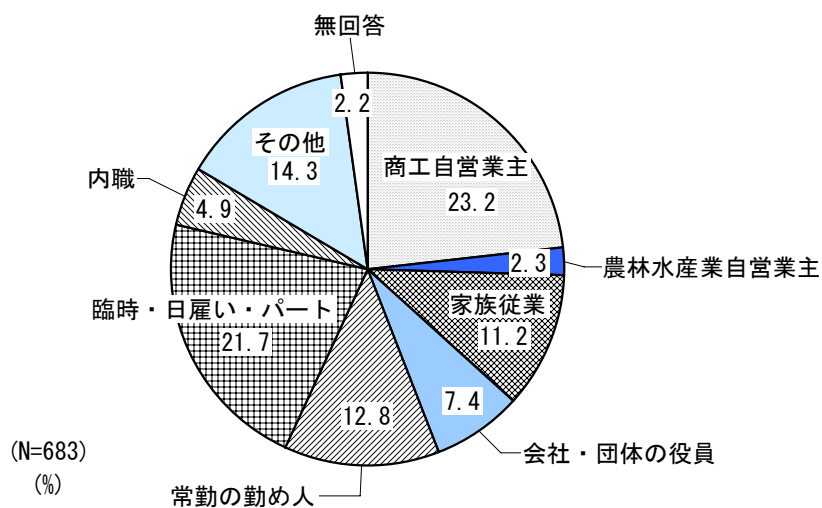
図 1-20 就労の有無



現在，就労している人は27.6%，就労していない人は69.1%となっている。

イ 就労形態

図 1-21 就労形態

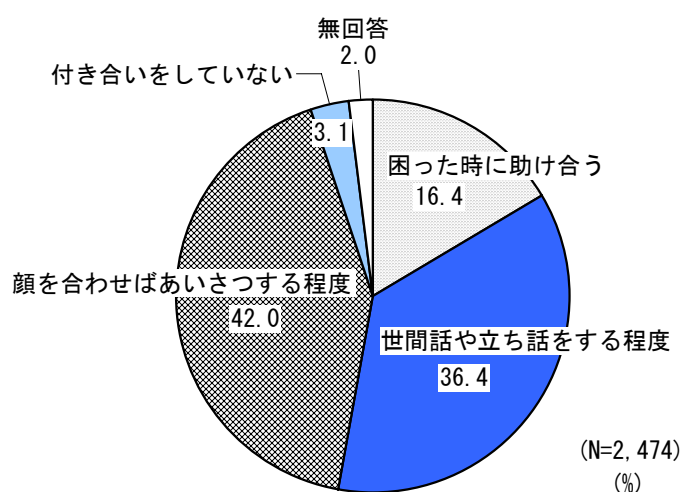


就労している場合の形態は，「商工自営業主」が23.2%と最も多く，次いで「臨時・日雇い・パート」(21.7%)，「常勤の勤め人」(12.8%)，「家族従業」(11.2%)の順となっている。

(8) 近所付き合い

ア 近所付き合いの程度

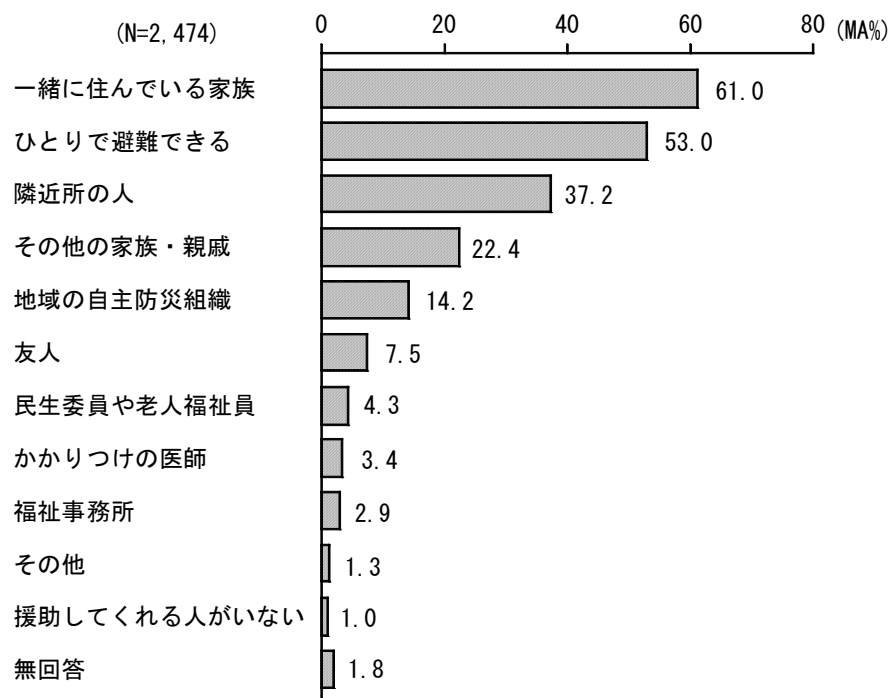
図 1-22 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度をみると、「顔を合わせばあいさつする程度」が42.0%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」(36.4%)、「困った時に助け合う」(16.4%)となっている。

イ 災害時に避難が必要になった場合の援助者

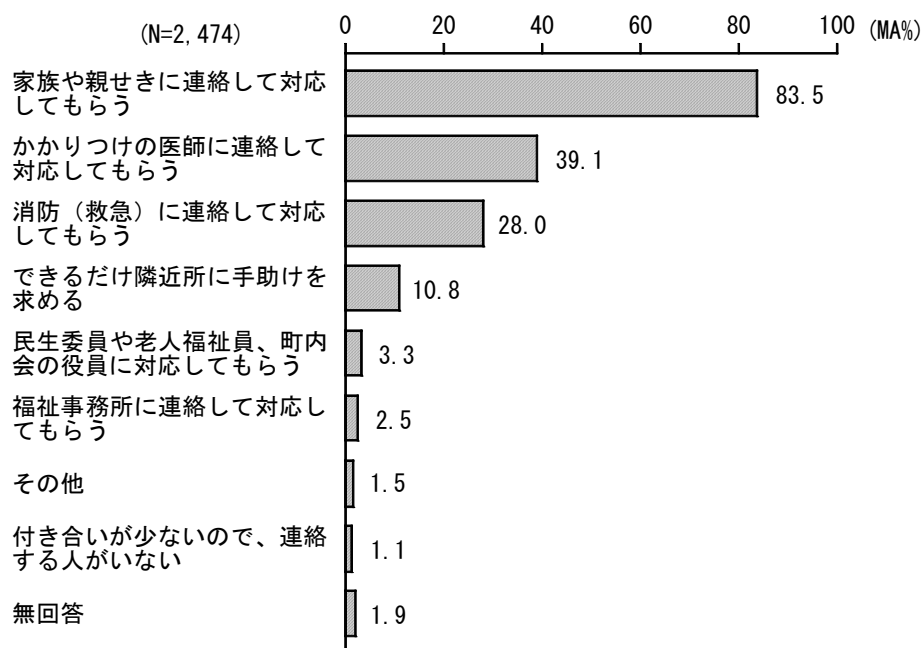
図 1-23 災害時に避難が必要になった場合の援助者



災害時に避難が必要になった場合の援助者については、「一緒に住んでいる家族」が61.0%で最も多く、次いで「ひとりで避難できる」が53.0%、「隣近所の人」が37.2%、「その他の家族・親戚」が22.4%となっている。

ウ 急病時の対処方法

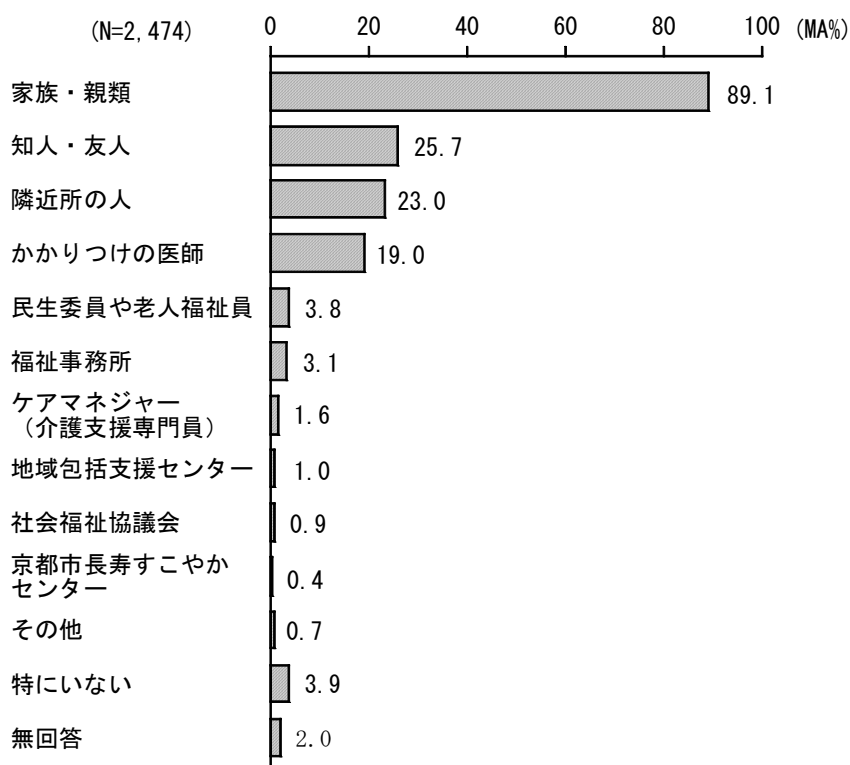
図 1-24 急病時の対処方法



急病時の対処方法については、「家族や親せきに連絡して対応してもらう」が83.5%で最も多く、次いで「かかりつけの医師に連絡して対応してもらう」が39.1%、「消防（救急）に連絡して対応してもらう」が28.0%となっている。

エ 相談相手

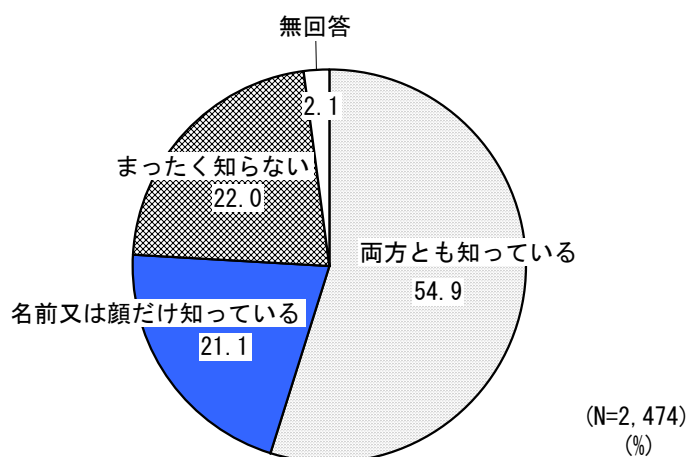
図 1-25 相談相手



相談相手については、「家族・親類」が89.1%で圧倒的に多くなっている。それ以外では、「知人・友人」が25.7%、「隣近所の人」が23.0%、「かかりつけの医師」が19.0%となっている。

オ 地域の町内会長の認知状況

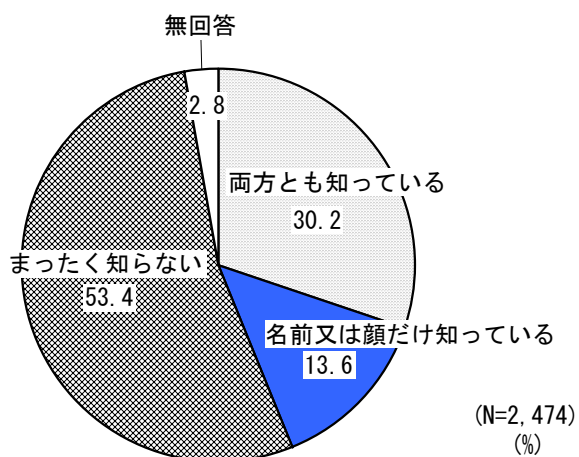
図 1-26 地域の町内会長の認知状況



地域の町内会長（自治会長）の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「両方とも知っている」が最も多く54.9%で、「名前又は顔だけ知っている」は21.1%、「まったく知らない」は22.0%となっている。

カ 地域の民生委員の認知状況

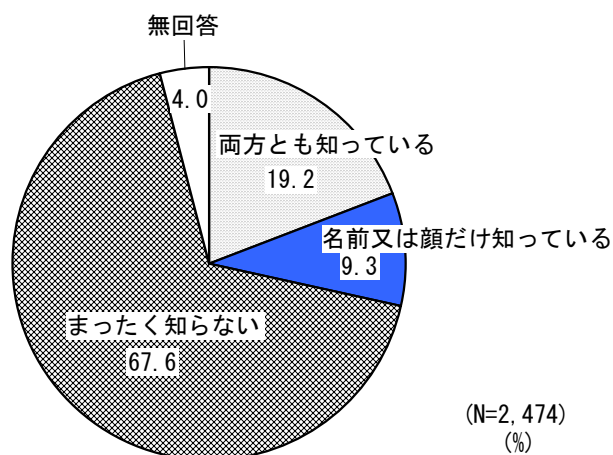
図 1-27 地域の民生委員の認知状況



地域の民生委員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く53.4%で、「両方とも知っている」は30.2%、「名前又は顔だけ知っている」は13.6%となっている。

キ 地域の老人福祉員の認知状況

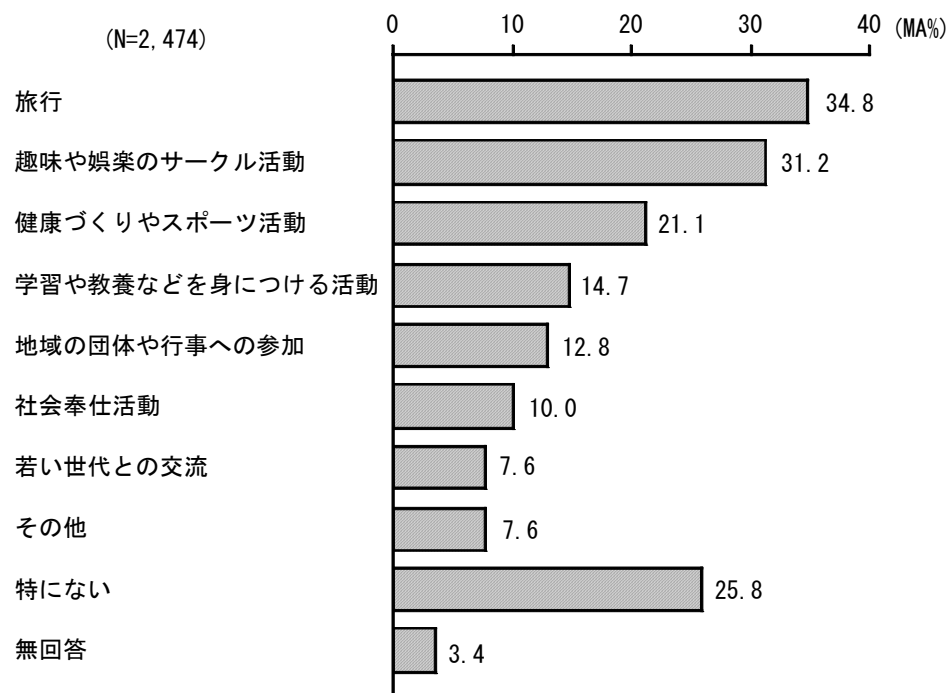
図 1-28 地域の老人福祉員の認知状況



地域の老人福祉員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く67.6%で、「両方とも知っている」は19.2%、「名前又は顔だけ知っている」は9.3%となっている。

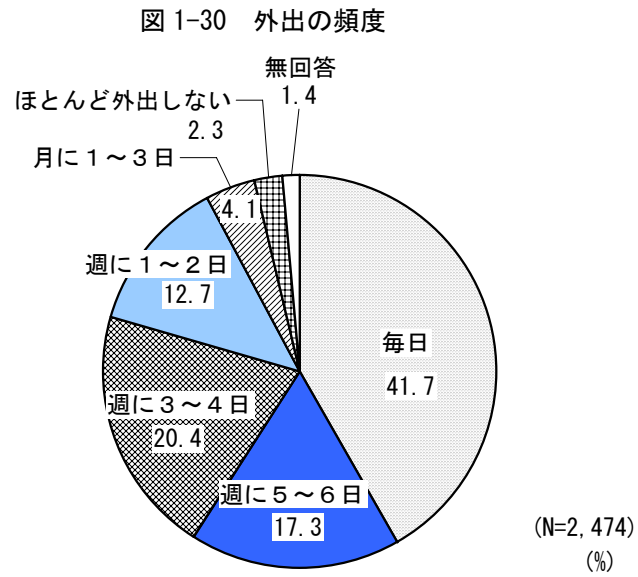
(9) 生きがいを感じる活動

図 1-29 生きがいを感じる活動



現在生きがいを感じる活動は、「旅行」が34.8%と最も多く、次いで「趣味や娯楽のサークル活動」(31.2%)、「健康づくりやスポーツ活動」(21.1%)、「学習や教養などを身につける活動」(14.7%) などとなっている。

(10) 外出の頻度

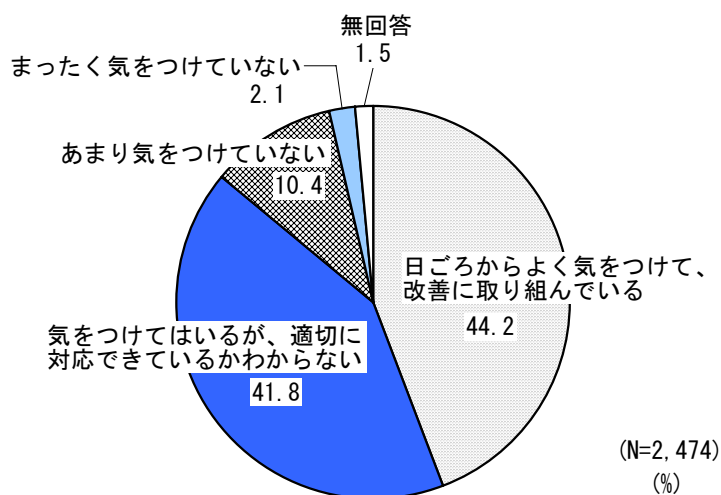


外出する頻度をみると、「毎日」が41.7%と最も多く、次いで「週に3～4日」(20.4%)、「週に5～6日」(17.3%)、「週に1～2日」(12.7%)の順となっている。

3 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

図 1-31 心身の変化への対応・改善の有無

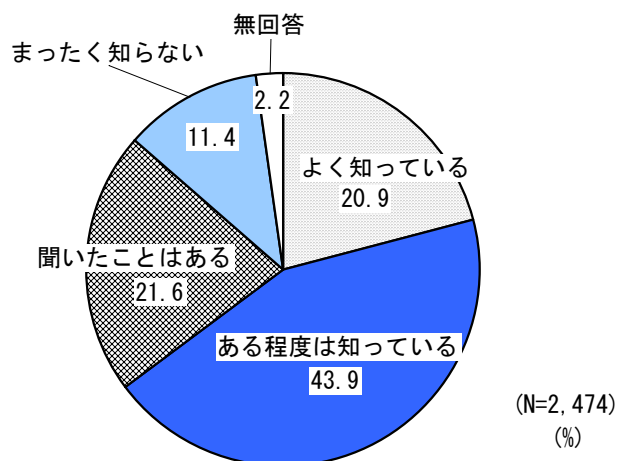


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の86%を占め、「改善に取り組んでいる」人は44.2%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 介護予防の認知状況

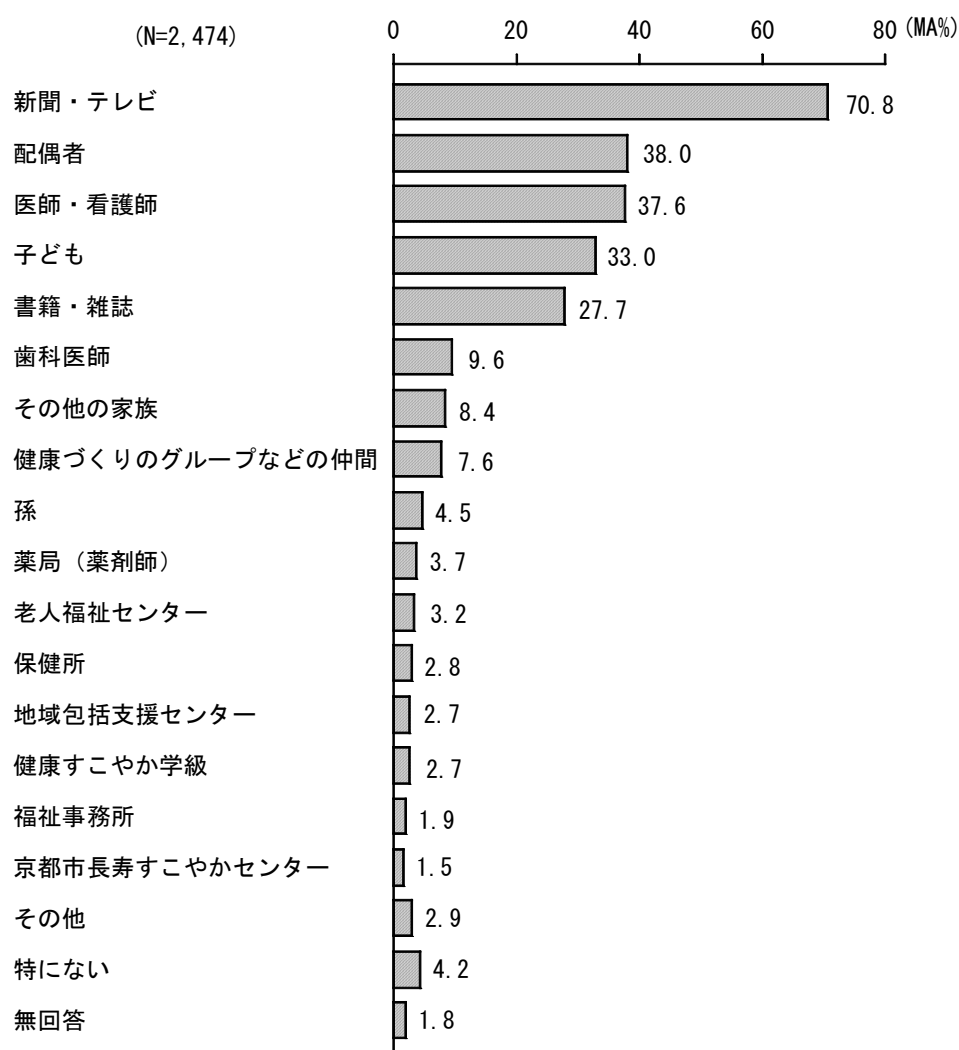
図 1-32 介護予防の認知状況



介護予防について『知っている（計）』（「よく知っている」に「ある程度は知っている」を加えた割合）と答えた人は64.8%となっている。

イ 介護予防等に関する情報の入手方法

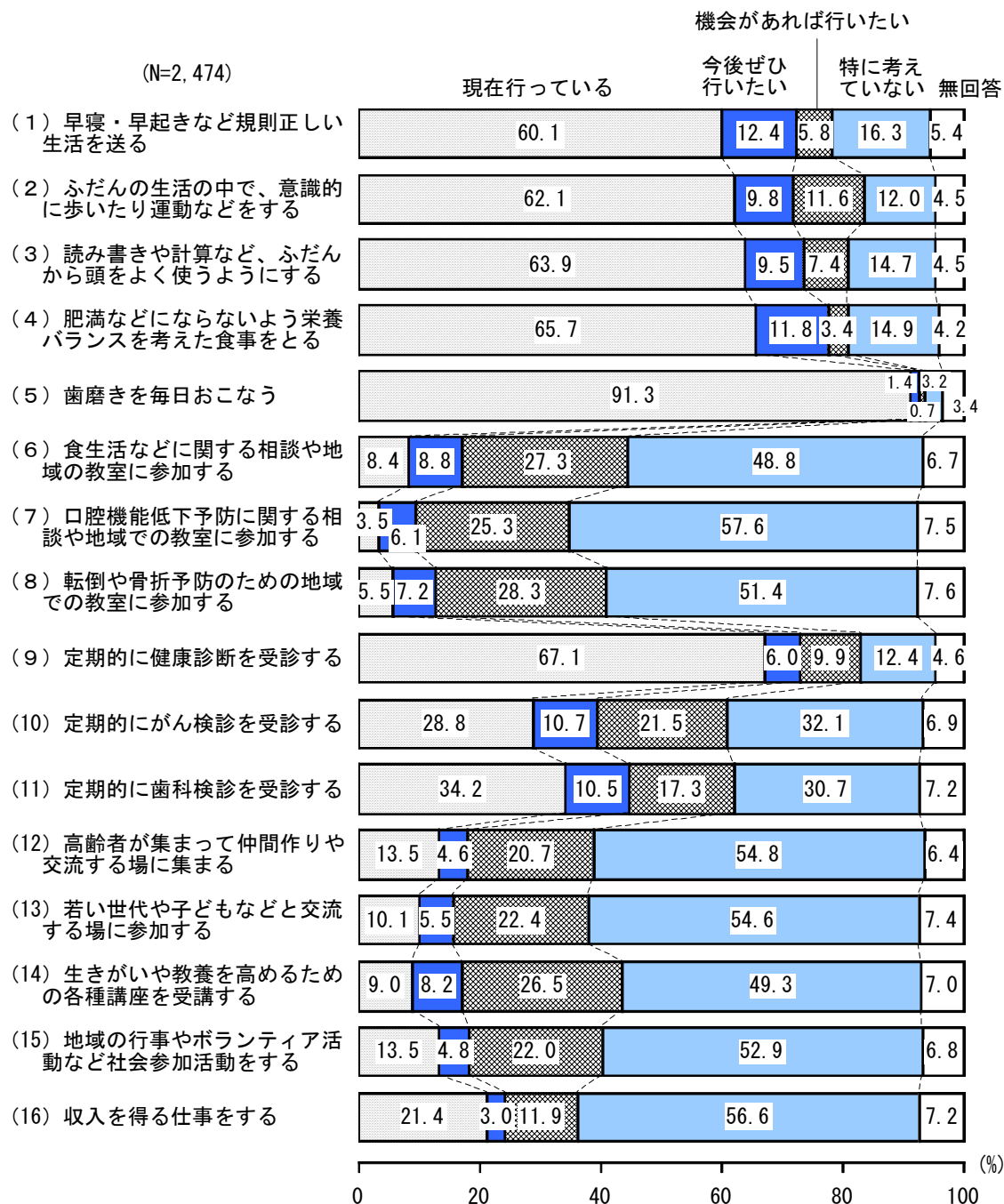
図 1-33 介護予防等に関する情報の入手方法



介護予防等に関する情報の入手方法は、「新聞・テレビ」が70.8%と最も多く、次いで「配偶者」(38.0%)、「医師・看護師」(37.6%)、「子ども」(33.0%)の順となっている。

ウ 病気・老化の予防のために取り組んでいること・取組への考え

図 1-34 病気・老化の予防のために取り組んでいること・取組への考え



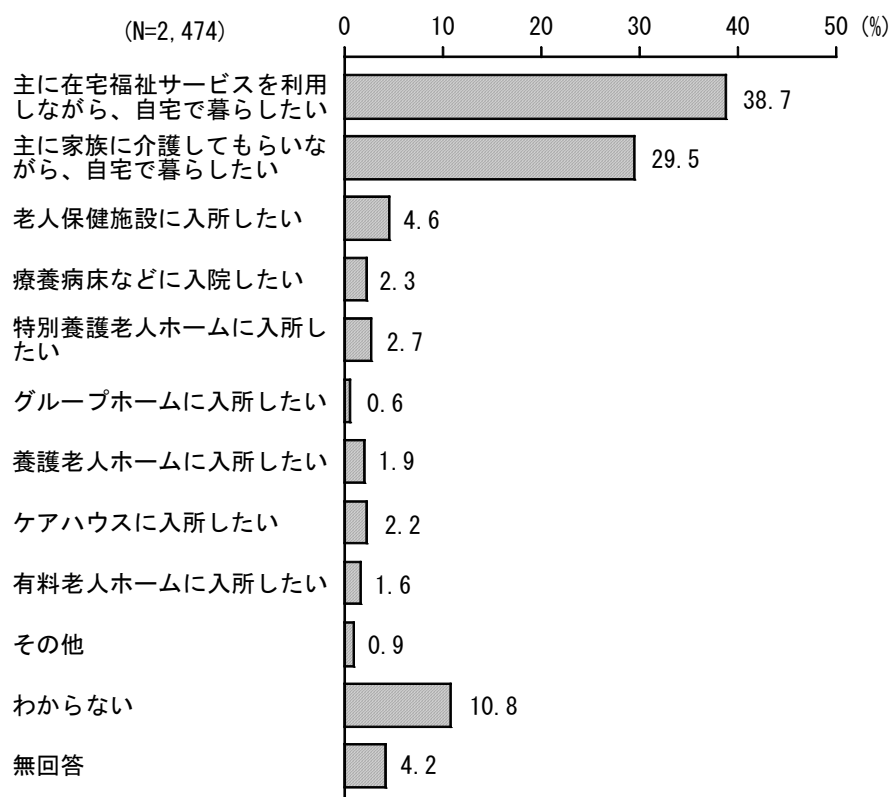
病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、『歯磨きを毎日おこなう』が91.3%と最も多く、次いで『定期的に健康診断を受診する』(67.1%)、『肥満などにならないよう栄養バランスを考えた食事をする』(65.7%)、『読み書きや計算など、ふだんから頭を使うようにする』(63.9%) などとなっている。

今後の取組への考えをみると、意向(「今後ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合)の高い活動は、『食生活などに関する相談や地域の教室に参加する』(36.1%)、『転倒や骨折予防のための地域での教室に参加する』(35.5%)、『生きがいや教養を高めるための各種講座を受講する』(34.7%)、『口腔機能低下予防に関する相談や地域での教室に参加する』(31.4%) などである。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

ア 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

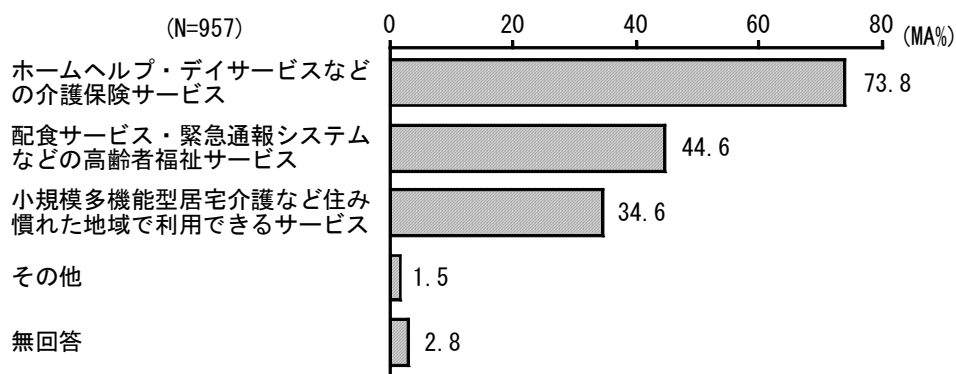
図 1-35 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方



調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が38.7%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が29.5%となっており、合計すると全体の68.2%が自宅での生活を希望している。

イ 在宅福祉サービスの利用意向

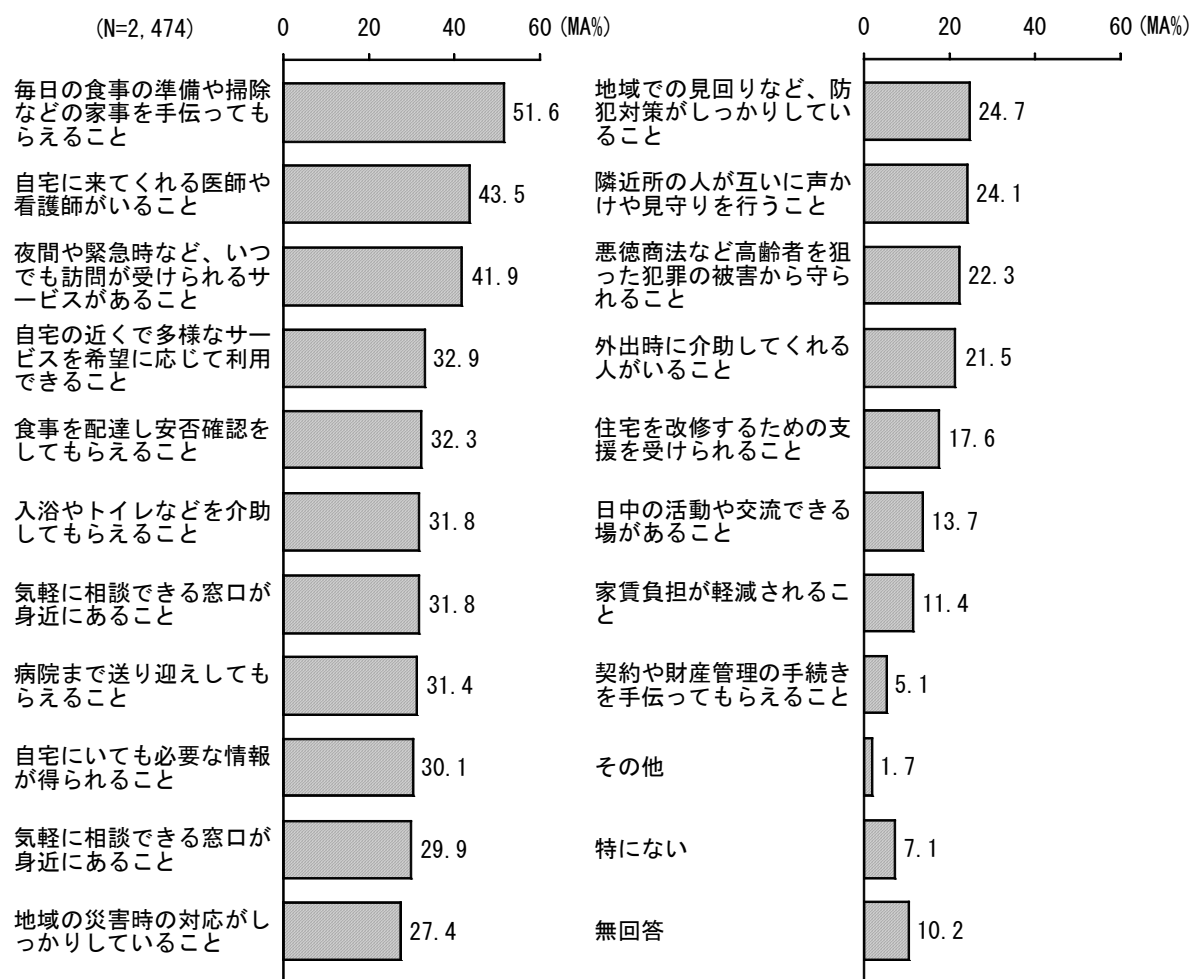
図 1-36 在宅福祉サービスの利用意向



自宅で在宅福祉サービスを利用しながら暮らしていく場合に利用したいサービスについては、「ホームヘルプ・デイサービスなどの介護保険サービス」が73.8%で最も多く、次いで「配食サービス・緊急通報システムなどの高齢者福祉サービス」(44.6%)となっている。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 1-37 在宅生活を続けていく上で必要な支援

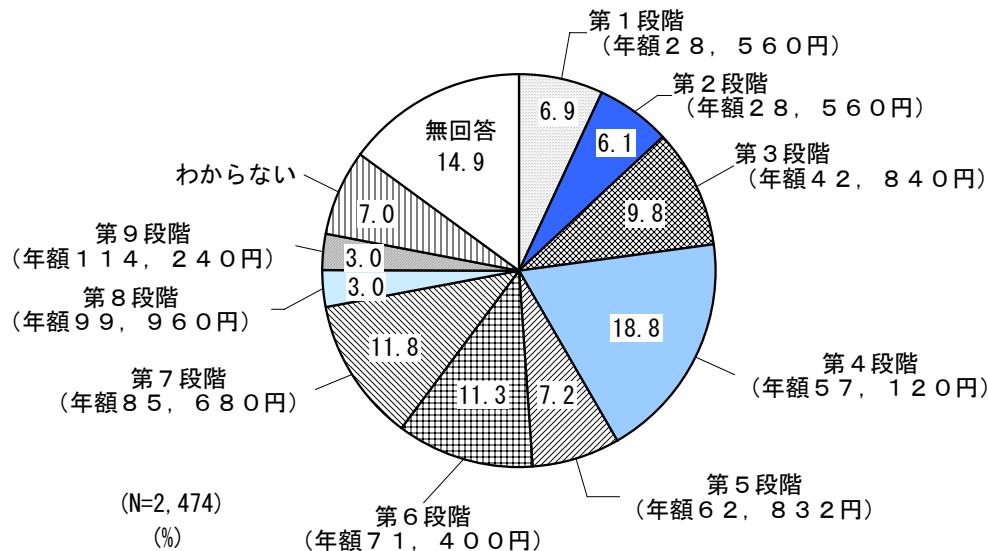


在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が51.6%と最も多く、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(43.5%)、「夜間や緊急時など、いつでも訪問が受けられるサービスがあること」(41.9%)、「自宅の近くで多様なサービスを希望に応じて利用できること」(32.9%)、「食事を配達し安否確認をしてもらえること」(32.3%) などとなっている。

4 介護保険制度について

(1) 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

図 1-38 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

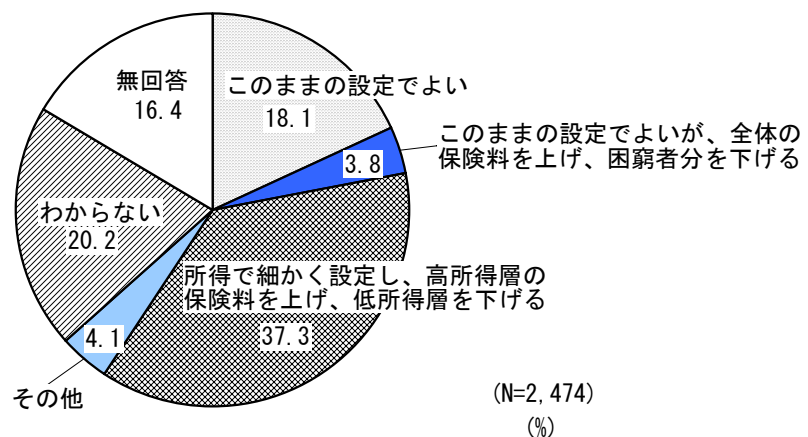


第1号被保険者保険料の所得段階別区分は、「第4段階」が18.8%、「第7段階」が11.8%「第3段階」が9.8%と多くなっている。

(2) 保険料の設定および給付・負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定方法について

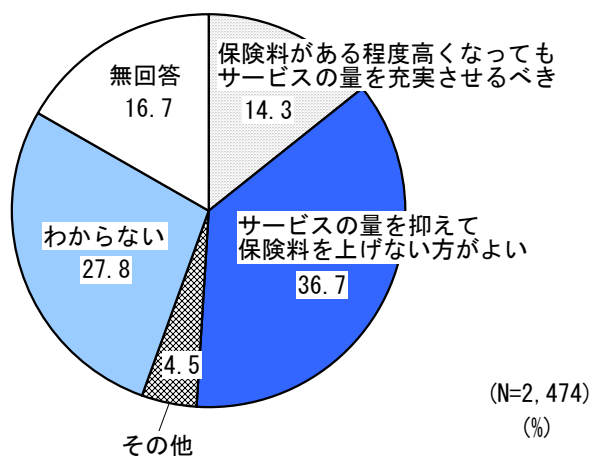
図 1-39 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得で細かく設定し、高所得層の保険料を上げ、低所得層を下げる」が37.3%と多く、「このままの設定でよい」は18.1%、「このままの設定でよいが、全体の保険料を上げ、困窮者分を下げる」は3.8%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

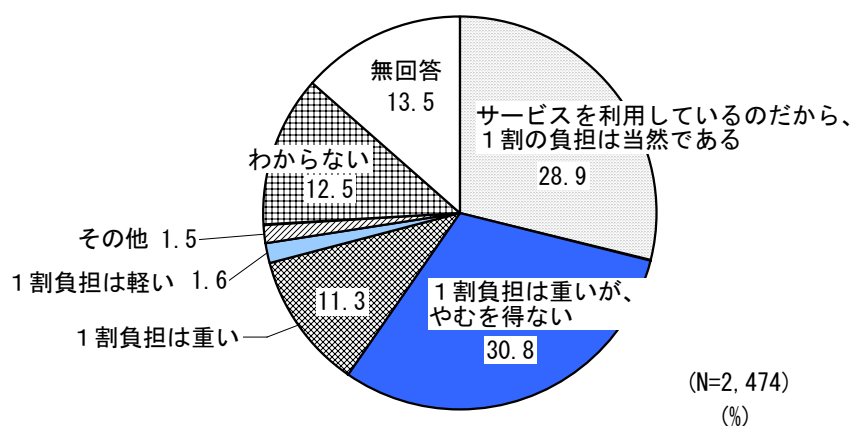
図 1-40 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「サービスの量を抑えて保険料を上げない方がよい」が36.7%で最も多く、「保険料がある程度高くなってもサービスの量を充実させるべき」は14.3%となっている。

ウ 利用者負担について

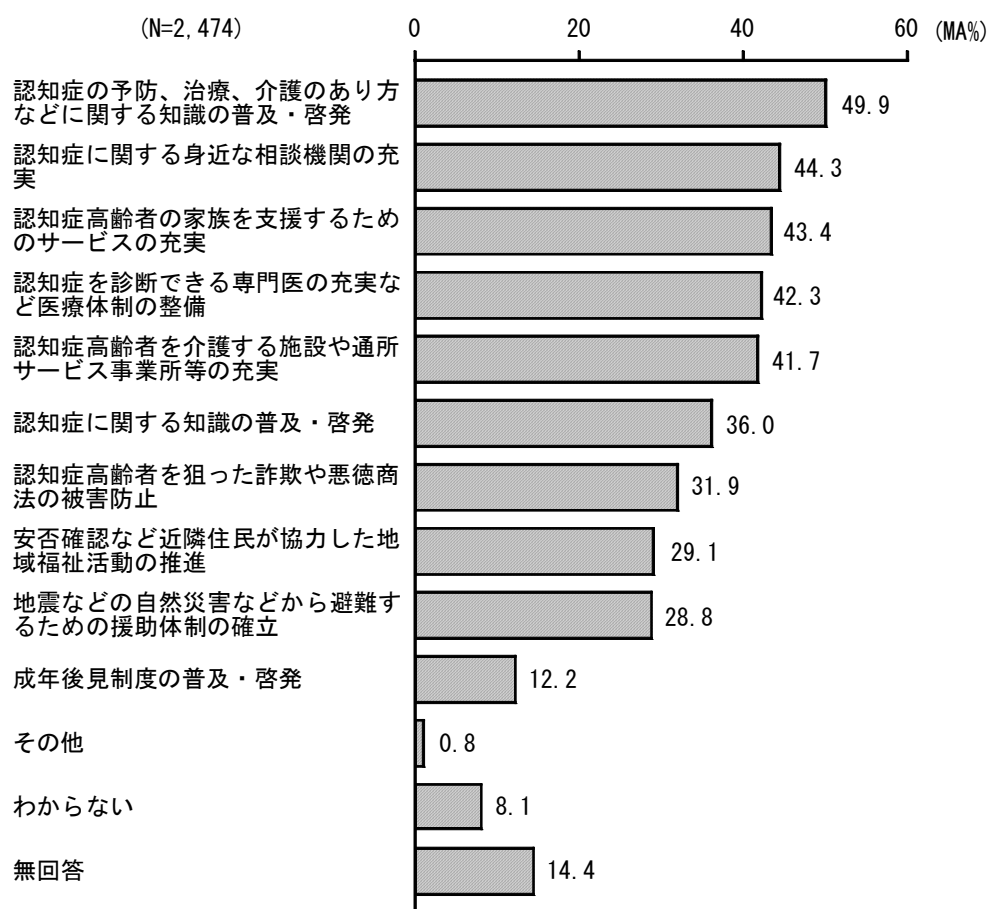
図 1-41 利用者負担について



介護サービス利用料の1割負担については、「1割負担は重い、やむを得ない」が30.8%と最も多く、「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」も28.9%と多くなっている。

(3) 認知症高齢者対策で必要なこと

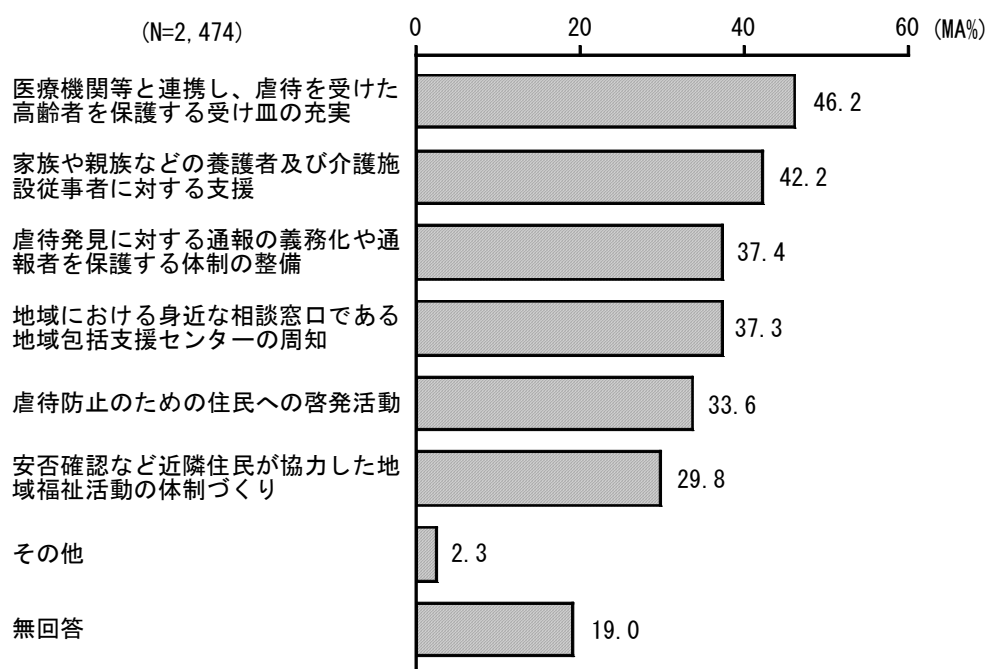
図 1-42 認知症高齢者対策で必要なこと



今後、必要だと思う認知症高齢者対策としては、「認知症の予防、治療、介護のあり方などに関する知識の普及・啓発」が49.9%で最も多く、次いで「認知症に関する身近な相談機関の充実」が44.3%、「認知症高齢者の家族を支援するためのサービスの充実」が43.4%、「認知症を診断できる専門医の充実など医療体制の整備」が42.3%、「認知症高齢者を介護する施設や通所サービス事業所等の充実」が41.7%となっている。

(4) 高齢者虐待防止に関する重要な取組

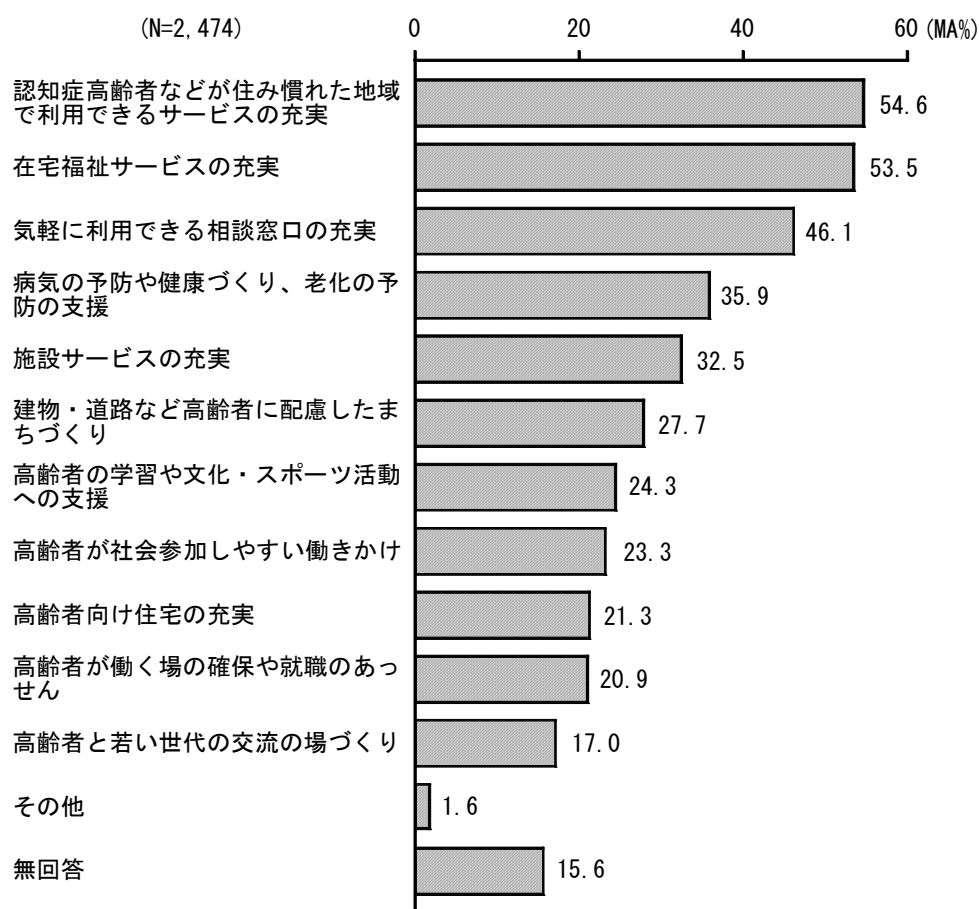
図 1-43 高齢者虐待防止に関する重要な取組



高齢者虐待防止に関する重要な取組については、「医療機関等と連携し、虐待を受けた高齢者を保護する受け皿の充実」が46.2%で最も多く、次いで「家族や親族などの養護者及び介護施設従事者に対する支援」が42.2%、「虐待発見に対する通報の義務化や通報者を保護する体制の整備」が37.4%、「地域における身近な相談窓口である地域包括支援センターの周知」が37.3%となっている。

(5) 高齢者保健福祉について充実を希望する施策

図 1-44 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「認知症高齢者などが住み慣れた地域で利用できるサービスの充実」が54.6%で最も多く、次いで「在宅福祉サービスの充実」(53.5%)、「気軽に利用できる相談窓口の充実」(46.1%)、「病気の予防や健康づくり、老化の防止の支援」(35.9%)、「施設サービスの充実」(32.5%)となっている。

第3章 居宅サービス利用者調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 2-1 記入者

調査数 (N)	(上段：件 下段：%)			
	宛名の本人	家族	その他	無回答
1837	870	779	16	172
100.0	47.4	42.4	0.9	9.3

アンケートの回答者は、「宛名の本人」47.4%に対し、「家族」が42.4%となっている。

イ 本人が回答できない理由

表 2-2 本人が回答できない理由

調査数 (N)	(上段：件 下段：%)									
	病院に入院中	老人ホームなど（介護保険施設に特別入所など）	病气やけが	物が忘れがあり、意思疎通が時々難しい	認知症のため意思疎通が難しい	障害（身体障害、知的障害など）	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
795	74	61	35	175	161	164	6	10	87	23
100.0	9.3	7.7	4.5	21.9	20.2	20.7	0.7	1.3	10.9	2.9

本人が回答できない理由としては、「物忘れがあり、意思疎通が時々難しい」が21.9%と最も多く、次いで「障害（身体障害、知的障害など）」(20.7%)、「認知症のため意思疎通がいつも難しい」(20.2%) がそれぞれ2割を超えている。

(2) 年齢別・性別構成

図 2-1 年齢構成

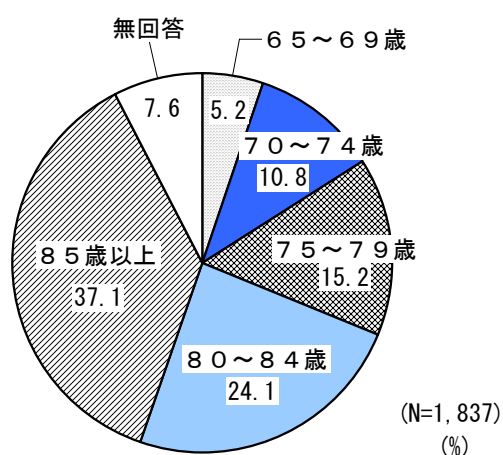
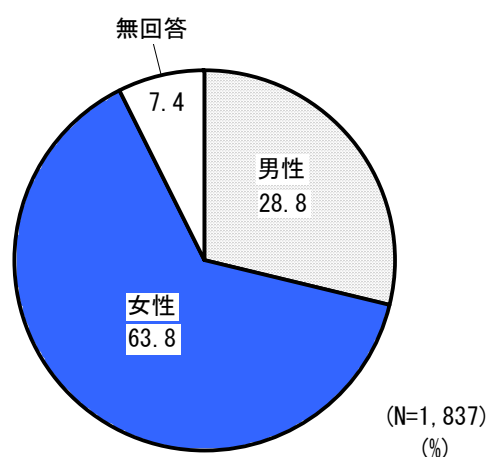


図 2-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「85歳以上」が37.1%と最も多く、次いで「80～84歳」(24.1%)、「75～79歳」(15.2%)と、年齢が上がるほど割合も高くなっている。

性別構成については、男性28.8%、女性63.8%と、女性の方が35ポイント多くなっている。

(3) 居住地域

ア 居住地区

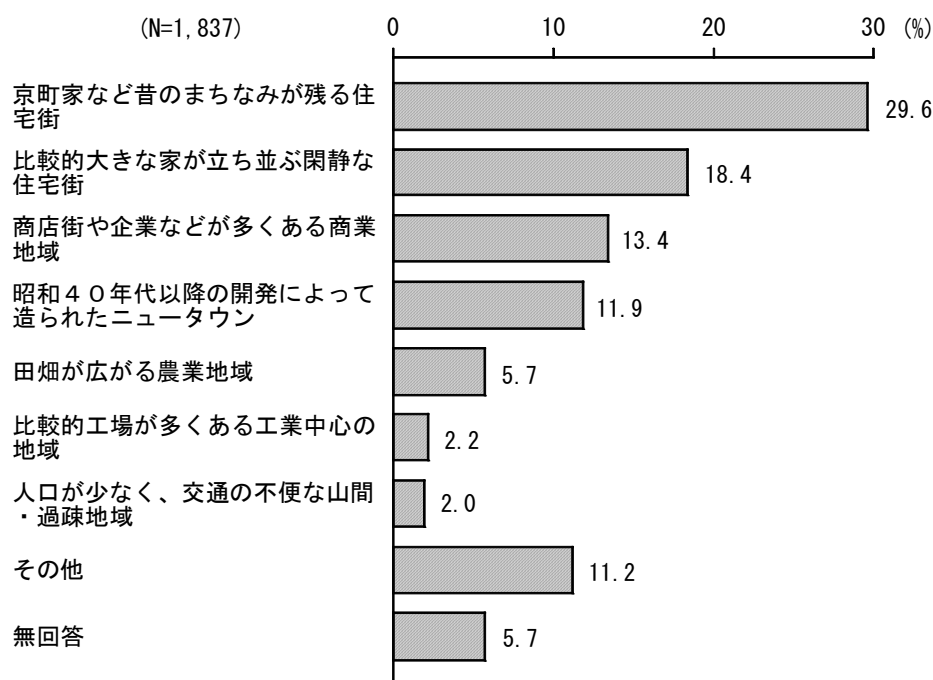
表 2-3 居住地区

調査数 (N)	(上段：件 下段：%)														
	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
1837	180	126	220	155	86	134	105	96	247	131	11	268	19	20	37
100.0	9.8	6.9	12.0	8.4	4.7	7.3	5.7	5.2	13.5	7.2	0.6	14.6	1.1	1.1	2.0

居住地区は、「左京区」「右京区」「伏見区」の3区が10%を超えている。

イ 地域の特性

図 2-3 地域の特性

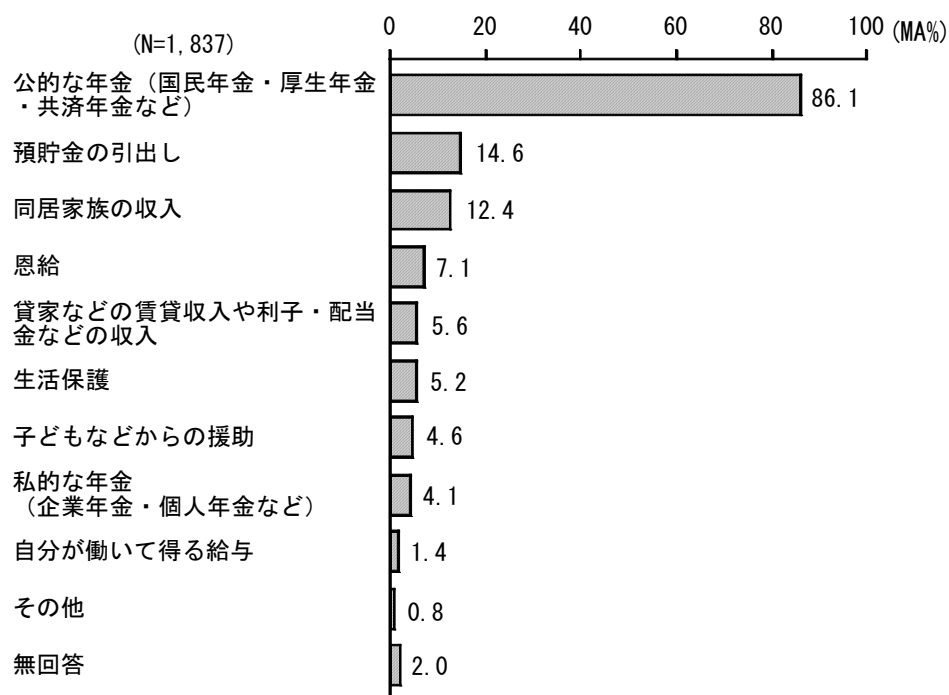


住まいの地域については、「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」が29.6%と最も多く、次いで「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」(18.4%)、「商店街や企業などがある商業地域」(13.4%)となっている。

(4) 収入

ア 主な収入源

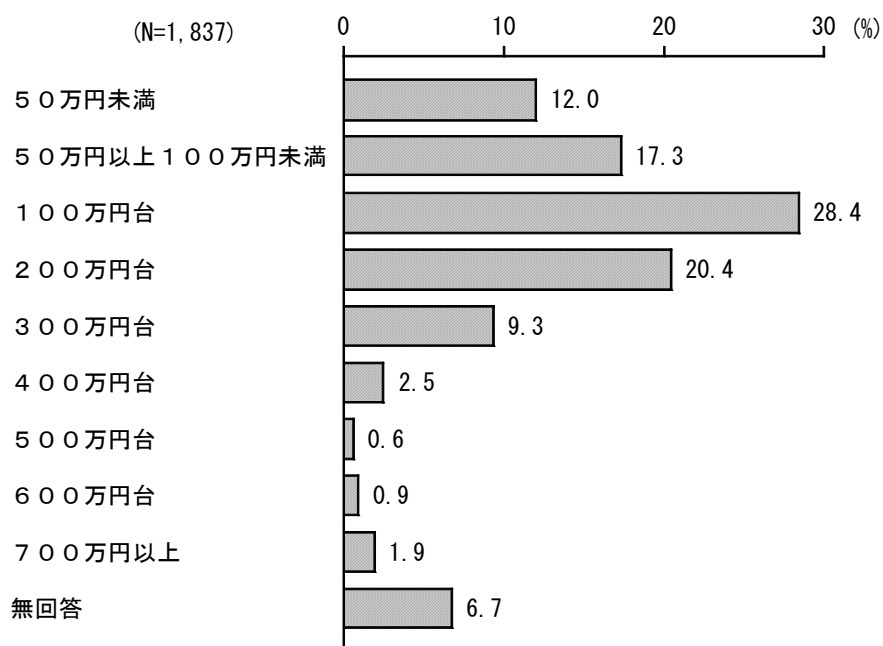
図 2-4 主な収入源



主な収入源については、「公的な年金 (国民年金・厚生年金・共済年金など)」が86.1%で圧倒的に多く、次いで「預貯金の引出し」が14.6%、「同居家族の収入」が12.4%となっている。

イ 本人の年収

図 2-5 本人の年収

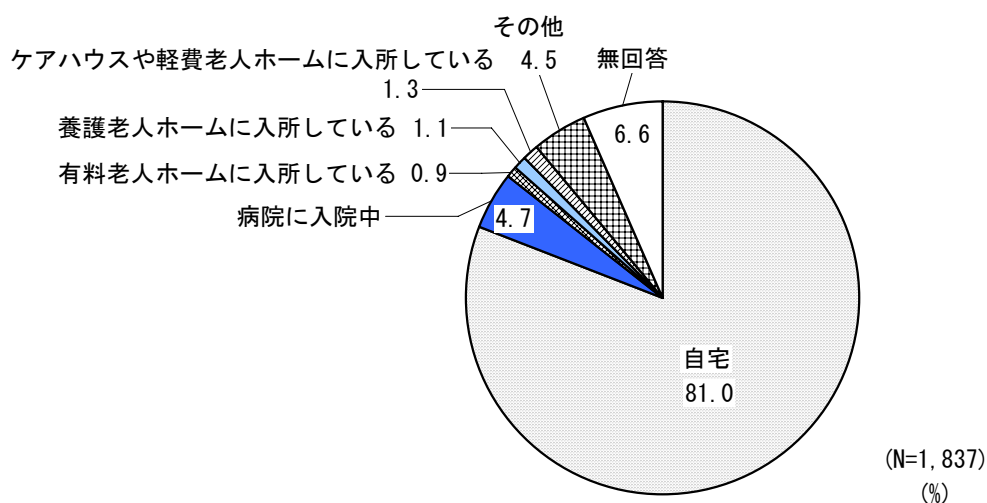


調査対象者本人の年収は、「100万円台」が28.4%と最も多く、次いで「200万円台」(20.4%)、「50万円以上100万円未満」(17.3%)となっている。

(5) 住居形態

ア 現在の居場所

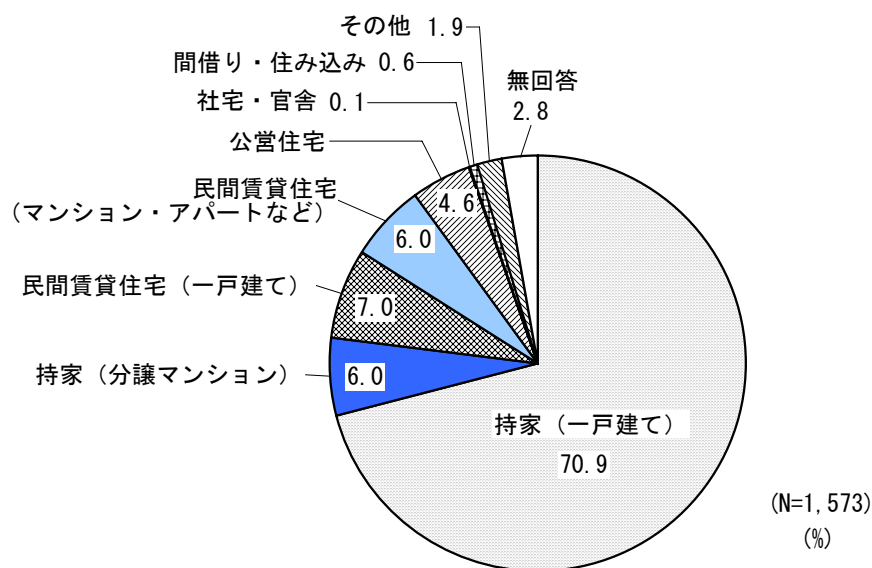
図 2-6 現在の居場所



現在の居場所としては、「自宅」が81.0%を占め、そのほかは「病院に入院中」(4.7%)、「ケアハウスや軽費老人ホームに入所している」(1.3%) などとなっている。

イ 住まいの形態

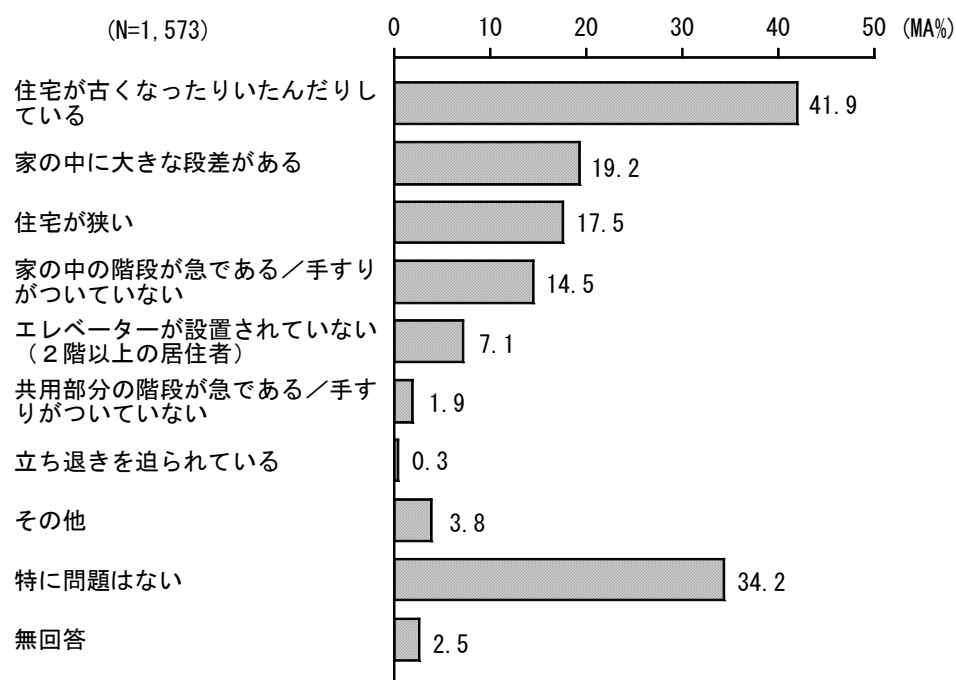
図 2-7 住まいの形態



自宅または入院中の人の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が70.9%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（一戸建て）」が7.0%、「持家（分譲マンション）」「民間賃貸住宅（マンション・アパート）」が共に6.0%となっている。

ウ 住まいの状況

図 2-8 住まいの状況

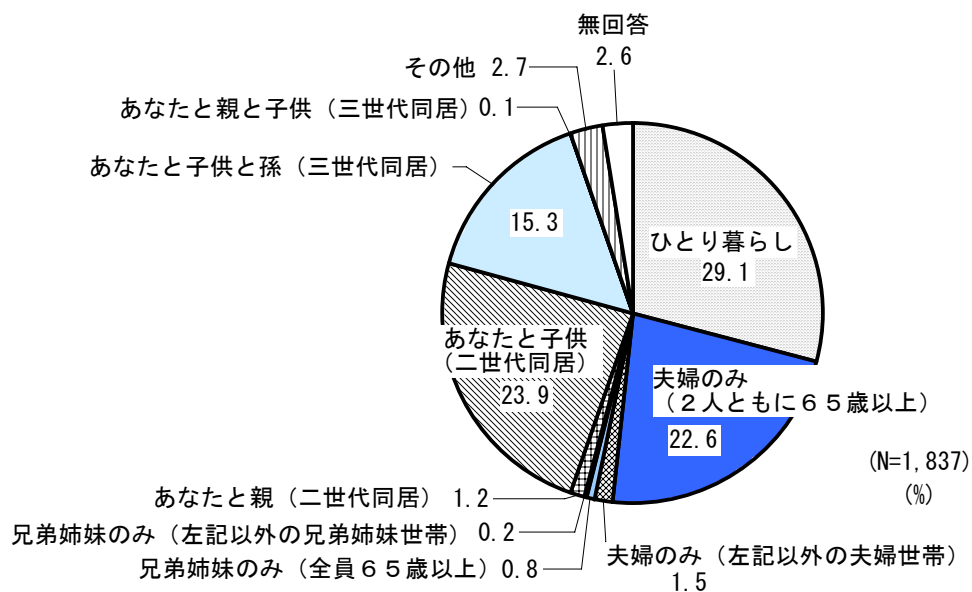


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が41.9%と最も多く、次いで「家の中に大きな段差がある」(19.2%)、「住宅が狭い」(17.5%)となっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成

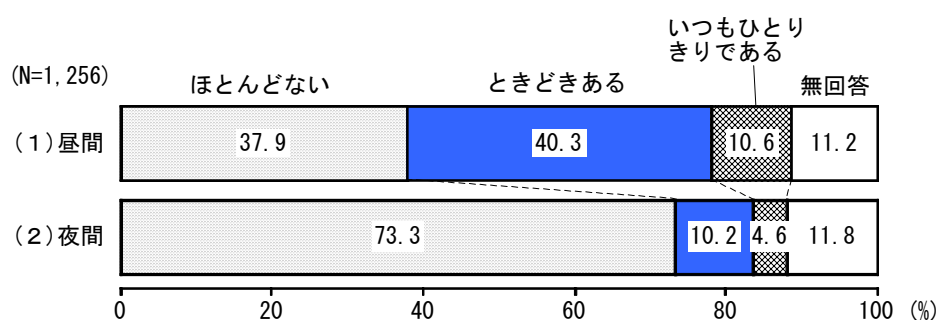
図 2-9 世帯構成



世帯構成は、「ひとり暮らし」が29.1%で最も多く、次いで「あなたと子供 (二世帯同居)」(23.9%)、「夫婦のみ (2人とも65歳以上)」(22.6%) となっている。

イ 昼間独居等の状況

図 2-10 昼間独居等の状況



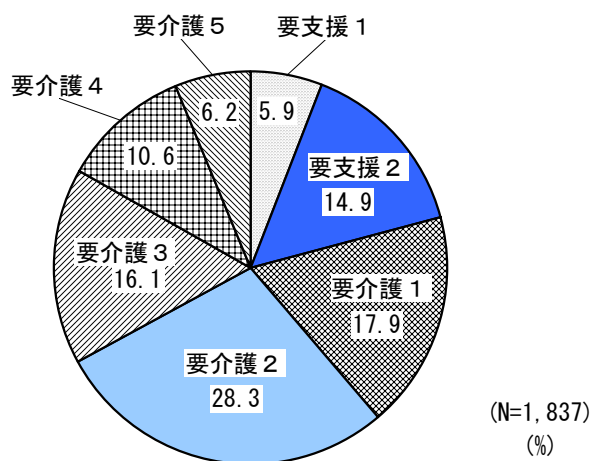
家族と同居している高齢者のうち、昼間、ひとりきりになることがある人は50.9%を占め、「いつもひとりきりである」は10.6%となっている。

同様に、夜間、ひとりきりになることがある人は14.8%であり、「いつもひとりきりである」は4.6%となっている。

(7) 要介護度とその変化

ア 要介護度

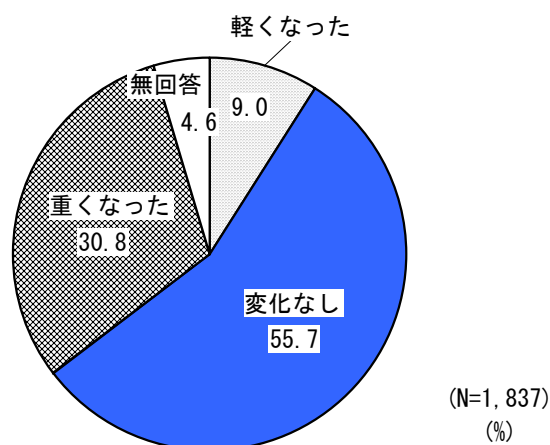
図 2-11 要介護度



調査対象者の要介護度は、「要介護 2」が28.3%と最も多く、次いで「要介護 1」(17.9%), 「要介護 3」(16.1%) となっている。

イ 要介護度の変化

図 2-12 要介護度の変化



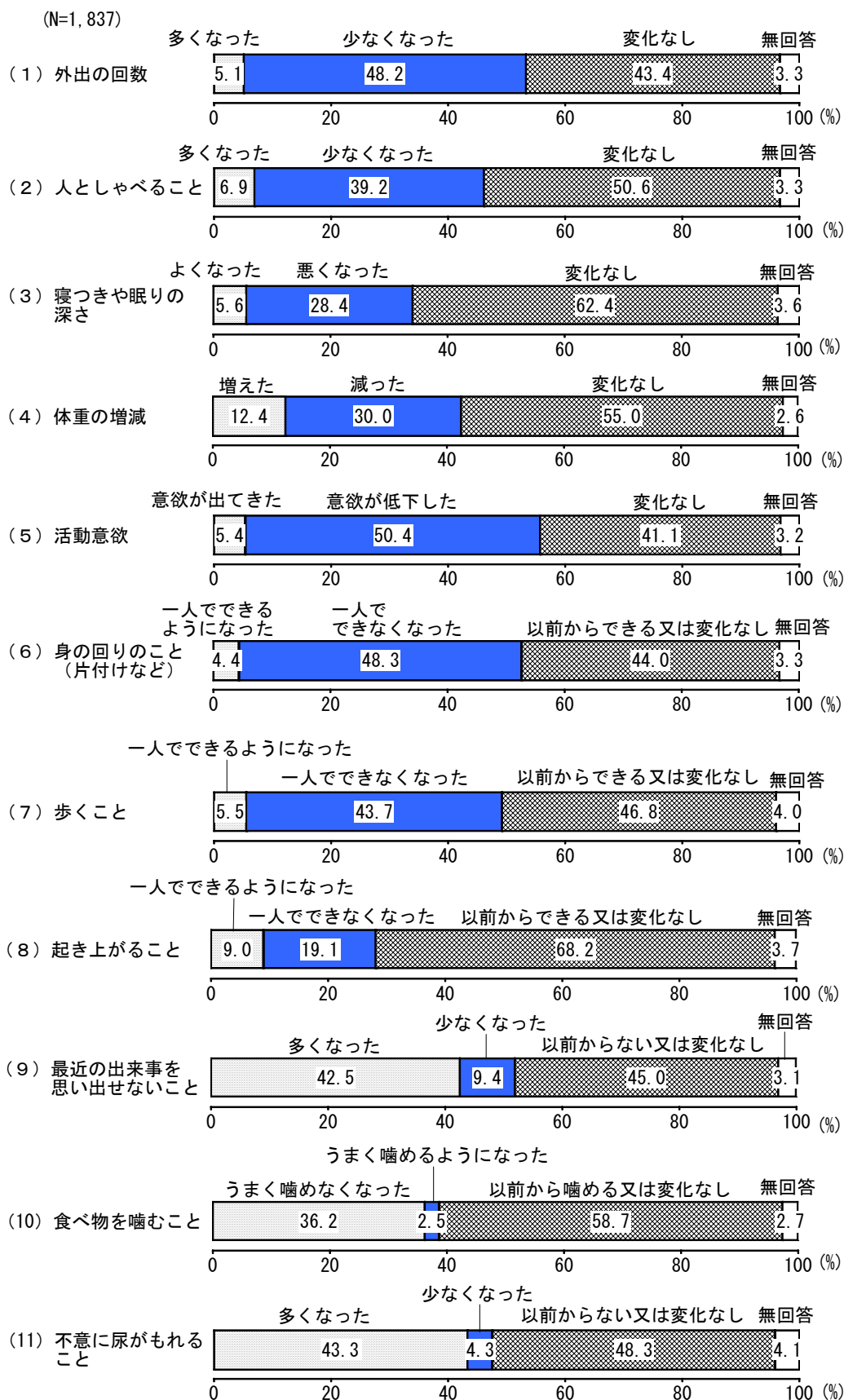
要介護度が以前に比べて「軽くなった」は9.0%, それに対して「重くなった」は30.8%と多くなっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

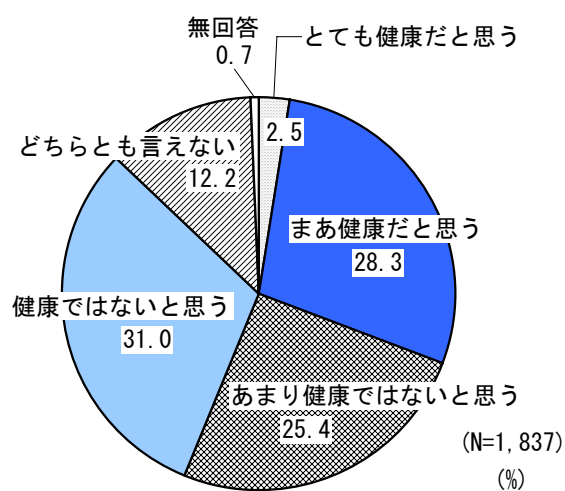
図 2-13 最近半年間の心身の変化



この半年間に心身の状態に変化が見られたかたずねたところ、『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(8) 起き上がること』では「変化なし」が60%以上を占めているが、『(5) 活動意欲』をはじめ、『(1) 外出の回数』『(6) 身の回りのこと（片付けなど）』『(7) 歩くこと』『(9) 最近の出来事を思い出せないこと』『(11) 不意に尿がもれること』では、低下や悪化を表す回答が40%台と多くなっている。

イ 日ごろの健康状態

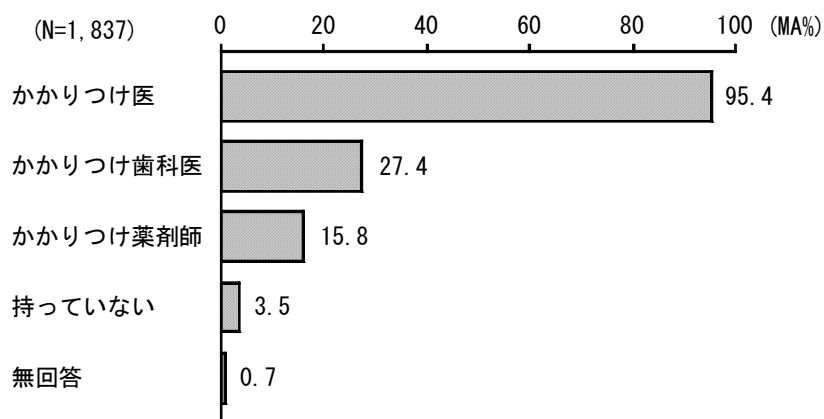
図 2-14 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う（計）』（「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合）の30.8%に対し、『健康ではないと思う（計）』（「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合）が56.4%と多くなっている。

ウ かかりつけ医の有無

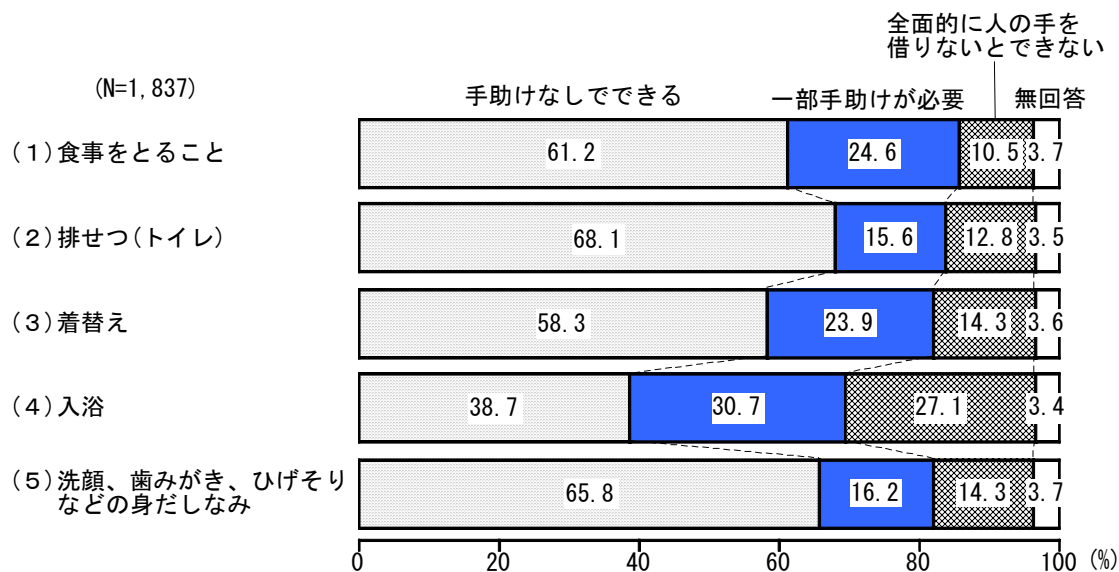
図 2-15 かかりつけ医の有無



かかりつけ医の有無については、「かかりつけ医」が95.4%を占め、次いで「かかりつけ歯科医」が27.4%、「かかりつけ薬剤師」が15.8%となっており、一方で「持っていない」は3.5%となっている。

(2) 日常生活動作（基本的A D L）

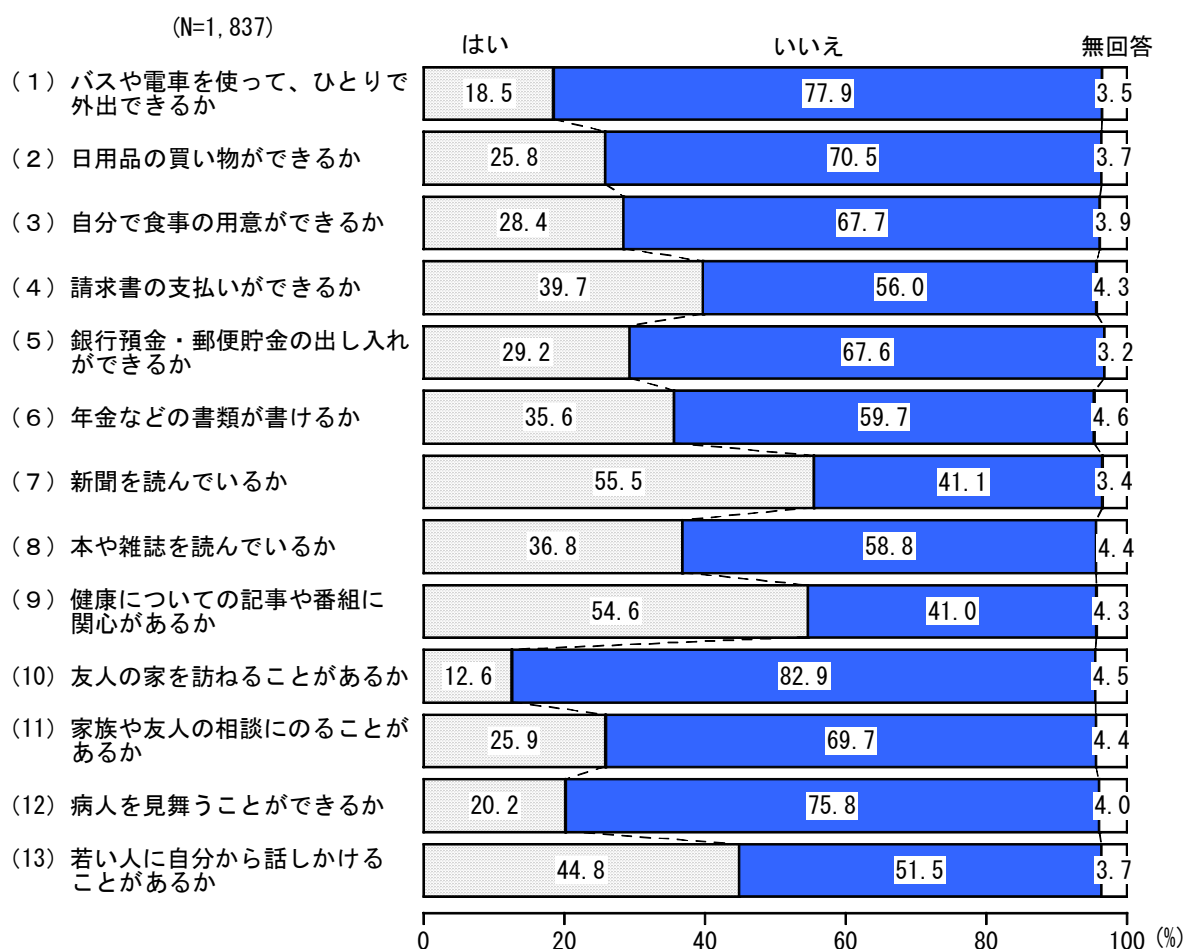
図 2-16 日常生活動作（基本的A D L）



基本的な日常基本動作のうち、『(4) 入浴』については「全面的に人の手を借りないとできない」が27.1%と多く、「一部手助けが必要」(30.7%)を合わせると、5割を超える人が介助を必要としている。

(3) 老研式活動能力指標（高次A D L）

図 2-17 老研式活動能力指標（高次A D L）



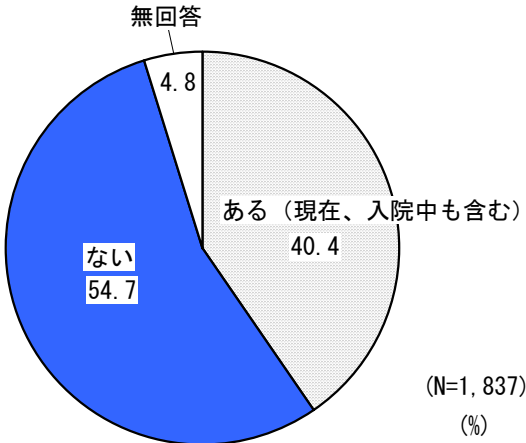
高次の日常生活動作をみると、老研式活動能力指標の13項目中、『(7) 新聞を読んでいるか』『(9) 健康についての記事や番組への関心があるか』について「はい」が50%以上を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがあるか』(82.9%)をはじめとして、『(1) バスや電車を使ってひとりで外出ができるか』(77.9%),『(12) 病人を見舞うことができるか』(75.8%)などについては、「いいえ」の割合が高くなっている。

老研式活動能力指標総合点の平均は4.4点となっている。

(4) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この１年間に入院した経験

図 2-18 この１年間に入院した経験



この１年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め40.4%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 2-4 現在治療を受けている病気

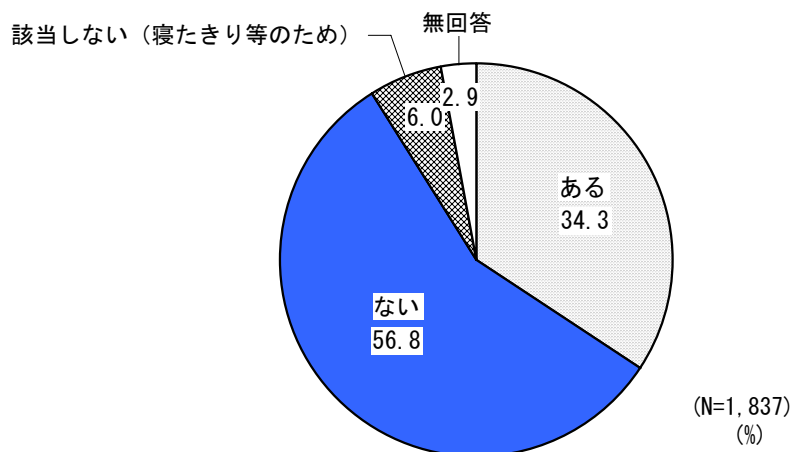
調査数（N）	（上段：件 下段：MA%）																
	高血圧症	腰痛、膝痛などの病気	眼の病気	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	消化器系疾患	歯の病気	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	糖尿病	泌尿器系疾患	呼吸器系疾患（喘息、肺炎など）	耳、鼻の病気	高脂血症	精神疾患	腎臓病	肝臓病	結核	その他
1837	781	669	542	523	329	317	300	288	232	192	164	164	141	134	72	7	307
100.0	42.5	36.4	29.5	28.5	17.9	17.3	16.3	15.7	12.6	10.5	9.0	8.9	7.7	7.3	3.9	0.4	16.7

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」が42.5%で最も多く、次いで「腰痛、膝痛などの病気」(36.4%)、「眼の病気」(29.5%)、「心臓病（心筋梗塞、狭心症など）」(28.5%)などとなっている。

(5) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

図 2-19 この1年間に転倒してケガをした経験

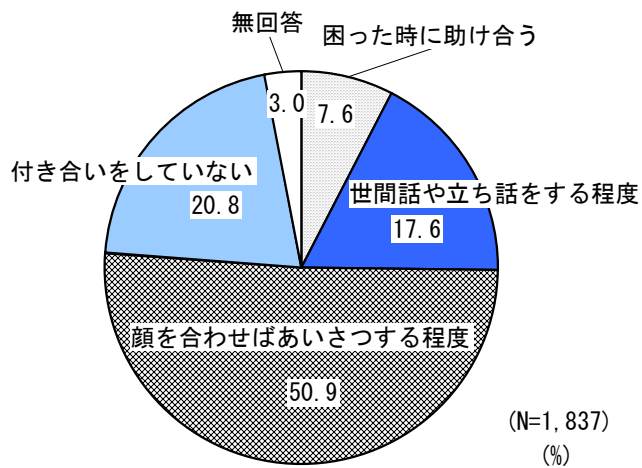


この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、34.3%となっている。

(6) 近所付き合い

ア 近所付き合いの程度

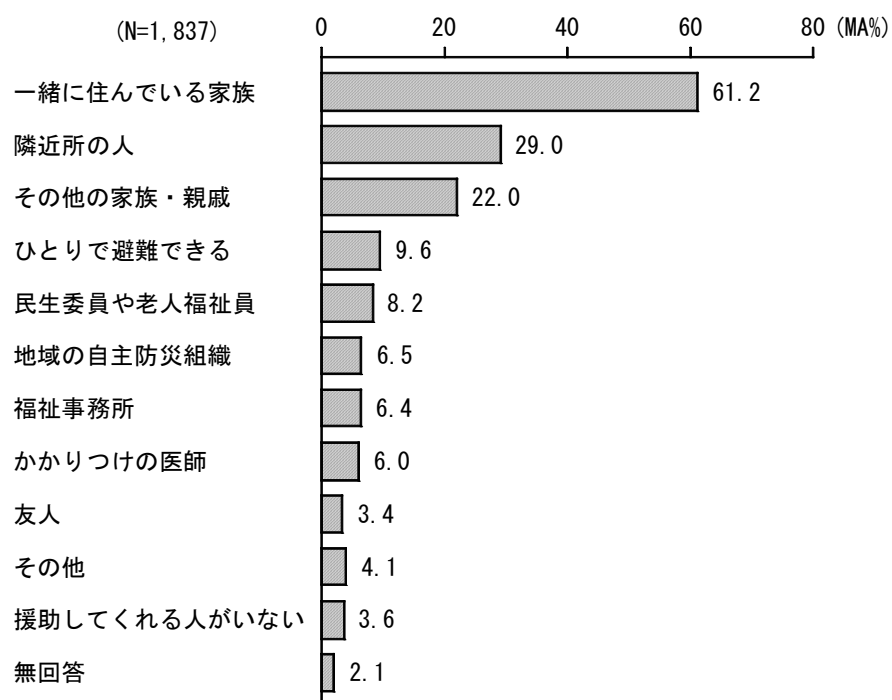
図 2-20 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度は、「顔を合わせばあいさつする程度」が50.9%と最も多く、次いで「付き合いをしていない」が20.8%、「世間話や立ち話をする程度」が17.6%となっている。

イ 災害時に避難が必要になった場合の援助者

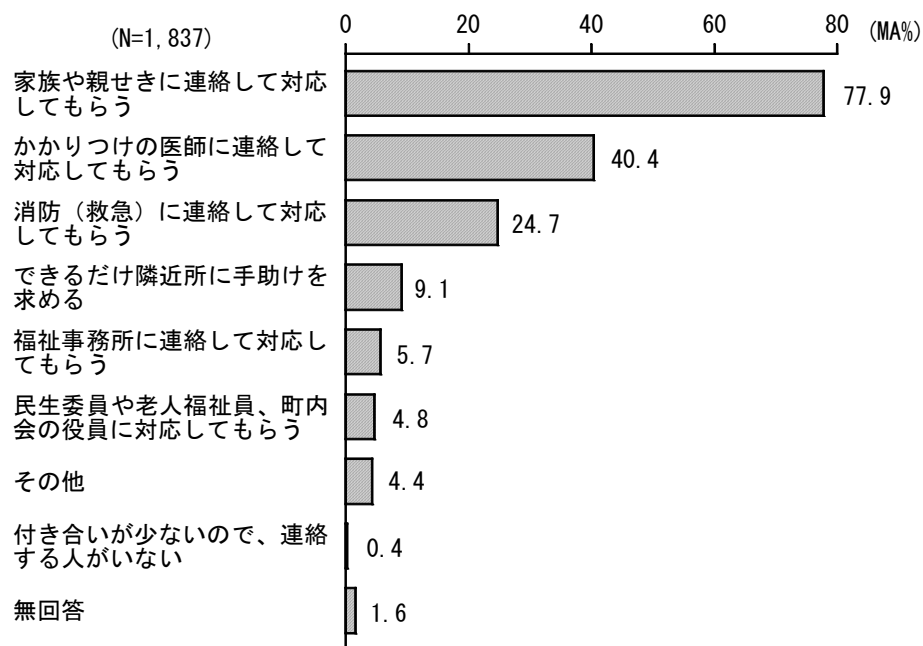
図 2-21 災害時に避難が必要になった場合の援助者



災害時に避難が必要になった場合の援助者については、「一緒に住んでいる家族」が61.2%で最も多く、次いで「隣近所の人」が29.0%、「その他の家族・親戚」が22.0%となっている。

ウ 急病時の対処方法

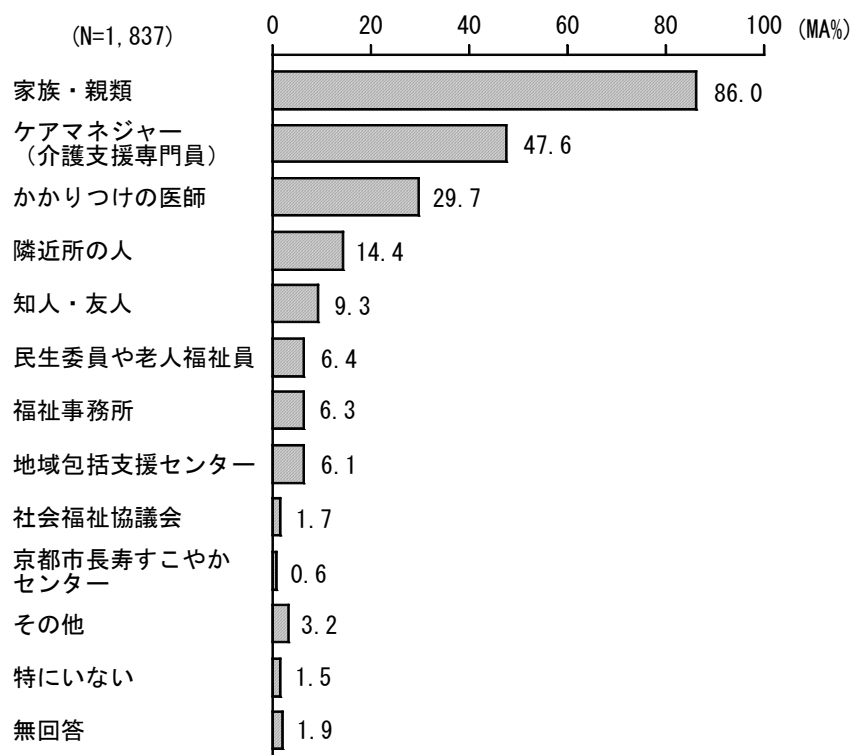
図 2-22 急病時の対処方法



急病時の対処方法については、「家族や親せきに連絡して対応してもらう」が77.9%で最も多く、次いで「かかりつけの医師に連絡して対応してもらう」が40.4%、「消防（救急）に連絡して対応してもらう」が24.7%となっている。

エ 相談相手

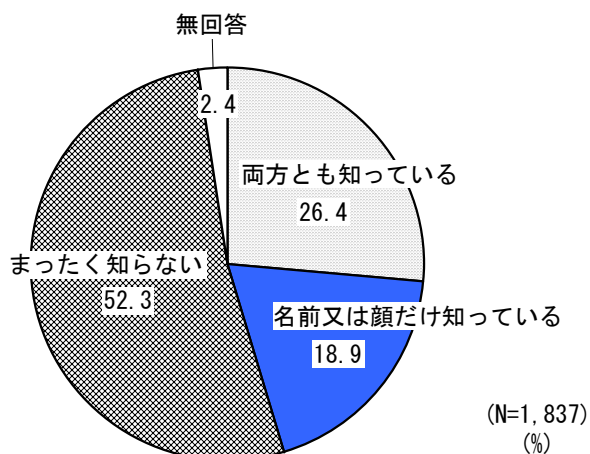
図 2-23 相談相手



相談相手については、「家族・親類」が86.0%で圧倒的に多くなっている。それ以外では、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が47.6%、「かかりつけの医師」が29.7%、「隣近所の人」が14.4%となっている。

オ 地域の町内会長の認知状況

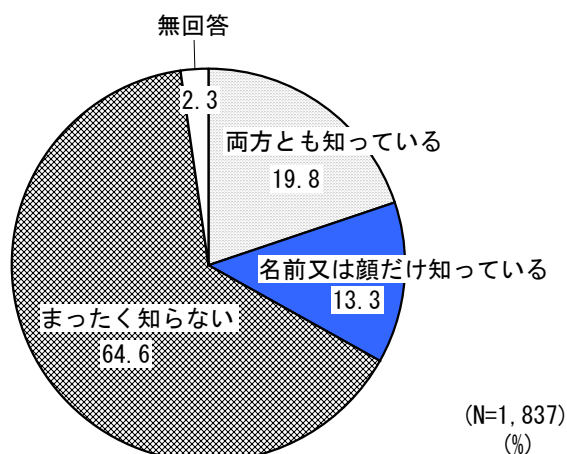
図 2-24 地域の町内会長の認知状況



地域の町内会長（自治会長）の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く52.3%で、「両方とも知っている」は26.4%、「名前又は顔だけ知っている」は18.9%となっている。

カ 地域の民生委員の認知状況

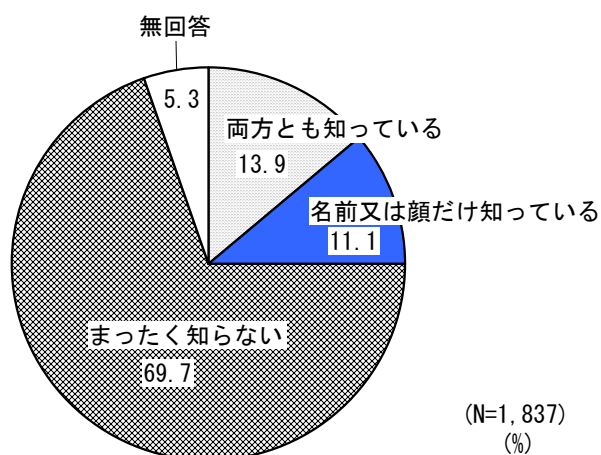
図 2-25 地域の民生委員の認知状況



地域の民生委員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く64.6%で、「両方とも知っている」は19.8%、「名前又は顔だけ知っている」は13.3%となっている。

キ 地域の老人福祉員の認知状況

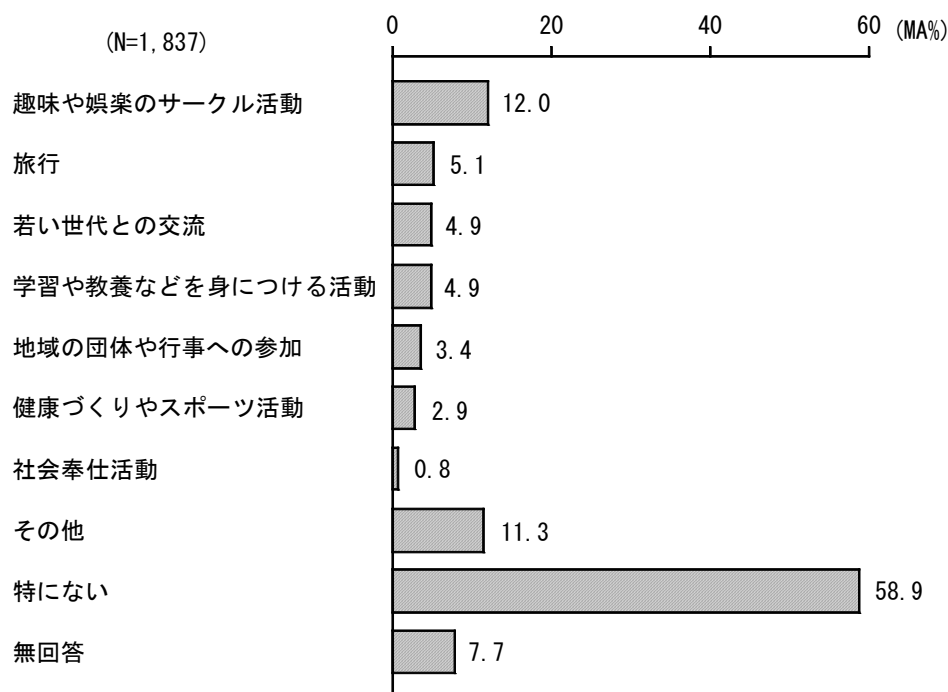
図 2-26 地域の老人福祉員の認知状況



地域の老人福祉員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く69.7%で、「両方とも知っている」は13.9%、「名前又は顔だけ知っている」は11.1%となっている。

(7) 生きがいを感じる活動

図 2-27 生きがいを感じる活動

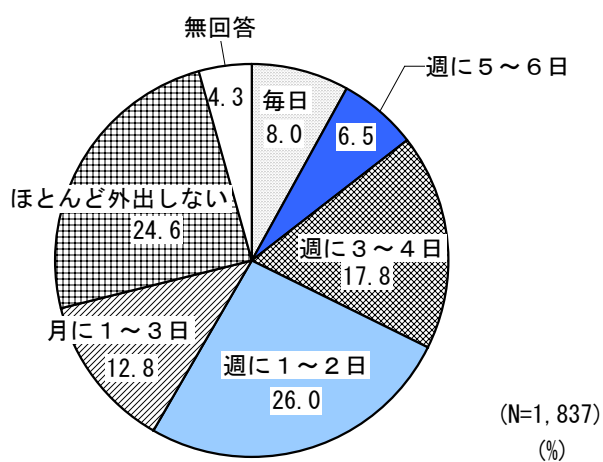


現在生きがいを感じる活動については、「特にない」が58.9%を占めている。生きがいを感じる活動としては、「趣味や娯楽のサークル活動」が12.0%、「旅行」が5.1%、「若い世代との交流」が4.9%などとなっている。

(8) 外出の状況

ア 外出の頻度

図 2-28 外出の頻度



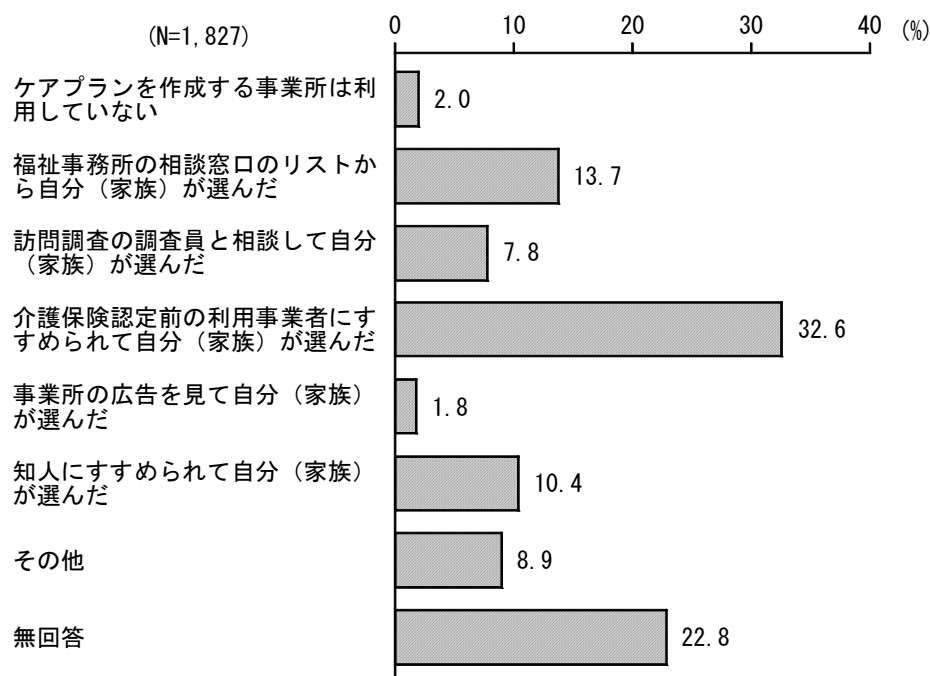
外出する頻度をみると、「週に1～2日」が26.0%と最も多く、次いで「ほとんど外出しない」が24.6%、「週に3～4日」が17.8%となっている。

3 介護保険サービスの利用状況

(1) 居宅介護支援事業者やケアプランについての満足度

ア 居宅介護支援事業者の選定方法

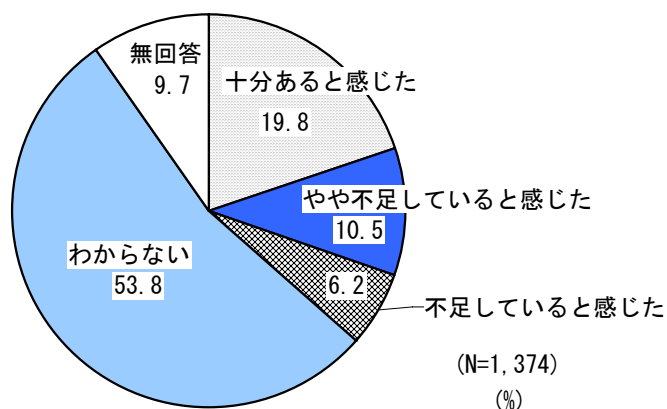
図 2-29 居宅介護支援事業者の選定方法



居宅介護支援事業者の選定方法については、「介護保険認定前の利用事業者にすすめられて自分（家族）が選んだ」が32.6%で最も多く、次いで「福祉事務所の相談窓口のリストから自分（家族）が選んだ」が13.7%、「知人にすすめられて自分（家族）が選んだ」が10.4%となっている。

イ 事業所の過不足感

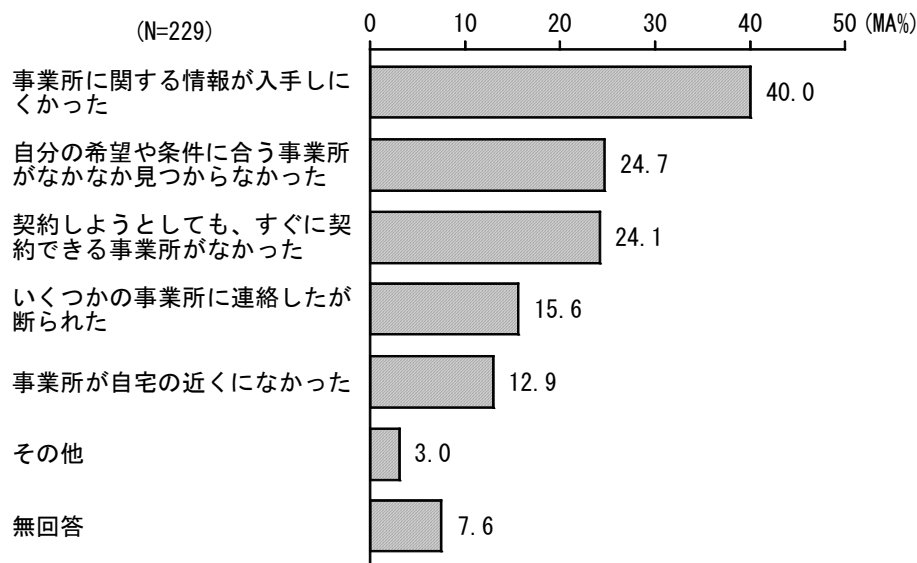
図 2-30 事業所の過不足感



事業所の数については、「十分あると感じた」は19.8%で、『不足している（計）』（「不足していると感じた」に「やや不足していると感じた」を加えた割合）は16.7%となっている。

ウ 不足と感じた理由

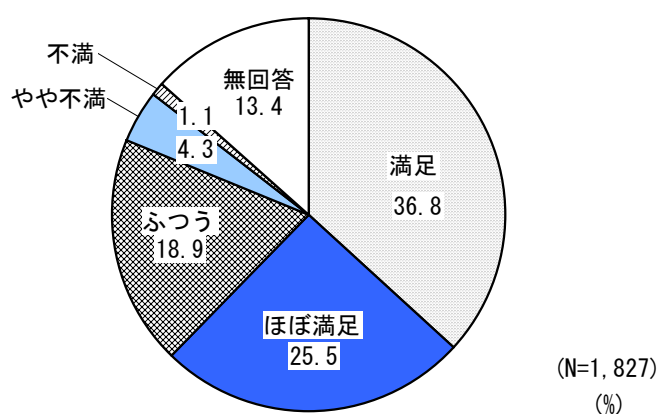
図 2-31 不足と感じた理由



事業所が不足していると感じた理由については、「事業所に関する情報が入手しにくかった」が40.0%で最も多く、次いで「自分の希望や条件に合う事業所がなかなか見つからなかった」が24.7%、「契約しようとしても、すぐに契約できる事業所がなかった」が24.1%となっている。

エ ケアプラン作成者に対する満足度

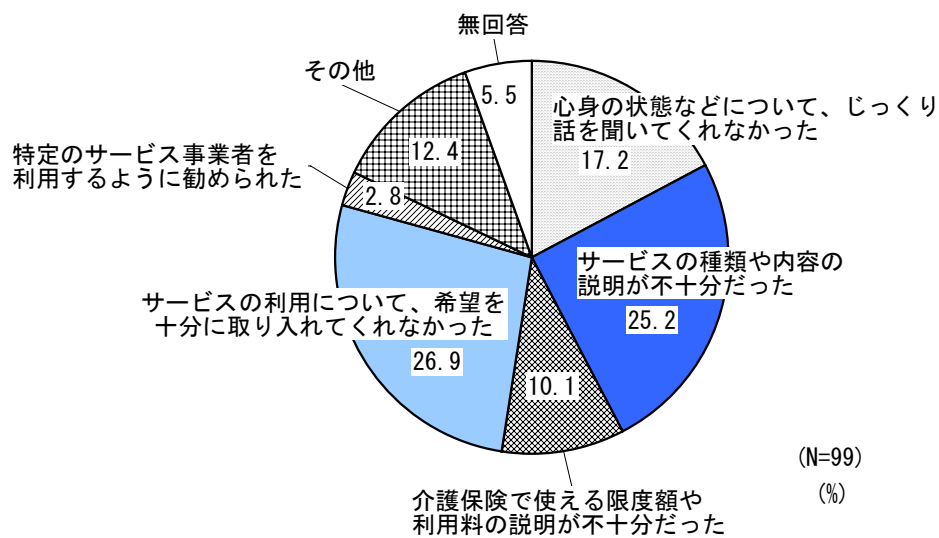
図 2-32 ケアプラン作成者に対する満足度



ケアプランを作成している担当者の対応は、「満足」が36.8%で最も多く「ほぼ満足」を加えた『満足 (計)』は62.3%となっており、『不満 (計)』(「不満」に「やや不満」を加えた割合)は5.4%となっている。

オ ケアプラン作成者に対する不満点

図 2-33 ケアプラン作成者に対する不満点

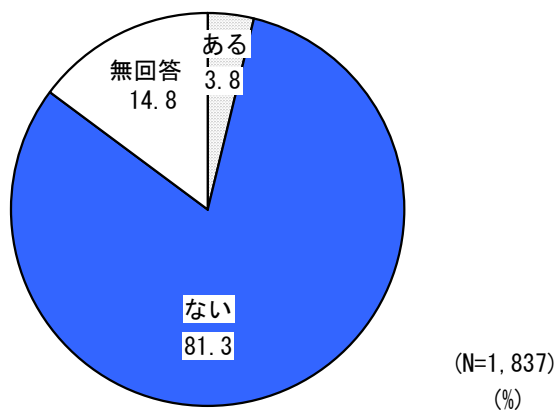


ケアプランを作成している担当者の対応が不満と回答した人に、不満な点をたずねると、「サービスの利用について、希望を十分に取り入れてくれなかった」が26.9%で最も多く、次いで「サービスの種類や内容の説明が不十分だった」が25.2%、「心身の状態などについて、じっくり話を聞いてくれなかった」が17.2%となっている。

(2) 障害や疾患等を理由にサービス利用を断られた経験

ア 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無

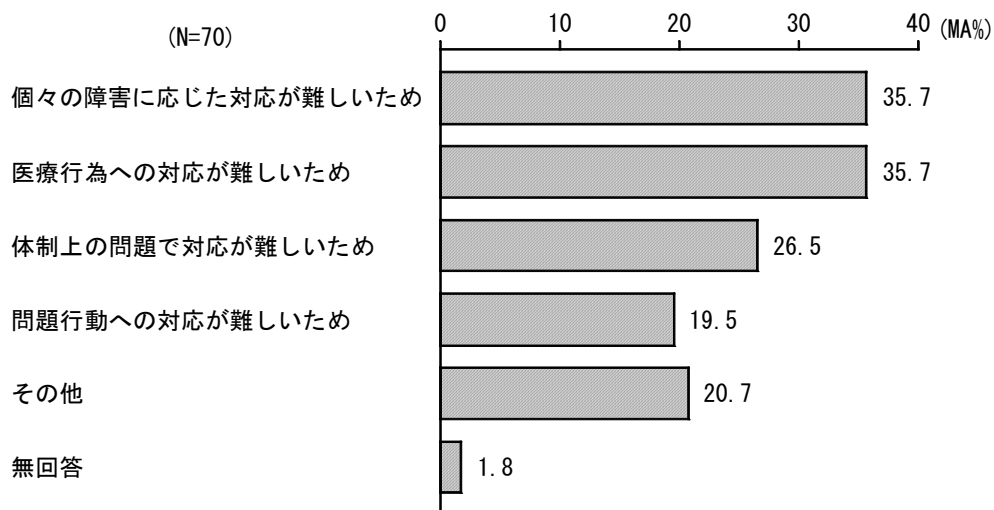
図 2-34 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無



障害や疾患等を理由に事業者から介護保険サービスの利用を断られたことがある人は、3.8%となっている。

イ 利用を断られた主な理由

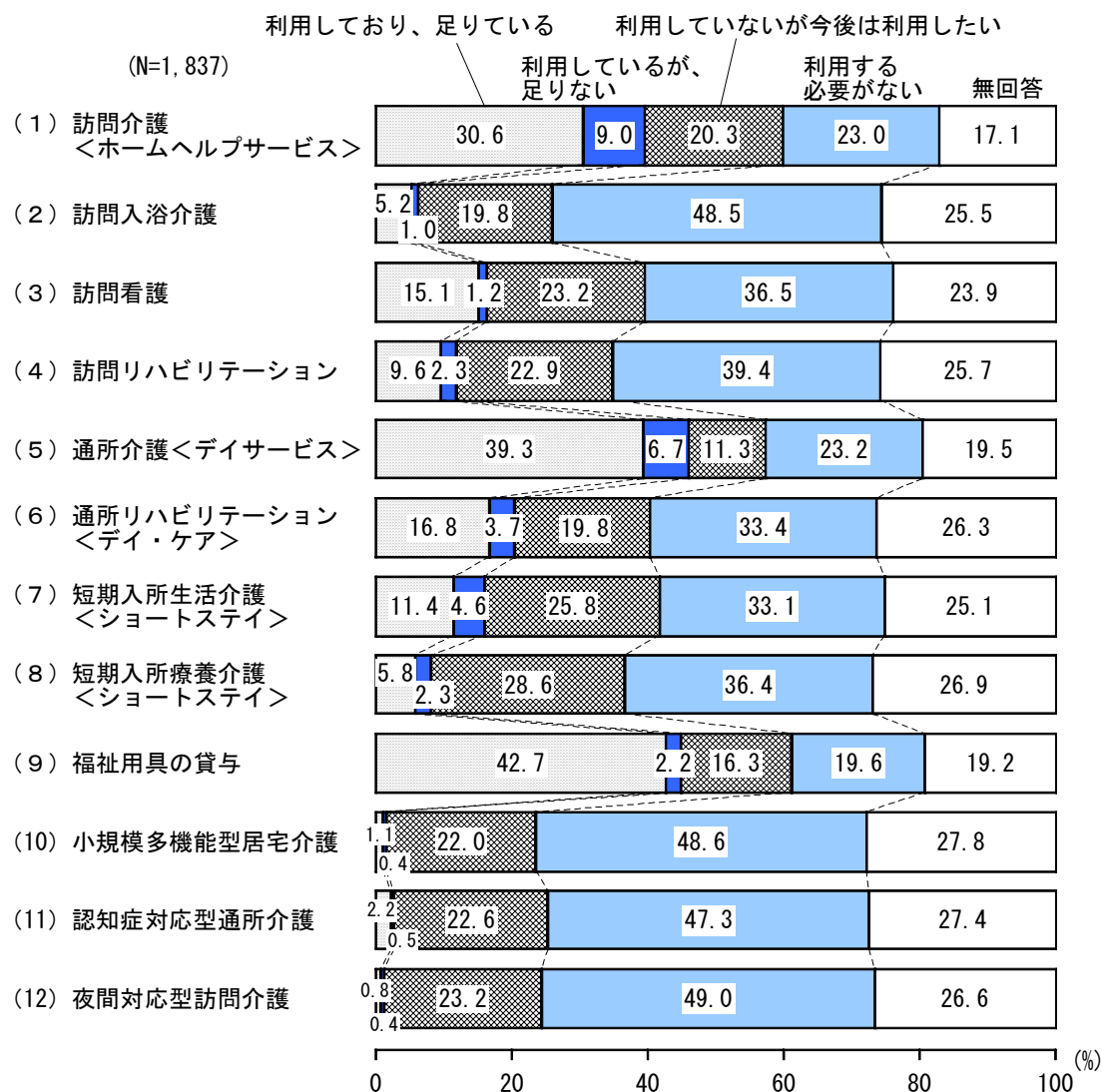
図 2-35 利用を断られた主な理由



サービスの利用を断られた主な理由としては、「個々の障害に応じた対応が難しいため」と「医療行為への対応が難しいため」が共に35.7%で最も多く、次いで「体制上の問題で対応が難しいため」が26.5%となっている。

(3) 居宅サービスの利用状況・利用意向

図 2-36 居宅サービスの利用状況・利用意向



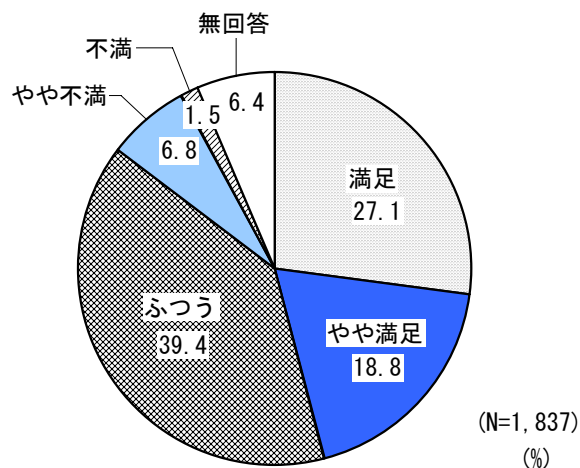
居宅サービスの利用度（「利用しており、足りている」に「利用しているが、足りない」を加えた割合）をみると、『(1) 訪問介護（ホームヘルプサービス）』『(9) 福祉用具の貸与』が30～40%台と高くなっている。

今後の利用希望については、『(8) 短期入所療養介護（ショートステイ）』が28.6%と最も高く、『(1) 訪問介護（ホームヘルプサービス）』『(3) 訪問看護』『(4) 訪問リハビリテーション』『(7) 短期入所生活介護（ショートステイ）』『(10) 小規模多機能型居宅介護』『(11) 認知症対応型通所介護』『(12) 夜間対応型訪問介護』も20%を超えている。

(4) 事業者やサービス内容に関する情報への希望

ア 事業者やサービス内容に関する情報への満足度

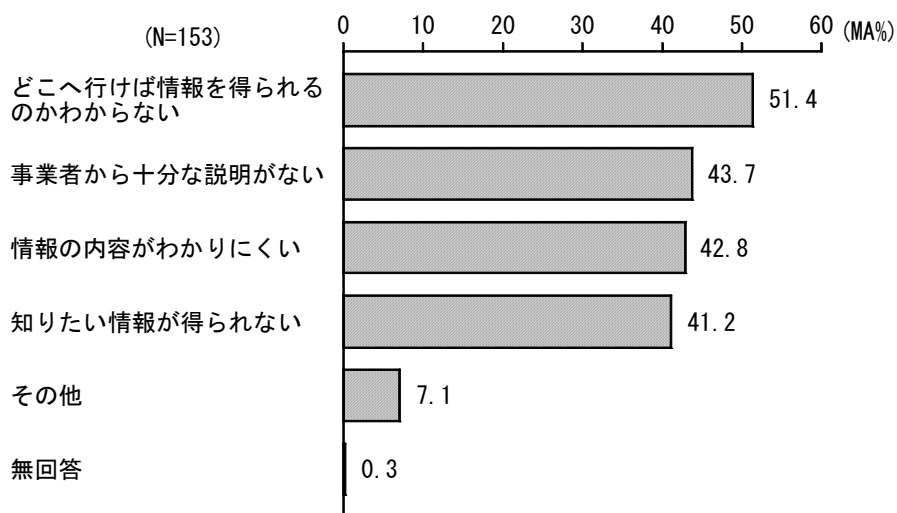
図 2-37 事業者やサービス内容に関する情報への満足度



事業者やサービス内容に関する情報入手について満足している人は、「やや満足」を合わせて全体の45.9%となっている。

イ 不満を感じている点

図 2-38 不満を感じている点

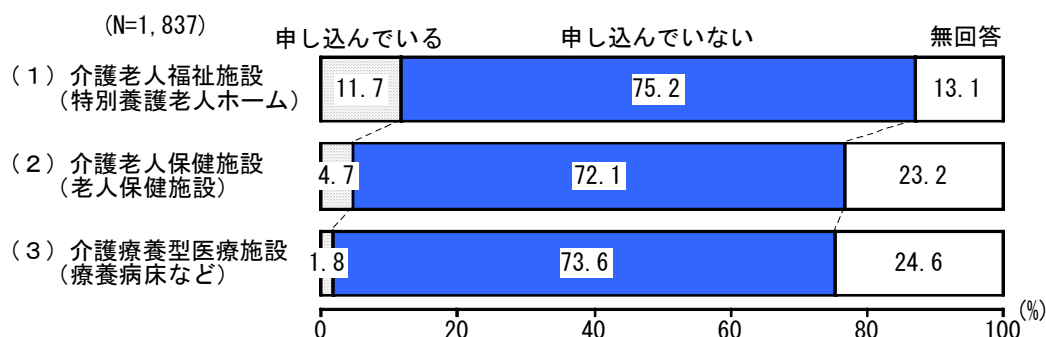


不満を感じている点としては、「どこへ行けば情報を得られるのかわからない」が51.4%と最も多く、次いで「事業者から十分な説明がない」(43.7%)、「情報の内容がわかりにくい」(42.8%)の順で多くなっている。

(5) 介護保険施設への入所申込状況

ア 施設への申込みの有無

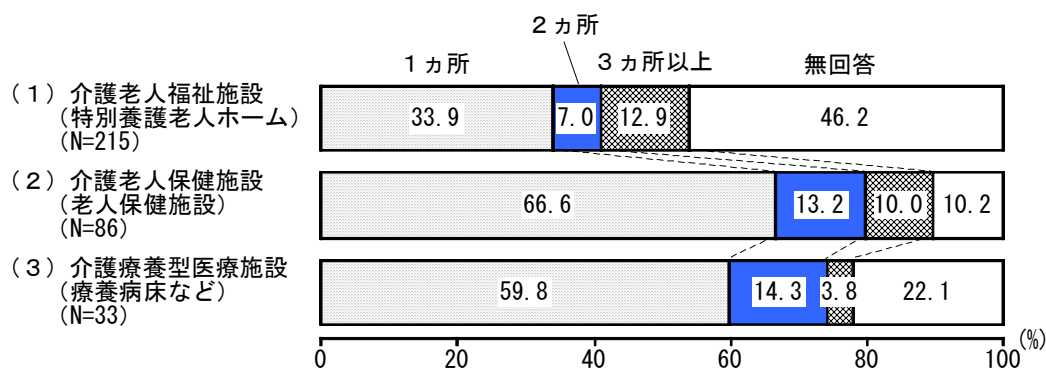
図 2-39 施設への申込みの有無



介護保険施設への申込み状況をみると、「申し込んでいる」は、介護老人福祉施設が11.7%、介護老人保健施設が4.7%、介護療養型医療施設が1.8%となっている。

イ 申込み施設数

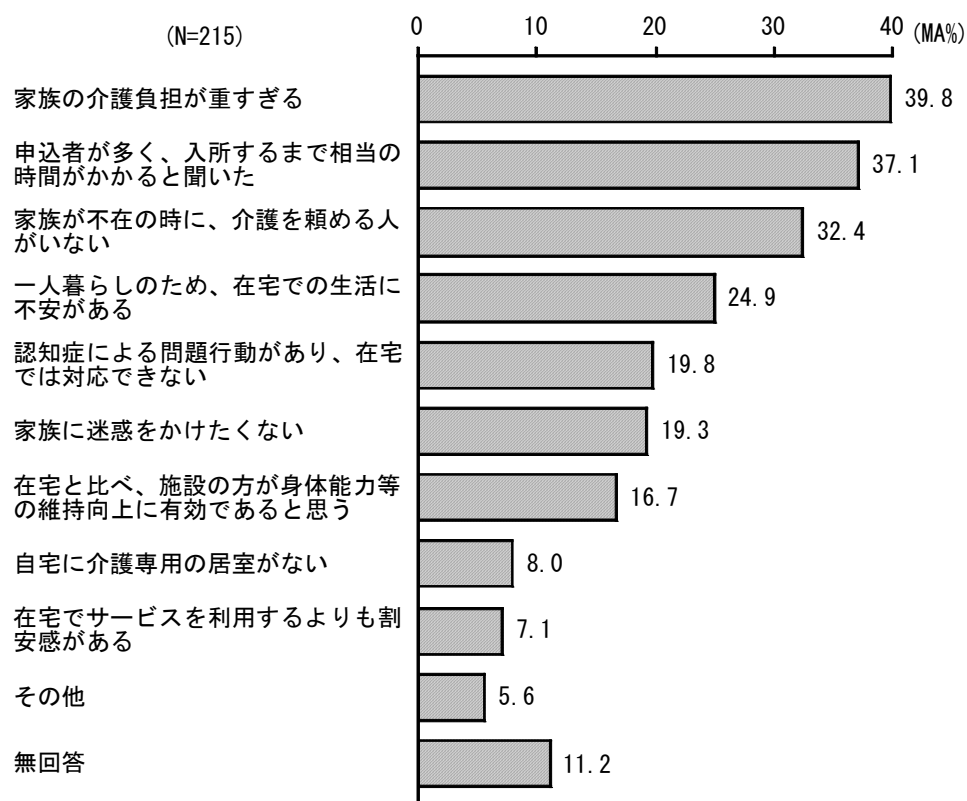
図 2-40 申込み施設数



申込み施設数については、介護老人福祉施設は「1 ヲ所」が33.9%と最も多く、次いで「3 ヲ所以上」(12.9%)となっている。介護老人保健施設及び介護療養型医療施設についても、「1 ヲ所」がそれぞれ66.6%、59.8%と過半数を占めている。

ウ 介護老人福祉施設に入所申込みをした理由

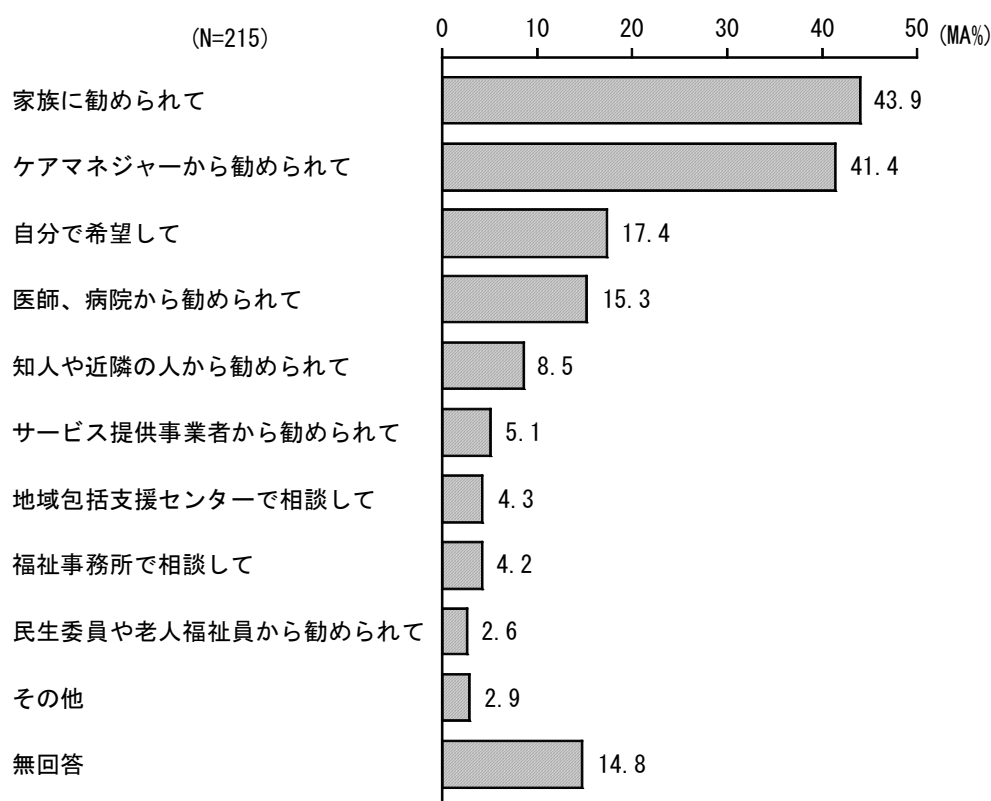
図 2-41 介護老人福祉施設に入所申込みをした理由



介護老人福祉施設に入所申込みをした理由としては、「家族の介護負担が重すぎる」が39.8%で最も多く、次いで「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」(37.1%)、「家族が不在の時に、介護を頼める人がいない」(32.4%)、「一人暮らしのため、在宅での生活に不安がある」(24.9%)などとなっている。

エ 介護老人福祉施設に入所申込みをしたきっかけ

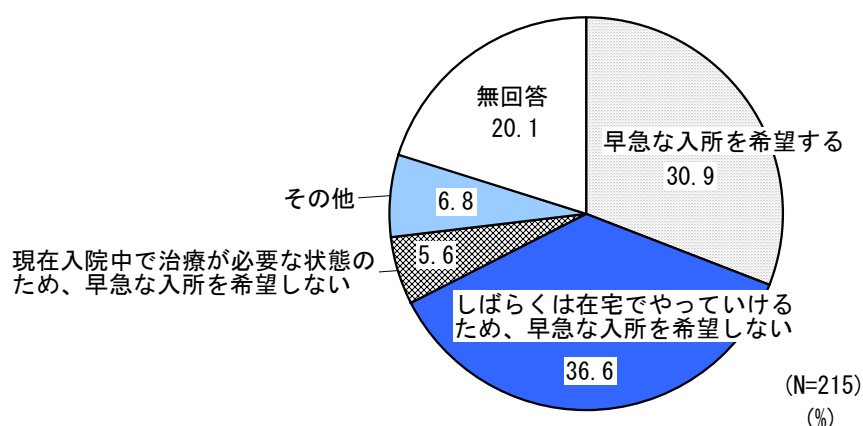
図 2-42 介護老人福祉施設に入所申込みをしたきっかけ



介護老人福祉施設に入所申込みをしたきっかけについては、「家族に勧められて」が43.9%で最も多く、次いで「ケアマネジャーから勧められて」(41.4%)が多くなっている。

オ 介護老人福祉施設への早急な入所希望の有無

図 2-43 介護老人福祉施設への早急な入所希望の有無

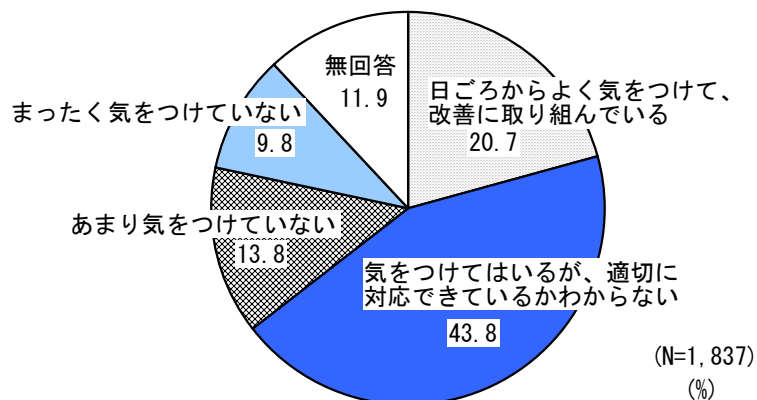


介護老人福祉施設への早急な入所を希望している人は30.9%であり、「しばらくは在宅でやっていけるため早急な入所を希望しない」が36.6%となっている。

4 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

図 2-44 心身の変化への対応・改善の有無

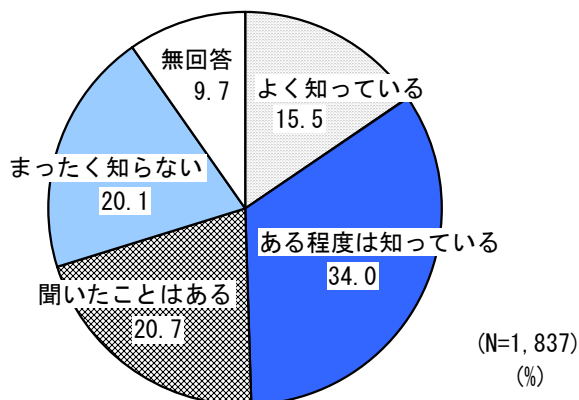


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の64.5%を占め、「改善に取り組んでいる」人は20.7%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 介護予防の認知状況

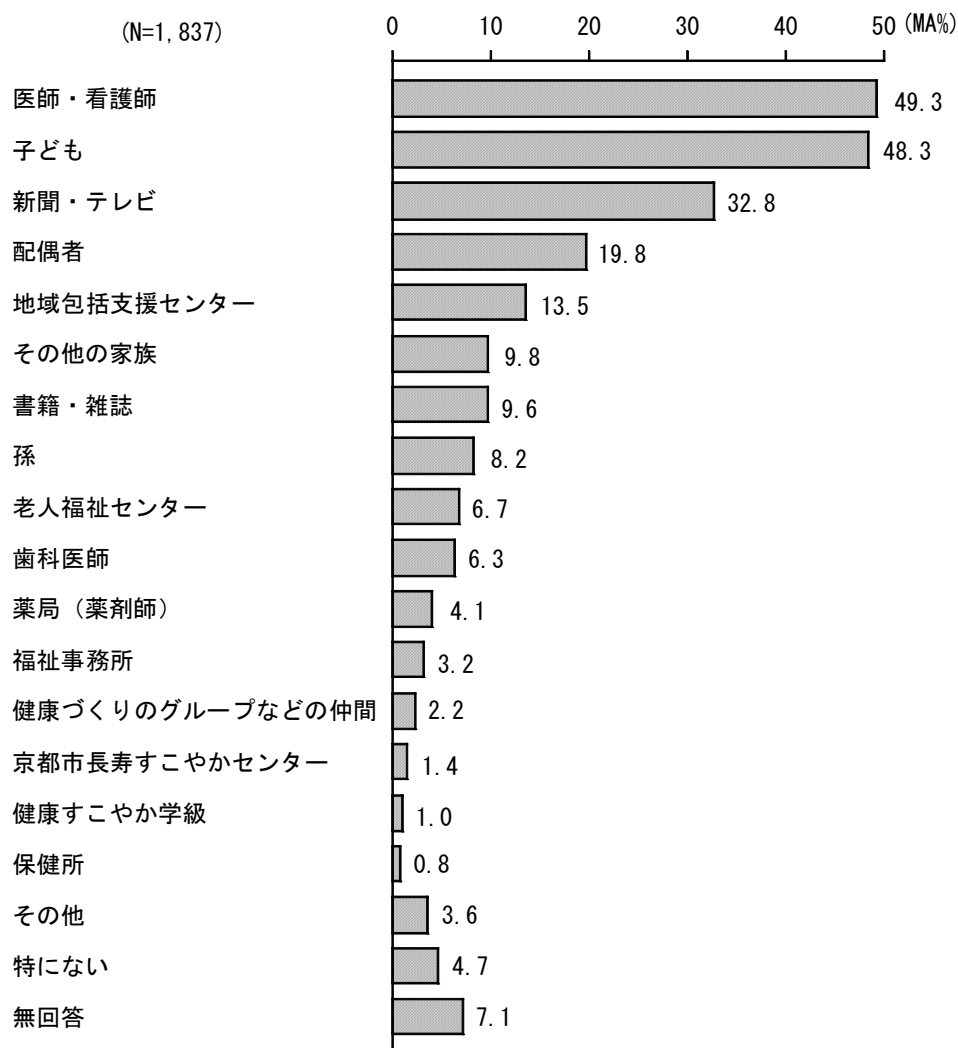
図 2-45 介護予防の認知状況



介護予防について『知っている（計）』（「よく知っている」に「ある程度は知っている」を加えた割合）と答えた人は49.5%となっている。

イ 介護予防等に関する情報の入手方法

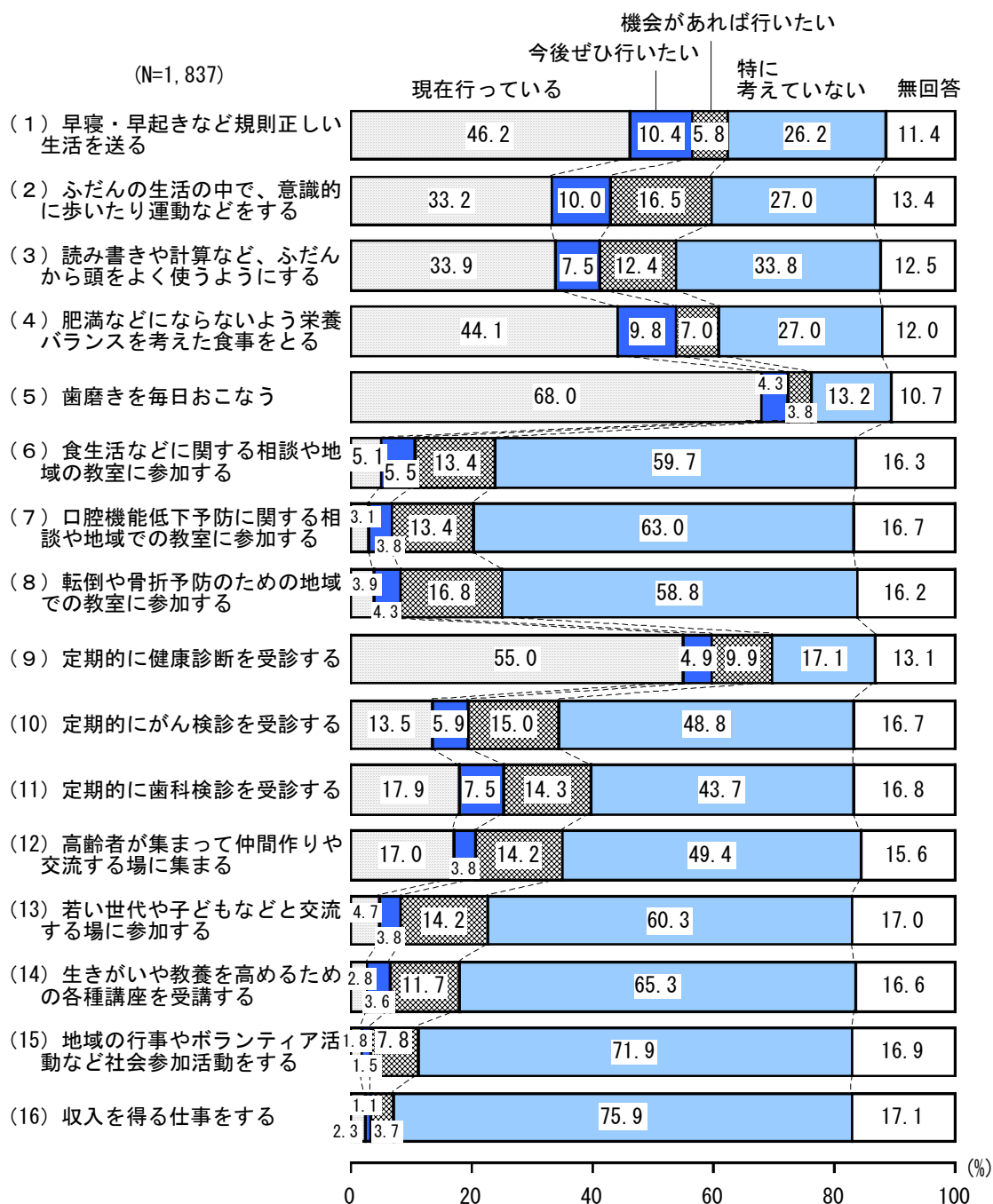
図 2-46 介護予防等に関する情報の入手方法



介護予防等に関する情報の入手方法は、「医師・看護師」が49.3%と最も多く、次いで「子ども」が48.3%、「新聞・テレビ」が32.8%となっている。

ウ 病気・老化の予防のために取り組んでいること・取組への考え

図 2-47 病気・老化の予防のため取り組んでいること・取組への考え



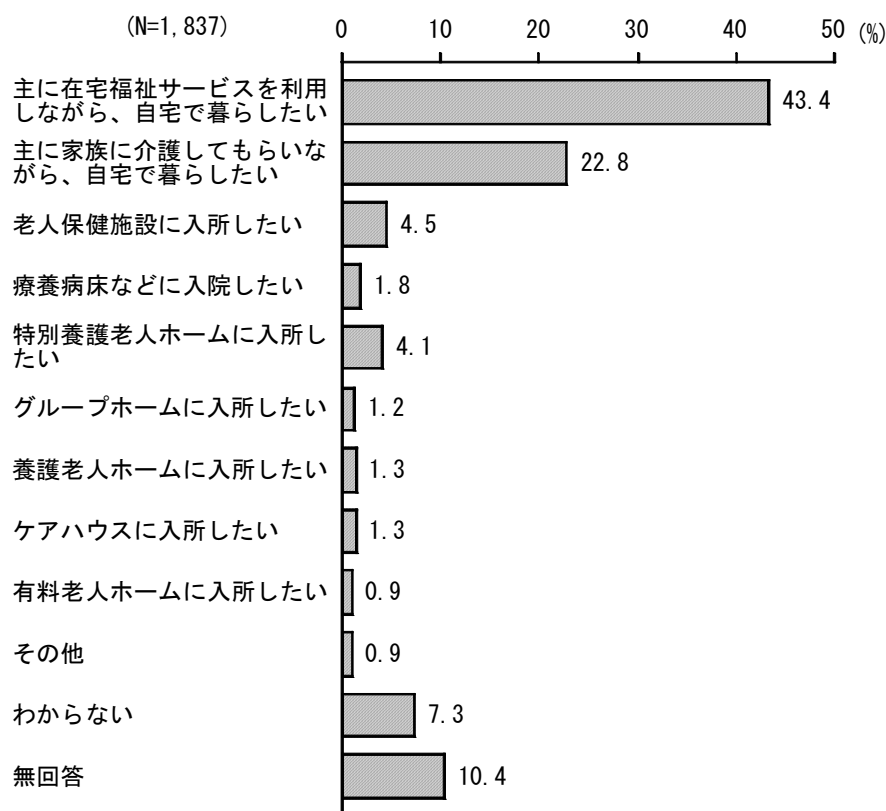
病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、『歯磨きを毎日おこなう』が68.0%と最も多く、次いで『定期的に健康診断を受診する』(55.0%)、『早寝・早起きなど規則正しい生活を送る』(46.2%)、『肥満などにならないよう栄養バランスを考えた食事をする』(44.1%) などとなっている。

今後の取組への考えをみると、意向(「今後ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合)の高い活動は、『ふだんの生活の中で、意識的に歩いたり運動などをする』(26.5%)が最も多く、『定期的に歯科検診を受診する』(21.8%)、『転倒や骨折予防のための地域での教室に参加する』(21.1%)、『定期的ながん検診を受診する』(20.9%)などが多くなっている。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

ア 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

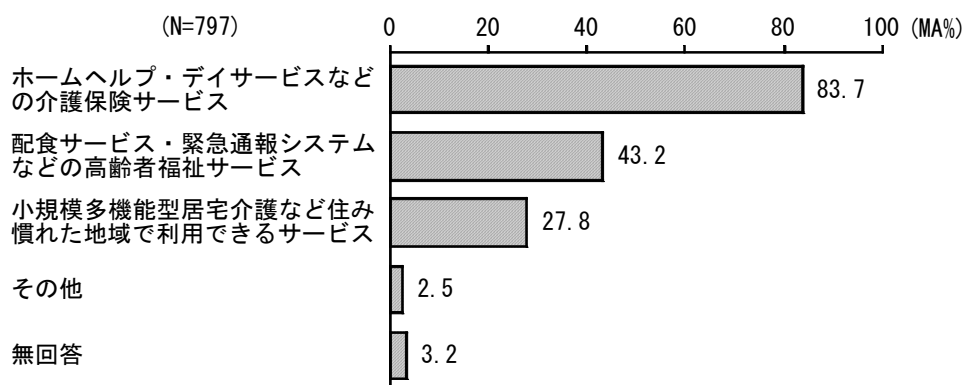
図 2-48 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方



調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が43.4%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が22.8%となっており、合計すると全体の66.2%が自宅での生活を希望している。

イ 在宅福祉サービスの利用意向

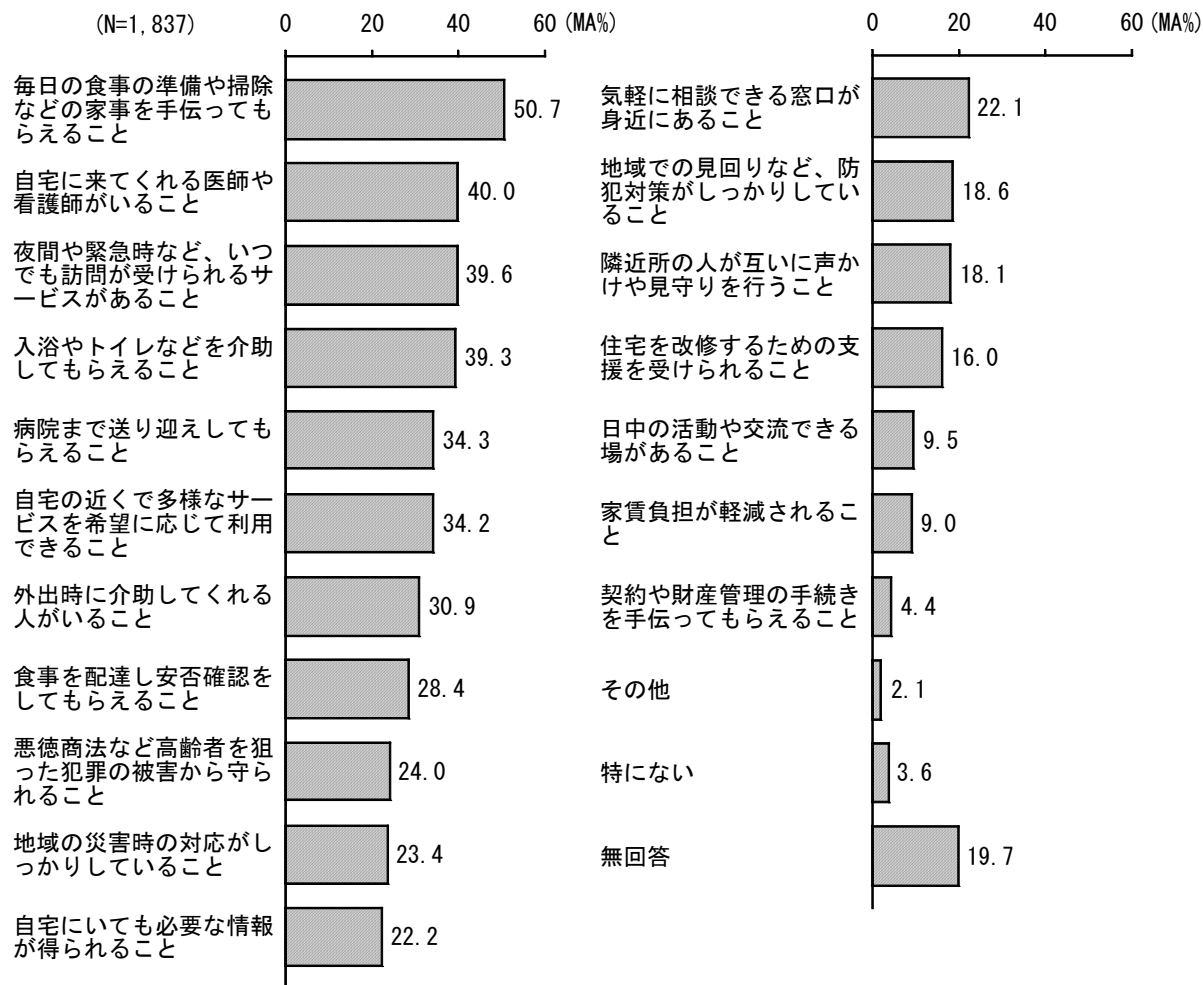
図 2-49 在宅福祉サービスの利用意向



自宅で在宅福祉サービスを利用しながら暮らしていく場合に利用したいサービスについては、「ホームヘルプ・デイサービスなどの介護保険サービス」が83.7%で最も多く、次いで「配食サービス・緊急通報システムなどの高齢者福祉サービス」(43.2%)となっている。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 2-50 在宅生活を続けていく上で必要な支援

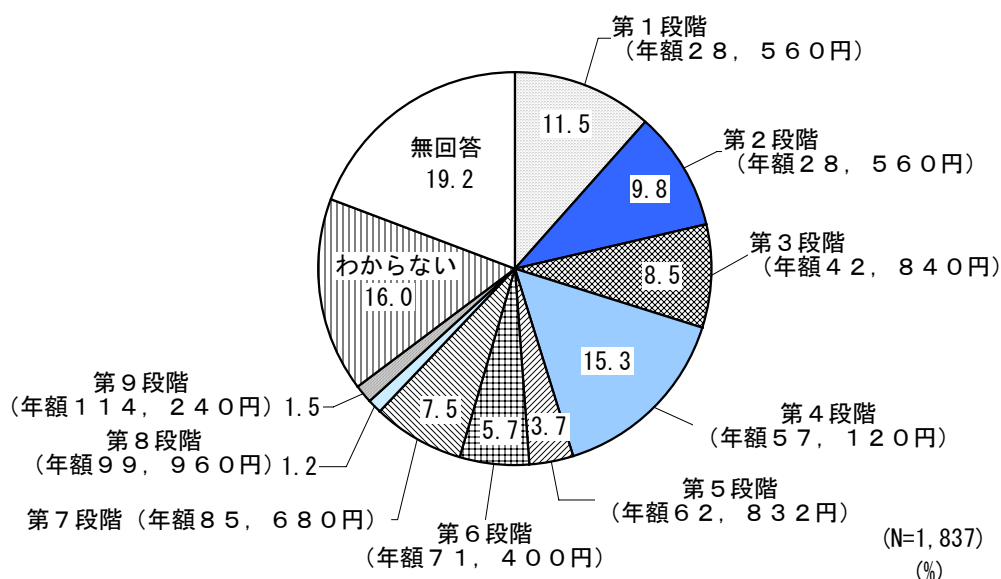


在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が50.7%と最も多く、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(40.0%)、「夜間や緊急時など、いつでも訪問が受けられるサービスがあること」(39.6%)、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(39.3%) などとなっている。

5 介護保険制度について

(1) 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

図 2-51 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

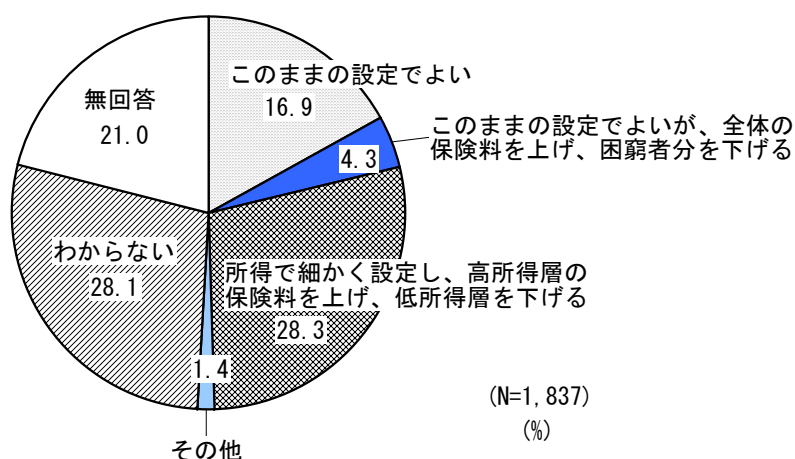


第1号被保険者保険料の所得段階別区分は、「第4段階」が15.3%、「第1段階」が11.5%「第2段階」が9.8%と多くなっている。

(2) 保険料の設定および給付・負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定について

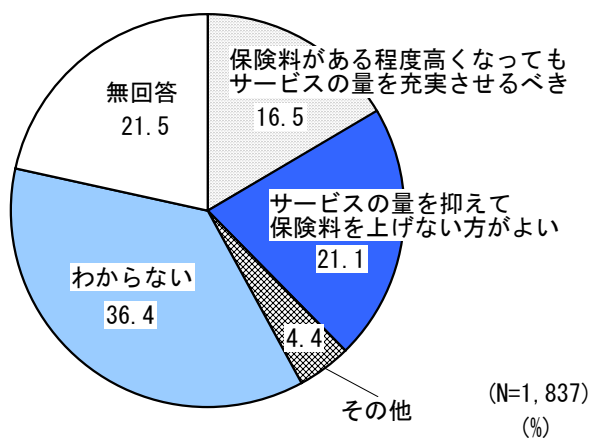
図 2-52 介護保険料の設定について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得で細かく設定し、高所得層の保険料を上げ、低所得層を下げる」が28.3%と多く、「このままの設定でよい」は16.9%、「このままの設定でよいが、全体の保険料を上げ、困窮者分を下げる」は4.3%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

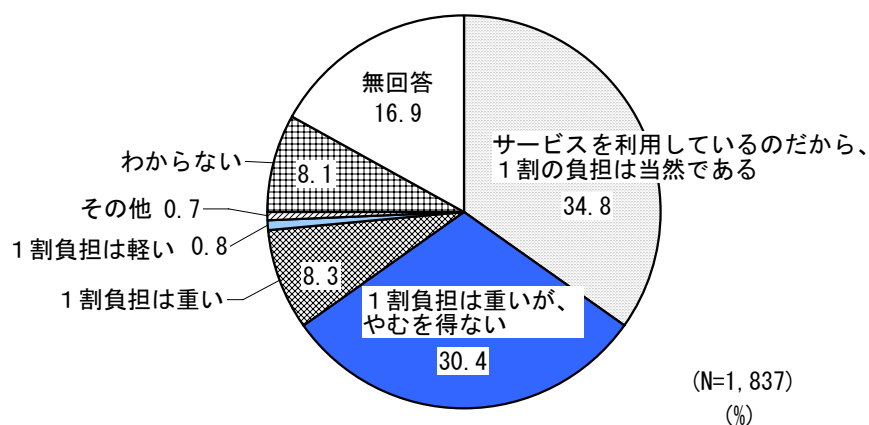
図 2-53 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「サービスの量を抑えて保険料を上げない方がよい」が21.1%で最も多く、「保険料がある程度高くなってもサービスの量を充実させるべき」は16.5%となっている。

ウ 利用者負担について

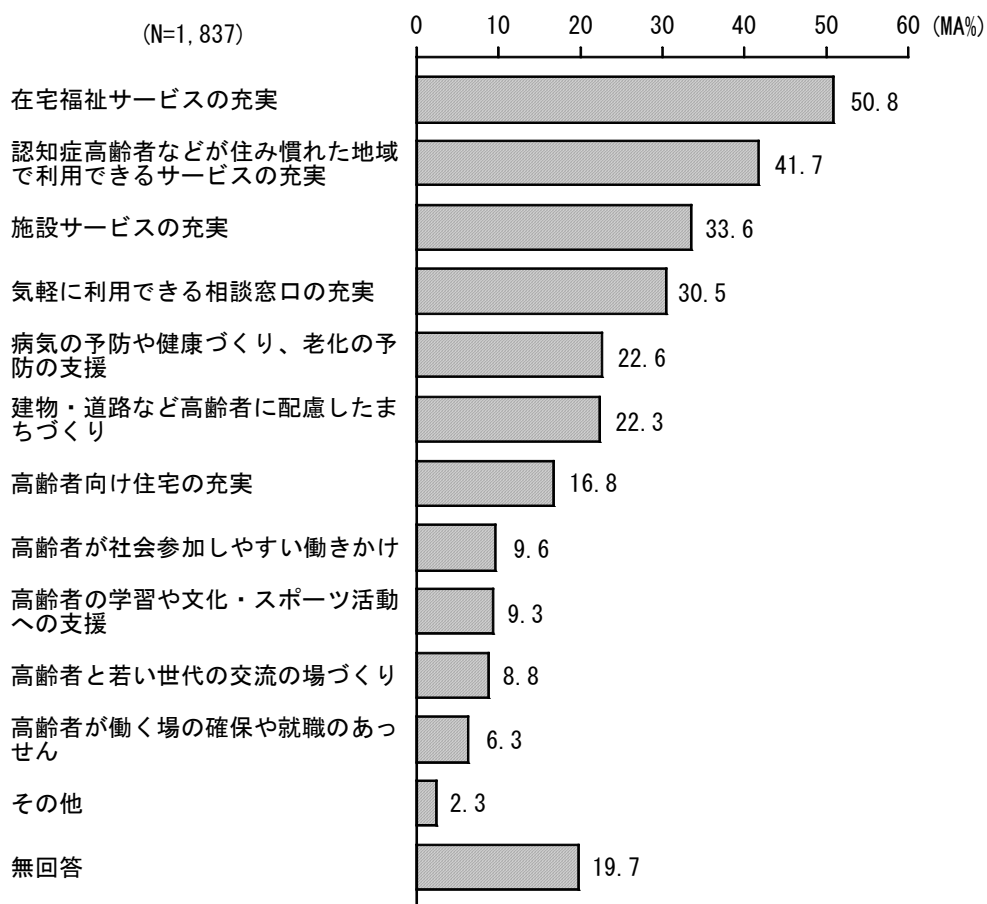
図 2-54 利用者負担について



介護サービス利用料の1割負担については、「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」が34.8%と最も多く、「1割負担は重いが、やむを得ない」も30.4%と多くなっている。

(3) 高齢者保健福祉について充実を希望する施策

図 2-55 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「在宅福祉サービスの充実」が50.8%と最も多く、次いで「認知症高齢者などが住み慣れた地域で利用できるサービスの充実」(41.7%)、「施設サービスの充実」(33.6%)、「気軽に利用できる相談窓口の充実」(30.5%)の順となっている。

6 在宅介護の状況について

(1) 介護者の続柄・年代

図 2-56 介護者の続柄

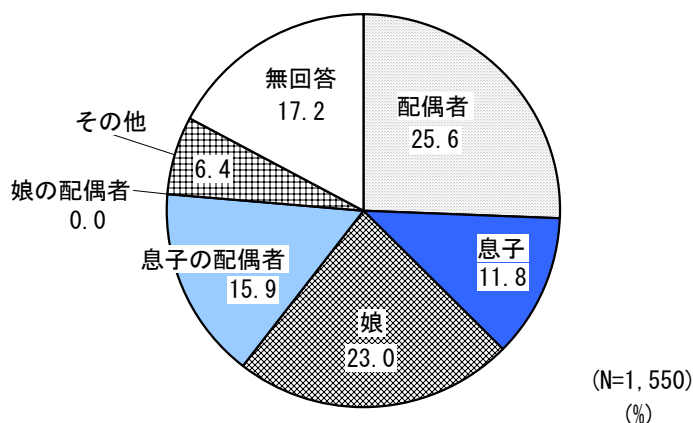
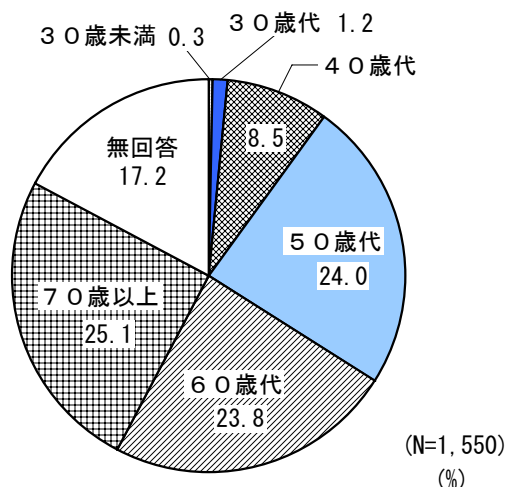


図 2-57 介護者の年代



調査対象者からみた介護者の続柄は、「配偶者」が25.6%と最も多く、次いで「娘」(23.0%)が多くなっている。

介護者の年代は、「70歳以上」が25.1%と最も多く、次いで「50歳代」(24.0%)、「60歳代」(23.8%)と、50歳以上が全体の72.9%を占める。

(2) 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

図 2-58 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

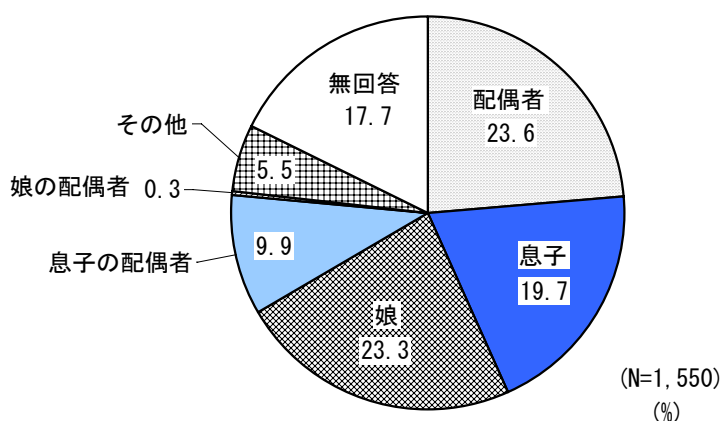
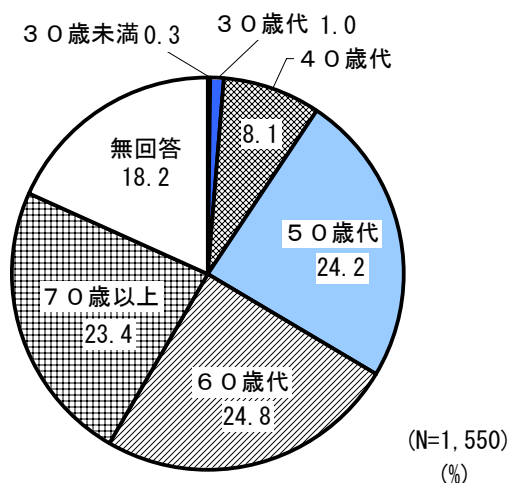


図 2-59 意思決定者の年代

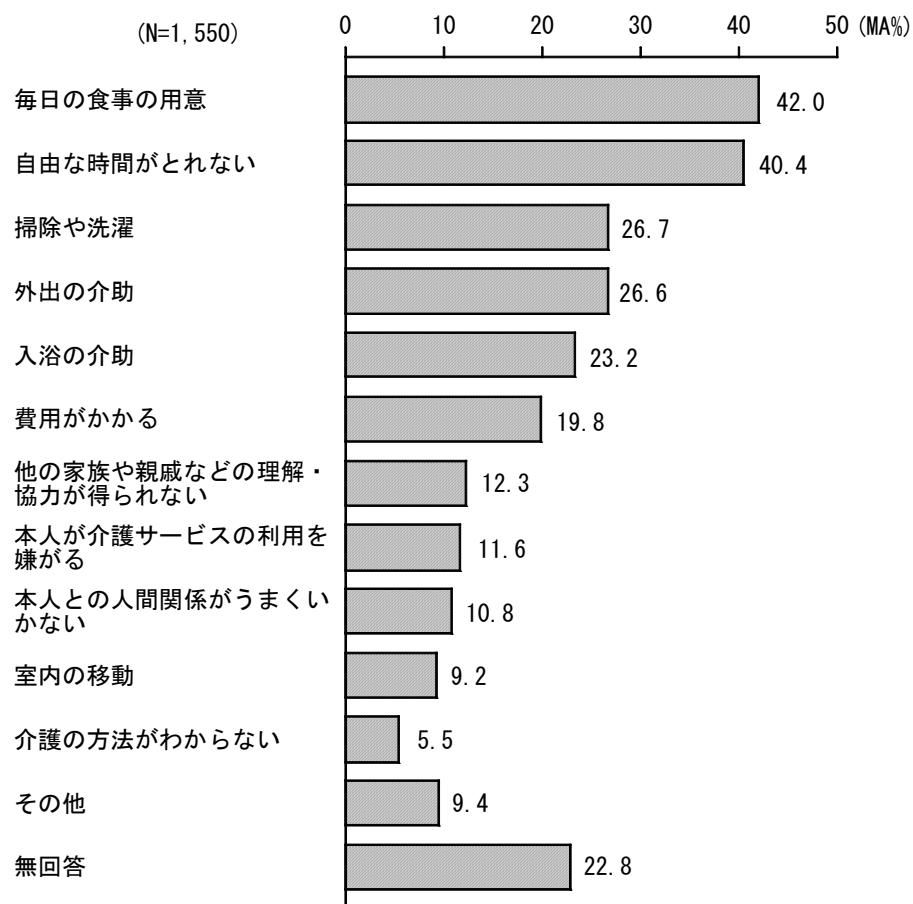


調査対象者がサービス利用する場合などの意思決定に最も関わっている人は、「配偶者」(23.6%)、「娘」(23.3%)、「息子」(19.7%)の三者が多くなっている。

この意思決定者の年代は、「60歳代」が24.8%と最も多く、次いで「50歳代」(24.2%)、「70歳以上」(23.4%)と、50歳以上が全体の72.4%を占める。

(3) 在宅介護の負担について

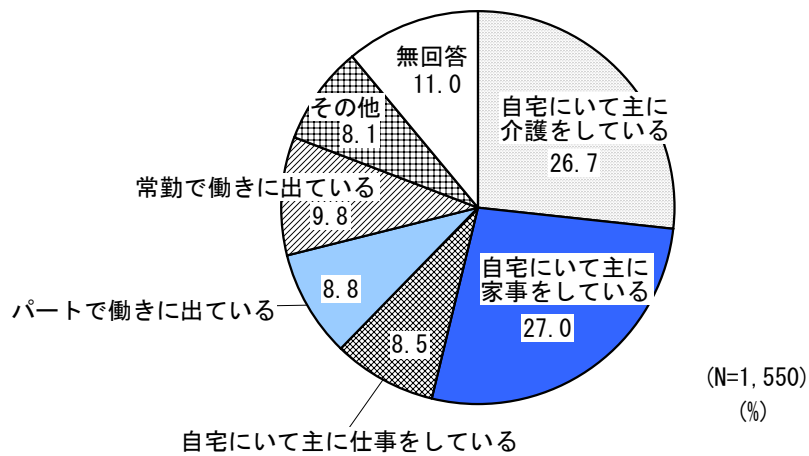
図 2-60 家庭における介護で負担が大きいと感じること



家庭における介護で負担が大きいと感じる介護内容は、「毎日の食事の用意」「自由な時間がとれない」がともに40%以上と多く、「掃除や洗濯」「外出の介助」「入浴の介助」の各項目についても20%台と多くなっている。

(4) 介護者の昼間の生活状況

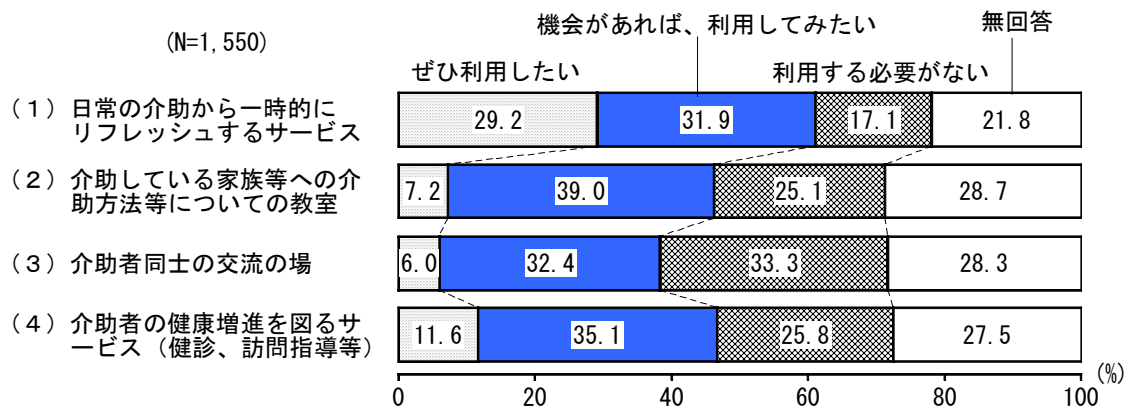
図 2-61 介護者の昼間の生活状況



介護者の昼間の生活状況をみると、「自宅にいて主に介護をしている」(26.7%) および「自宅にいて主に家事をしている」(27.0%) が多くなっている。

(5) 介護者支援施策に対する意向

図 2-62 介護者が利用したいサービス



介護者が利用したいと思うサービス(「ぜひ利用したい」に「機会があれば、利用してみたい」を加えた割合)としては、『(1) 日常の介助から一時的にリフレッシュするためのサービス』が61.1%と最も多くなっている。

第4章 居宅サービス未利用者調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 3-1 記入者

(上段：件 下段：%)

調査数 (N)	宛名の本人	家族	その他	無回答
670 100.0	368 54.9	256 38.2	4 0.6	42 6.3

アンケートの回答者は、「宛名の本人」54.9%に対し、「家族」が38.2%となっている。

イ 本人が回答できない理由

表 3-2 本人が回答できない理由

(上段：件 下段：%)

調査数 (N)	病院に入院中	老人ホームなど (介護保険施設に特別入所など)	病气やけが	物が忘れがあり、意思疎通が時々難しい	認知症のため意思疎通がいつも難しい	障害(身体障害、知的障害など)	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
260 100.0	91 35.0	25 9.6	2 0.9	55 21.0	34 13.2	21 8.1	1 0.3	6 2.1	19 7.4	6 2.4

本人が回答できない理由としては、「病院に入院中」が35.0%で最も多く、次いで「物忘れがあり、意思疎通が時々難しい」(21.0%)、「認知症のため意思疎通がいつも難しい」(13.2%)となっている。

(2) 年齢別・性別構成

図 3-1 年齢構成

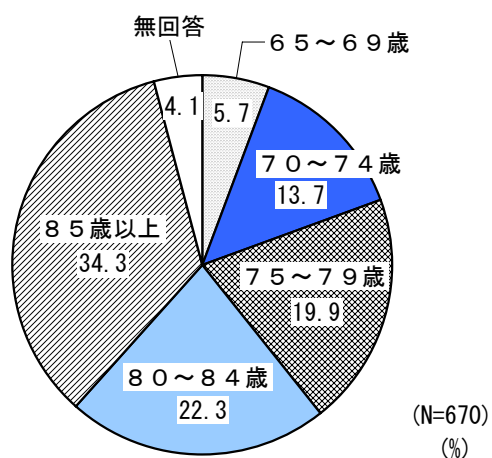
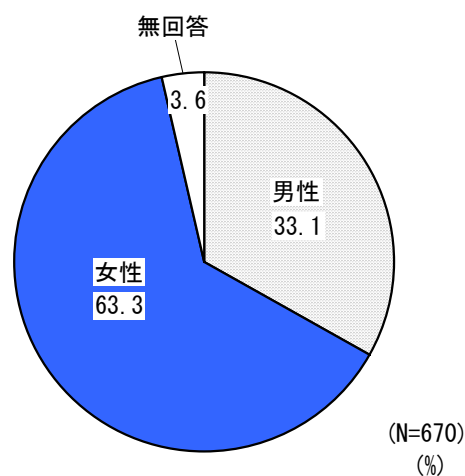


図 3-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「85歳以上」が34.3%と最も多く、次いで「80～84歳」(22.3%)、「75～79歳」(19.9%)と、年齢が上がるほど割合も高くなっている。

性別構成については、男性33.1%、女性63.3%と、女性の方が30ポイント多くなっている。

(3) 居住地域

ア 居住地区

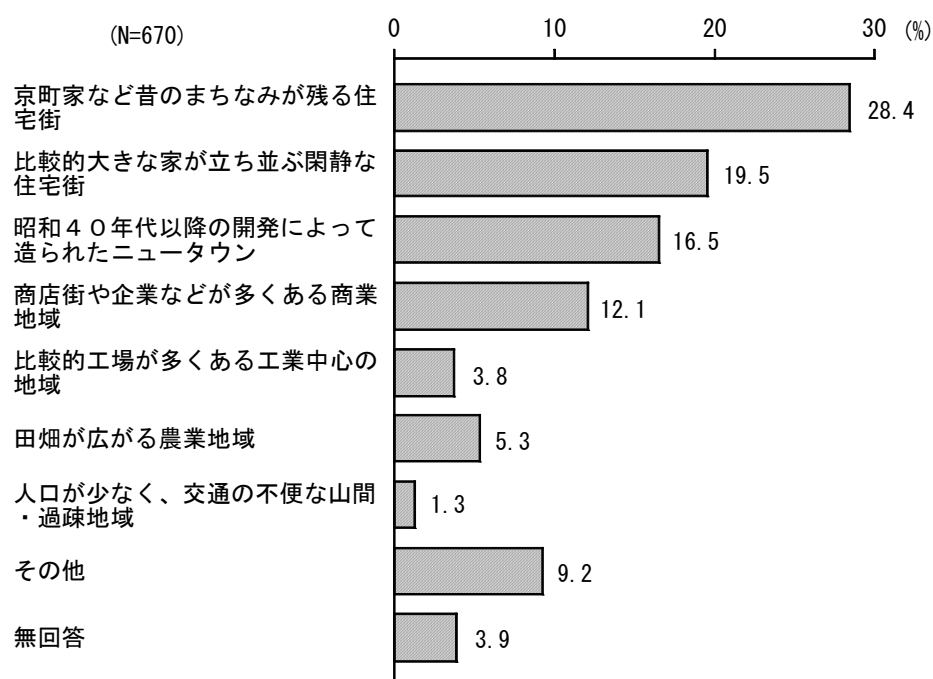
表 3-3 居住地区

調査数 (N)	(上段：件 下段：%)														
	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
670	57	52	69	55	32	56	39	30	93	48	7	108	7	9	8
100.0	8.5	7.8	10.3	8.2	4.7	8.4	5.8	4.5	13.9	7.2	1.0	16.1	1.1	1.4	1.1

居住地区は、「左京区」「右京区」「伏見区」の3区が10%を超えている。

イ 地域の特性

図 3-3 地域の特性

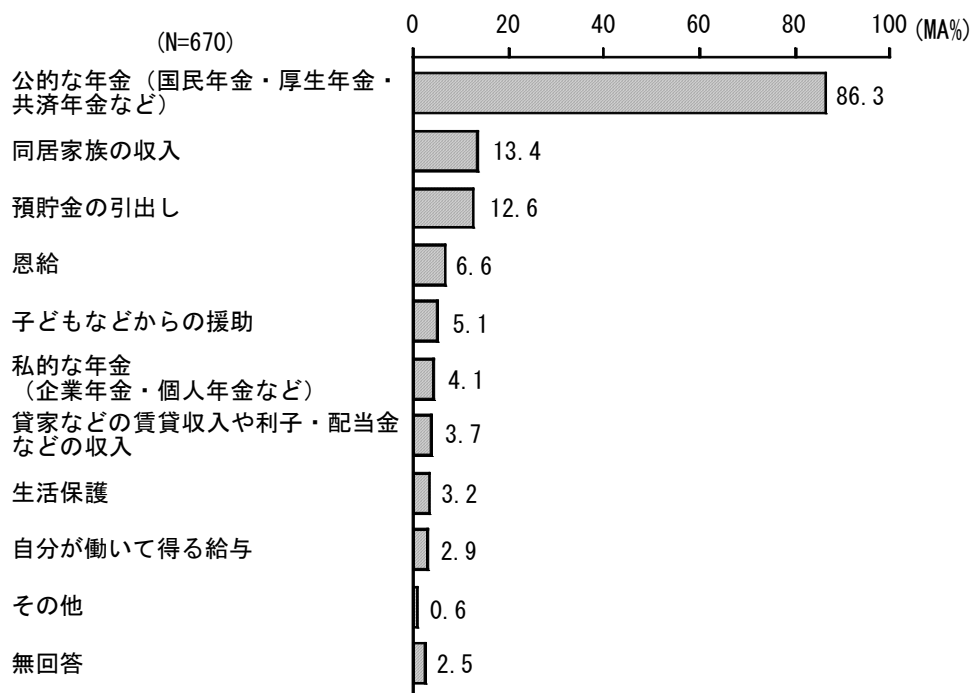


住まいの地域については、「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」が28.4%と最も多く、次いで「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」(19.5%)、「昭和40年代以降の開発によって造られたニュータウン」(16.5%)となっている。

(4) 収入

ア 主な収入源

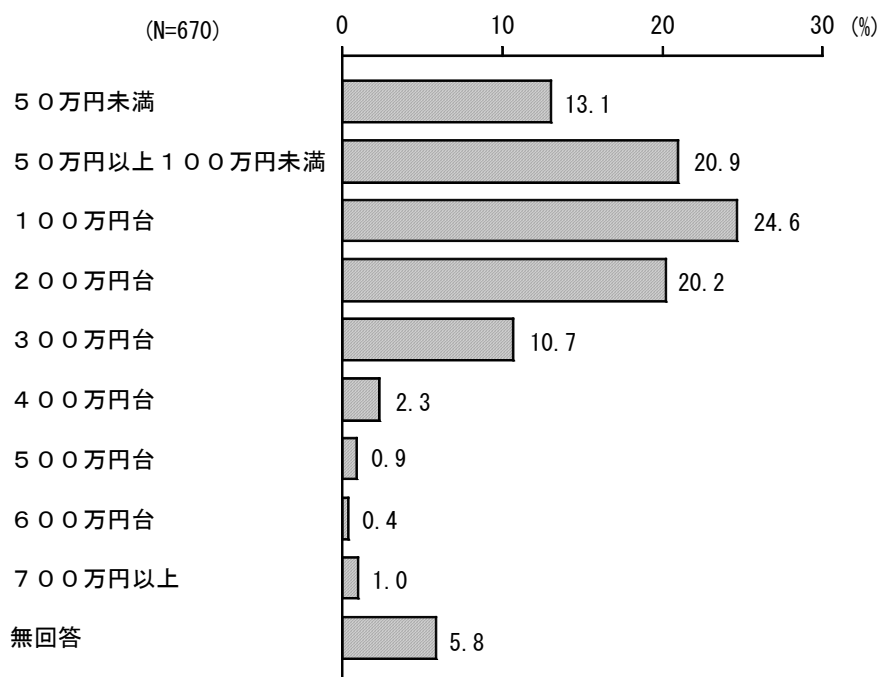
図 3-4 主な収入源



主な収入源については、「公的な年金（国民年金・厚生年金・共済年金など）」が86.3%で圧倒的に多く、次いで「同居家族の収入」が13.4%、「預貯金の引出し」が12.6%となっている。

イ 本人の年収

図 3-5 本人の年収

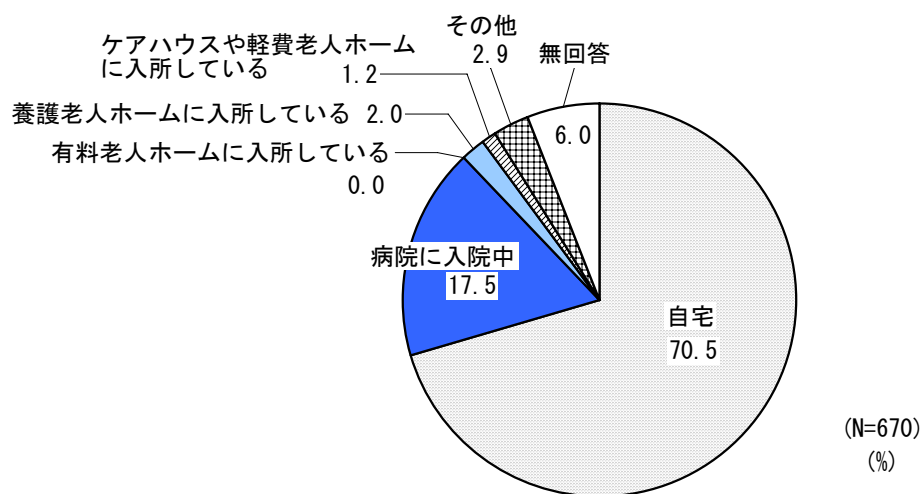


調査対象者本人の年収は、「100万円台」が24.6%と最も多く、次いで「50万円以上100万円未満」(20.9%)、「200万円台」(20.2%)となっている。

(5) 住居形態

ア 現在の居場所

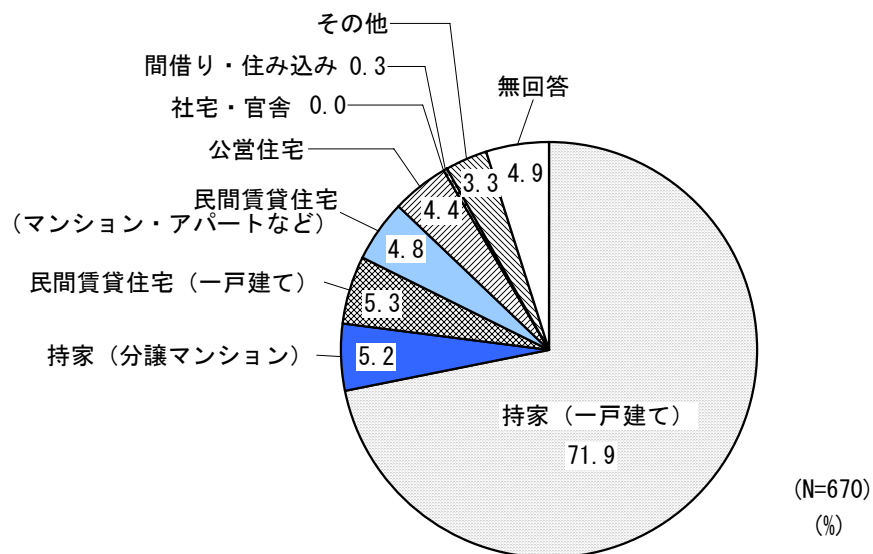
図 3-6 現在の居場所



現在の居場所としては、「自宅」が70.5%を占め、次いで「病院に入院中」(17.5%)となっている。

イ 住まいの形態

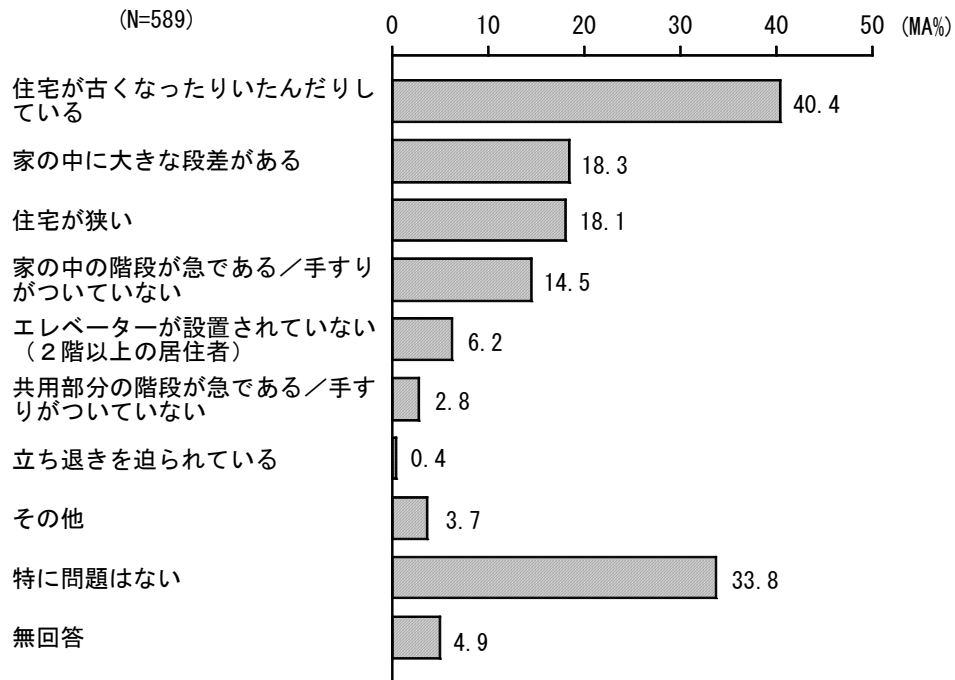
図 3-7 住まいの形態



自宅または入院中の人の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が71.9%と圧倒的に多く、次いで「民間賃貸住宅（一戸建て）」が5.3%、「持家（分譲マンション）」が5.2%となっている。

ウ 住まいの状況

図 3-8 住まいの状況

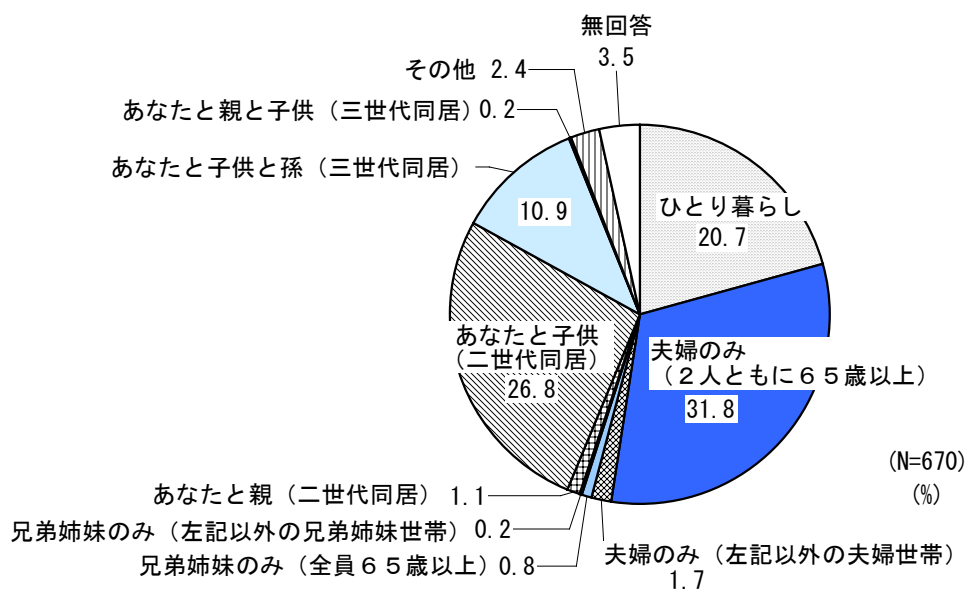


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が40.4%と最も多く、次いで「家の中に大きな段差がある」（18.3%）、「住宅が狭い」（18.1%）となっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成

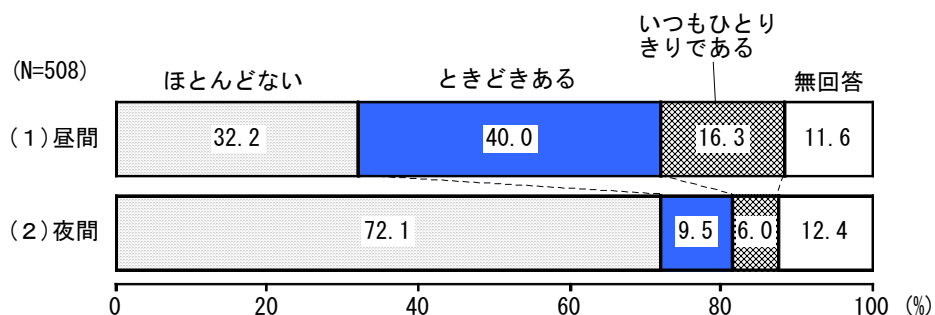
図 3-9 世帯構成



世帯構成は、「夫婦のみ（2人とも65歳以上）」が31.8%で最も多く、次いで「あなたと子供（二世帯同居）」（26.8%）、「ひとり暮らし」（20.7%）となっている。

イ 昼間独居等の状況

図 3-10 昼間独居等の状況



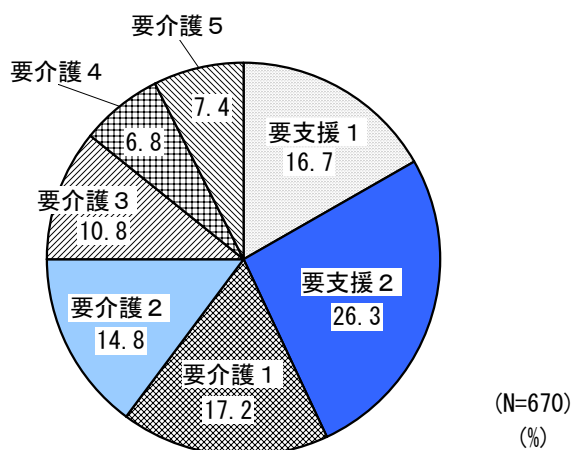
家族と同居している高齢者のうち、昼間、ひとりきりになることがある人は56.3%を占め、「いつもひとりきりである」は16.3%となっている。

同様に、夜間、ひとりきりになることがある人は15.5%であり、「いつもひとりきりである」は6.0%となっている。

(7) 要介護度とその変化

ア 要介護度

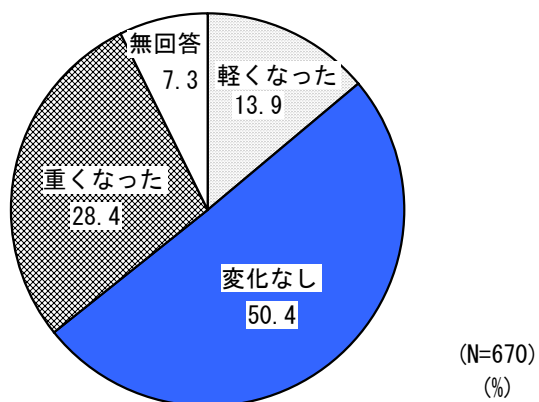
図 3-11 要介護度



調査対象者の要介護度は、「要支援 2」が26.3%と最も多く、次いで「要介護 1」(17.2%)、「要支援 1」(16.7%) となっている。

イ 要介護度の変化

図 3-12 要介護度の変化



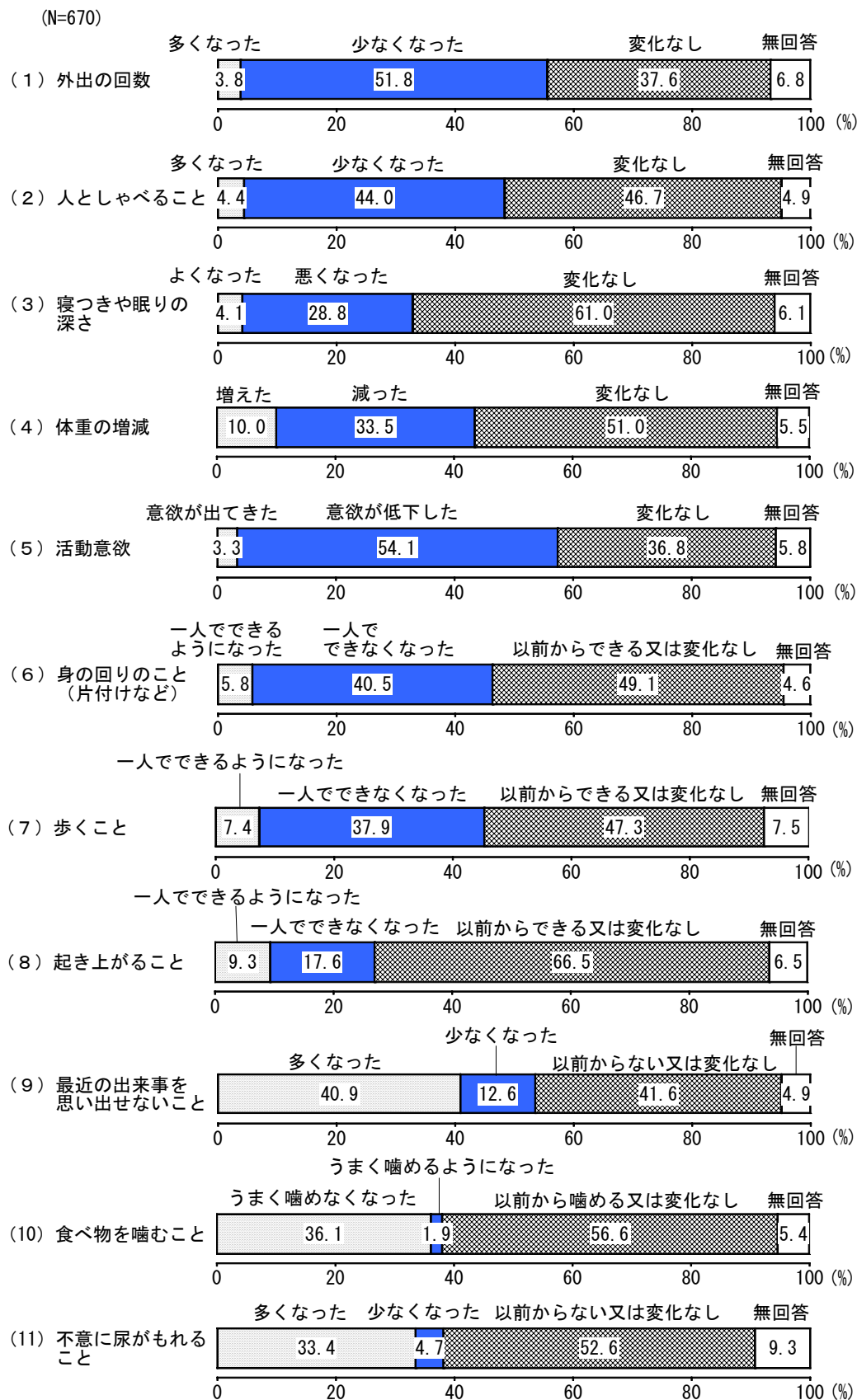
要介護度は「変化なし」が50.4%で最も多く、以前に比べて「軽くなった」は13.9%、それに対して「重くなった」は28.4%と多くなっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

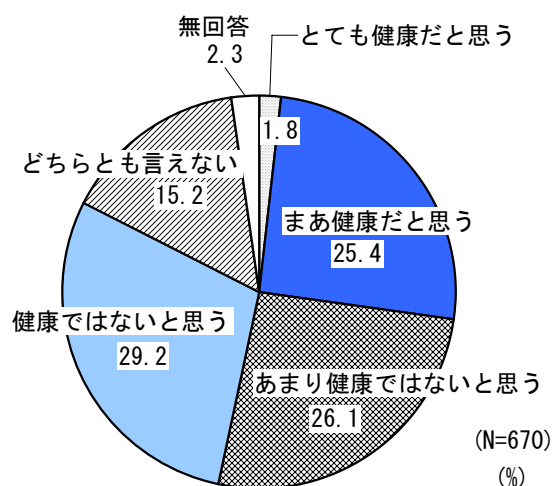
図 3-13 最近半年間の心身の変化



この半年間に心身の状態に変化が見られたかたずねたところ、『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(8) 起き上がること』では「変化なし」が60%以上を占めているが、『(1) 外出の回数』『(5) 活動意欲』では、低下や悪化を表す回答が50%台と多くなっている。

イ 日ごろの健康状態

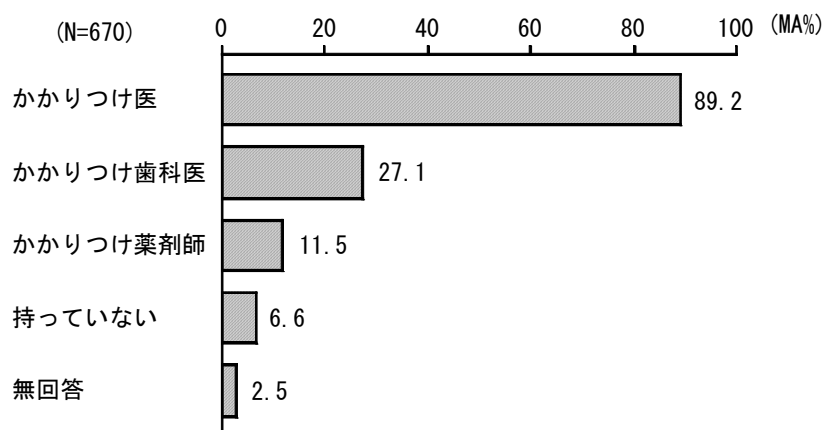
図 3-14 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う (計)』(「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合) の27.2%に対し、『健康ではないと思う (計)』(「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合) が55.3%と多くなっている。

ウ かかりつけ医の有無

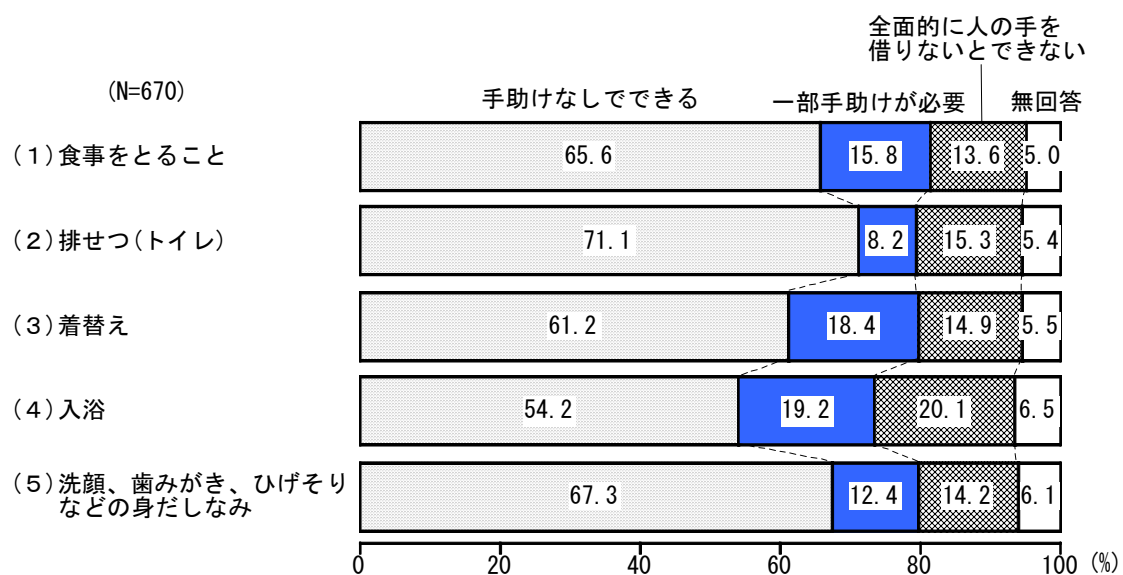
図 3-15 かかりつけ医の有無



かかりつけ医の有無については、「かかりつけ医」が89.2%を占め、次いで「かかりつけ歯科医」が27.1%、「かかりつけ薬剤師」が11.5%となっており、一方で「持っていない」は6.6%となっている。

(2) 日常生活動作（基本的A D L）

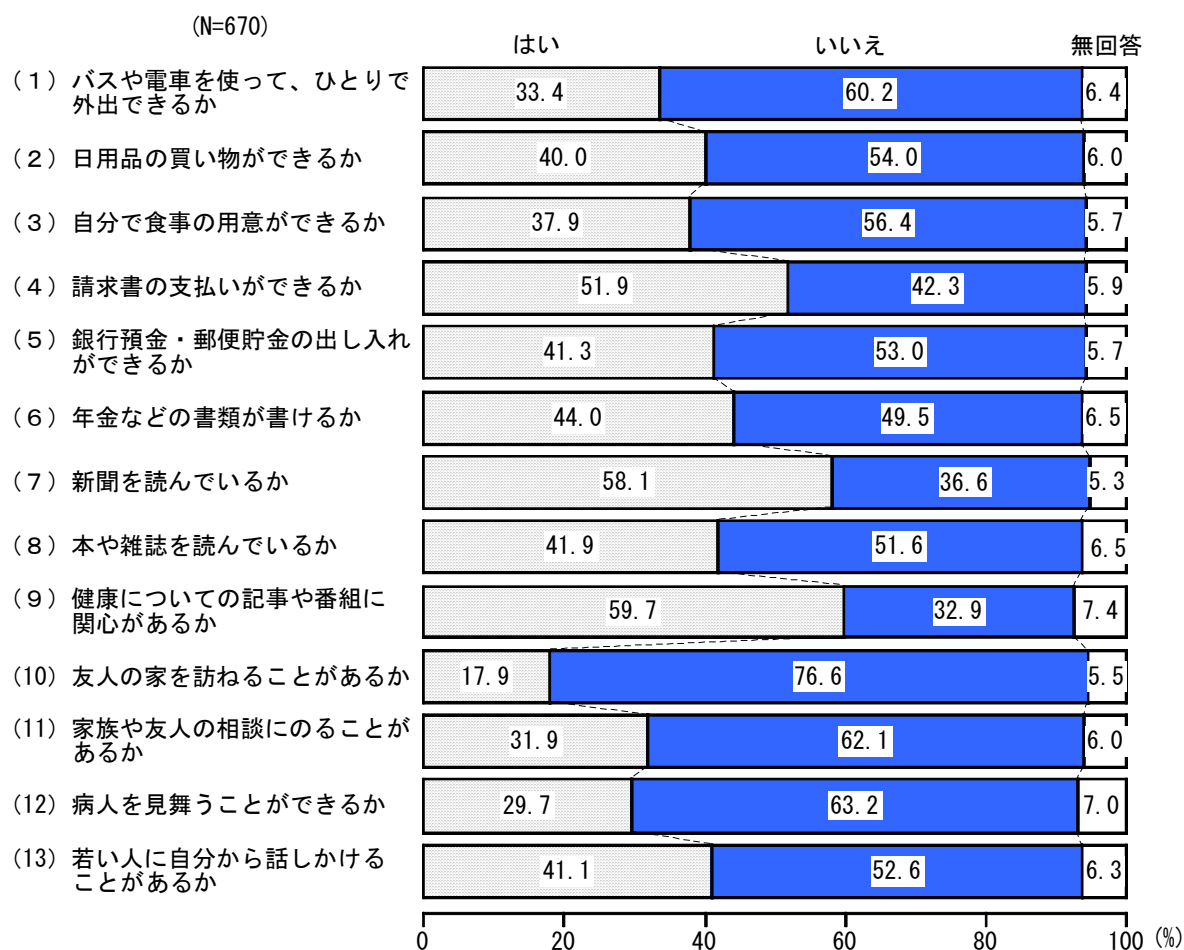
図 3-16 日常生活動作（基本的A D L）



基本的な日常基本動作のうち、『(4) 入浴』については「全面的に人の手を借りないとできない」が20.1%と多く、「一部手助けが必要」(19.2%)を合わせると、39.3%が介助を必要としている。

(3) 老研式活動能力指標（高次A D L）

図 3-17 老研式活動能力指標（高次A D L）



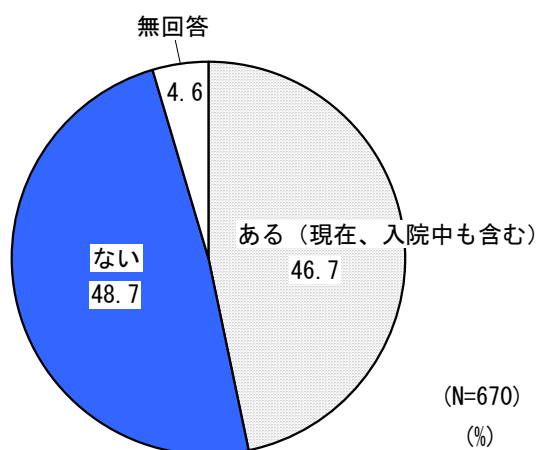
高次の日常生活動作をみると、老研式活動能力指標の13項目中、『(4) 請求書の支払いができるか』『(7) 新聞を読んでいるか』『(9) 健康についての記事や番組への関心があるか』について「はい」が50%以上を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがあるか』(76.6%)をはじめとして、『(12) 病人を見舞うことができるか』(63.2%),『(11) 家族や友人の相談にのることがあるか』(62.1%),『(1) バスや電車を使ってひとりで外出ができるか』(60.2%)などについては、「いいえ」の割合が高くなっている。

老研式活動能力指標総合点の平均は5.5点となっている。

(4) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この1年間に入院した経験

図 3-18 この1年間に入院した経験



この1年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め46.7%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 3-4 現在治療を受けている病気

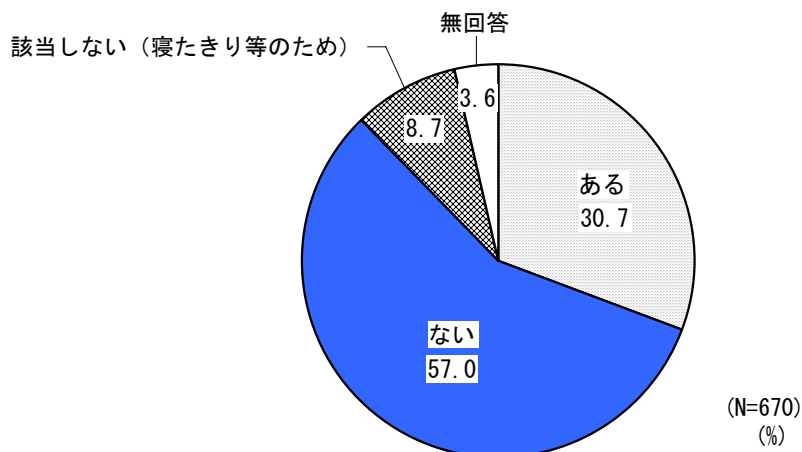
調査数 (N)	(上段：件 下段：MA%)																	
	高血圧症	腰痛、膝痛などの病気	眼の病気	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	歯の病気	糖尿病	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	消化器系疾患	泌尿器系疾患	耳、鼻の病気	呼吸器系疾患（喘息、肺炎など）	精神疾患	腎臓病	高脂血症	肝臓病	結核	その他	特にない
670	262	249	179	174	114	97	94	90	73	69	51	47	44	42	34	3	108	27
100.0	39.1	37.1	26.8	25.9	16.9	14.5	14.1	13.4	10.9	10.2	7.6	7.1	6.6	6.2	5.0	0.4	16.1	4.0
																		28
																		4.2

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」が39.1%と最も多く、次いで「腰痛、膝痛などの病気」が37.1%、「眼の病気」(26.8%)、「心臓病（心筋梗塞、狭心症など）」(25.9%)などとなっている。

(5) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

図 3-19 この1年間に転倒してケガをした経験

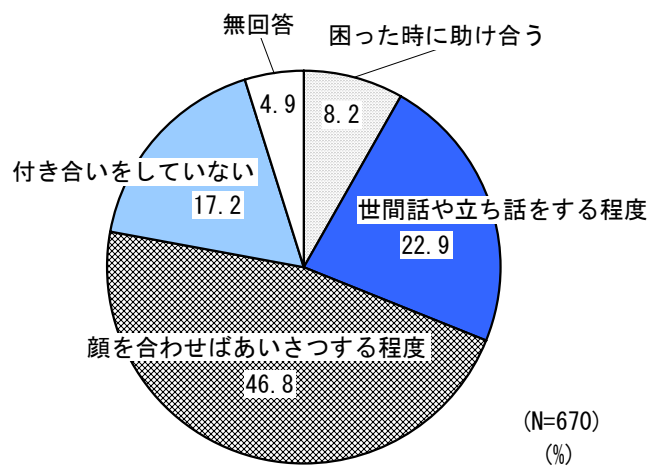


この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、30.7%となっている。

(6) 近所付き合い

ア 近所付き合いの程度

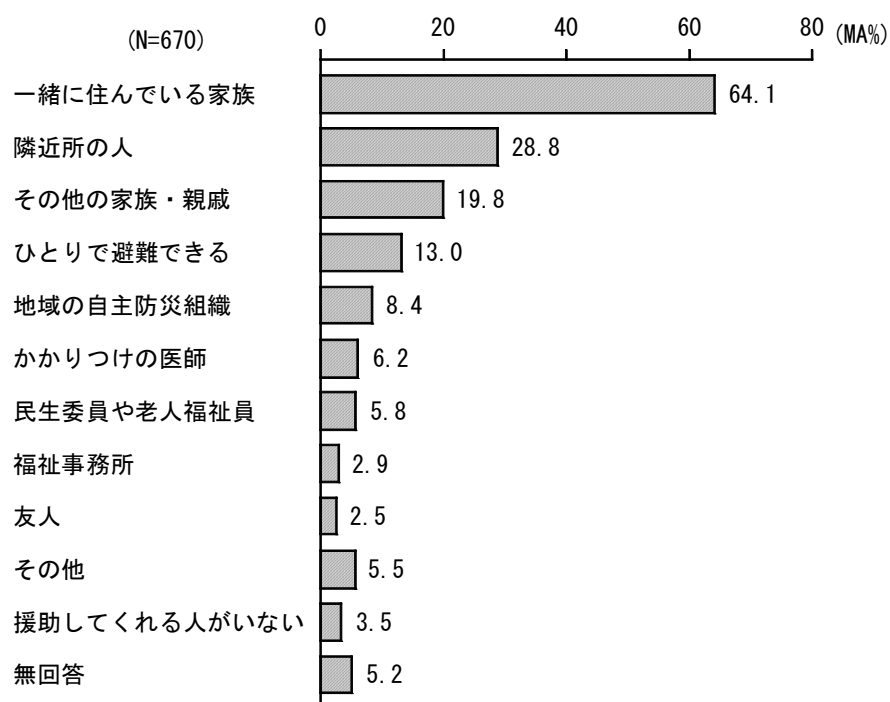
図 3-20 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度は、「顔を合わせばあいさつする程度」が46.8%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」(22.9%)であり、「困った時に助け合う」は8.2%となっている。

イ 災害時に避難が必要になった場合の援助者

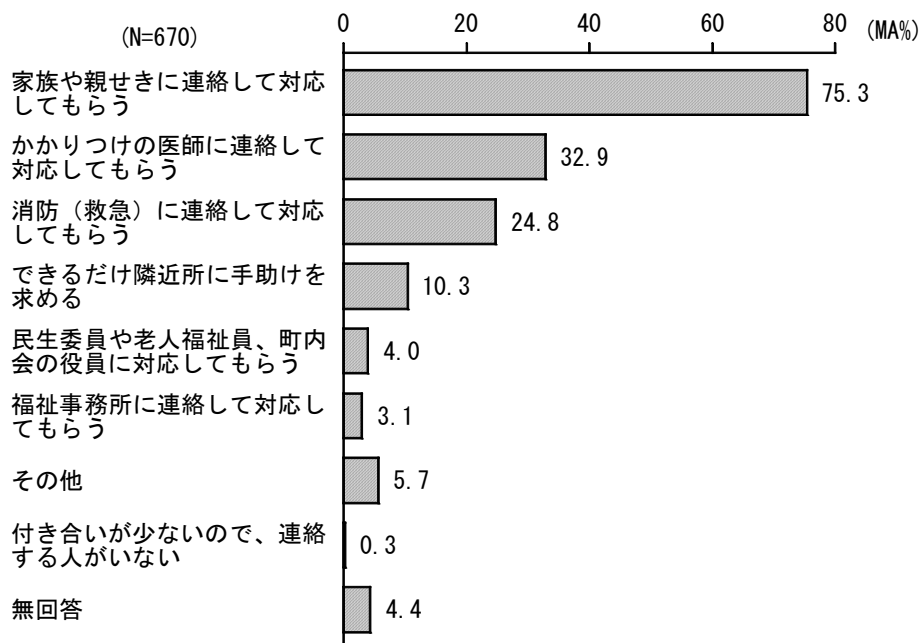
図 3-21 災害時に避難が必要になった場合の援助者



災害時に避難が必要になった場合の援助者については、「一緒に住んでいる家族」が64.1%で最も多く、次いで「隣近所の人」が28.8%、「その他の家族・親戚」が19.8%、「ひとりで避難できる」が13.0%となっている。

ウ 急病時の対処方法

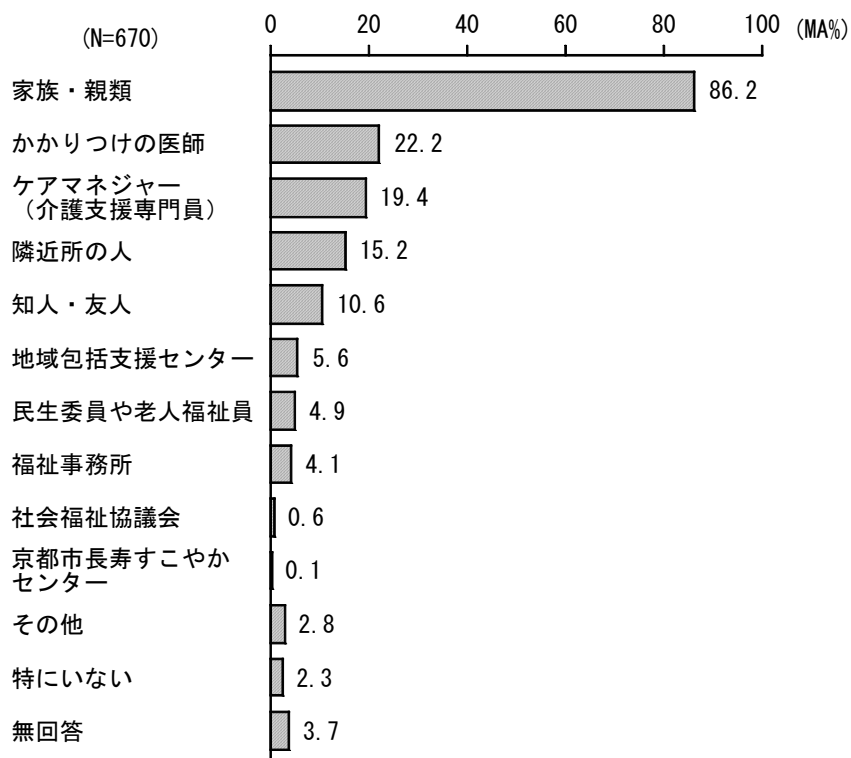
図 3-22 急病時の対処方法



急病時の対処方法については、「家族や親せきに連絡して対応してもらう」が75.3%で最も多く、次いで「かかりつけの医師に連絡して対応してもらう」が32.9%、「消防（救急）に連絡して対応してもらう」が24.8%となっている。

エ 相談相手

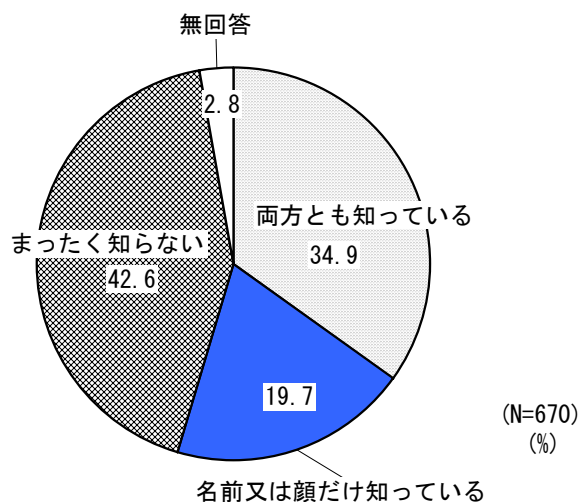
図 3-23 相談相手



相談相手については、「家族・親類」が86.2%で圧倒的に多くなっている。それ以外では、「かかりつけの医師」が22.2%、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が19.4%、「隣近所の人」が15.2%となっている。

オ 地域の町内会長の認知状況

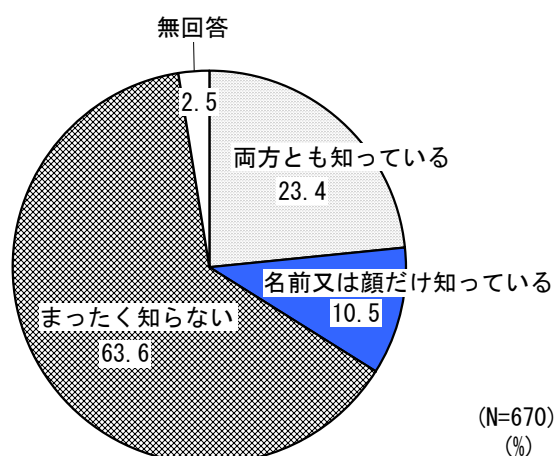
図 3-24 地域の町内会長の認知状況



地域の町内会長（自治会長）の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が42.6%と最も多く、「両方とも知っている」は34.9%、「名前又は顔だけ知っている」は19.7%となっている。

カ 地域の民生委員の認知状況

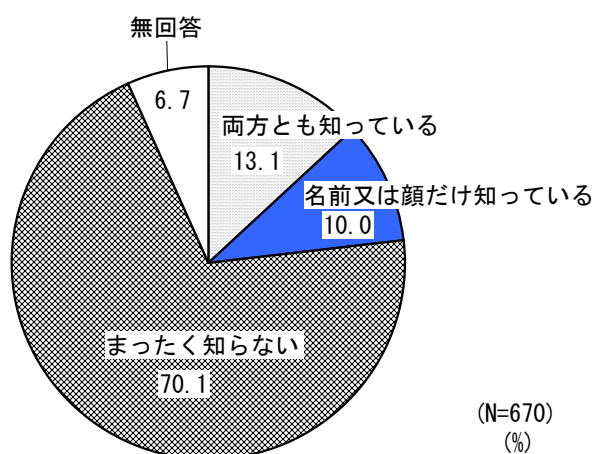
図 3-25 地域の民生委員の認知状況



地域の民生委員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く63.6%で、「両方とも知っている」は23.4%、「名前又は顔だけ知っている」は10.5%となっている。

キ 地域の老人福祉員の認知状況

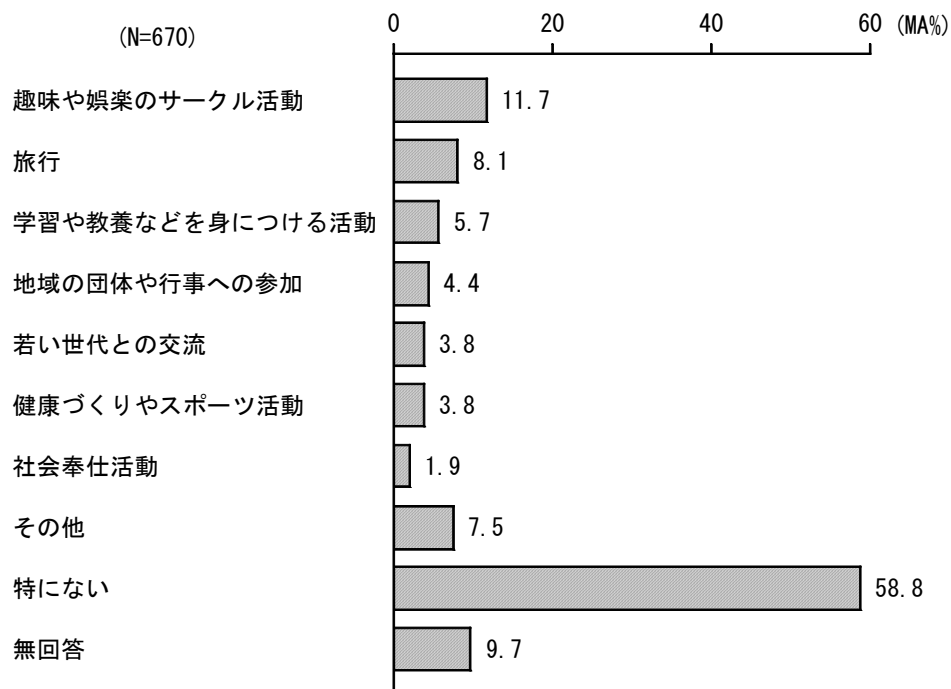
図 3-26 地域の老人福祉員の認知状況



地域の老人福祉員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く70.1%で、「両方とも知っている」は13.1%、「名前又は顔だけ知っている」は10.0%となっている。

(7) 生きがいを感じる活動

図 3-27 生きがいを感じる活動

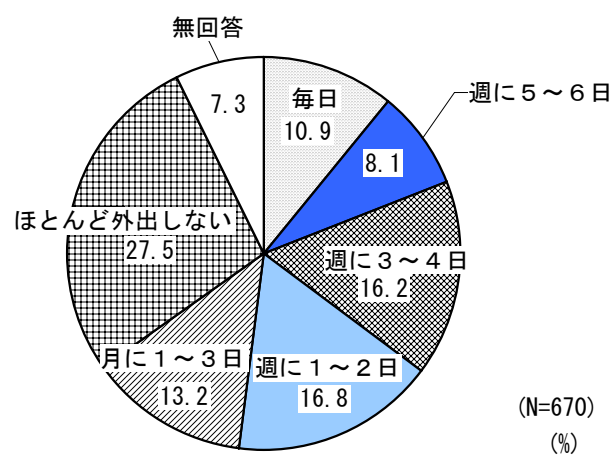


現在生きがいを感じる活動については、「特にない」が58.8%を占めている。生きがいを感じる活動としては、「趣味や娯楽のサークル活動」が11.7%、「旅行」が8.1%、「学習や強要などを身につける活動」が5.7%などとなっている。

(8) 外出の状況

ア 外出の頻度

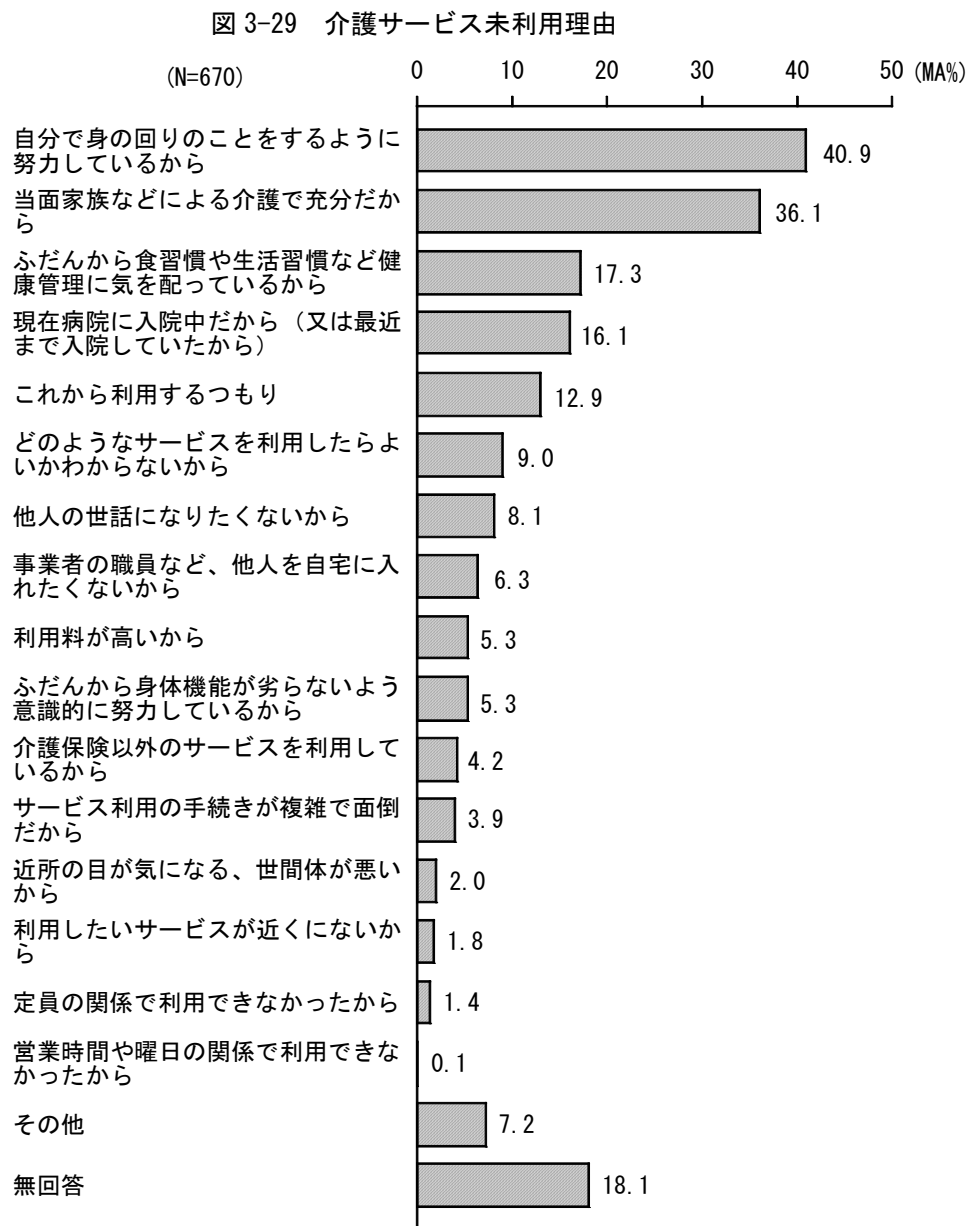
図 3-28 外出の頻度



外出する頻度をみると、「ほとんど外出しない」が27.5%と最も多く、次いで「週に1～2日」(16.8%)、「週に3～4日」(16.2%)となっている。

3 介護保険サービスの利用状況

(1) 介護サービス未利用理由

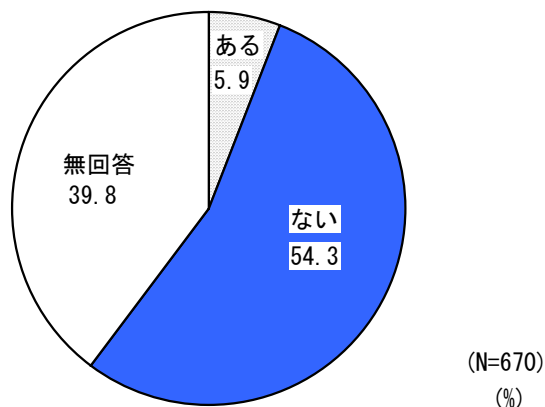


介護サービスの未利用理由については、「自分で身の回りのことをするように努力しているから」が40.9%で最も多く、次いで「当面家族などによる介護で充分だから」が36.1%、「ふだんから食習慣や生活習慣など健康管理に気を配っているから」が17.3%、「現在病院に入院中だから（又は最近まで入院していたから）」が16.1%などとなっている。

(2) 障害や疾患等を理由にサービス利用を断られた経験

ア 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無

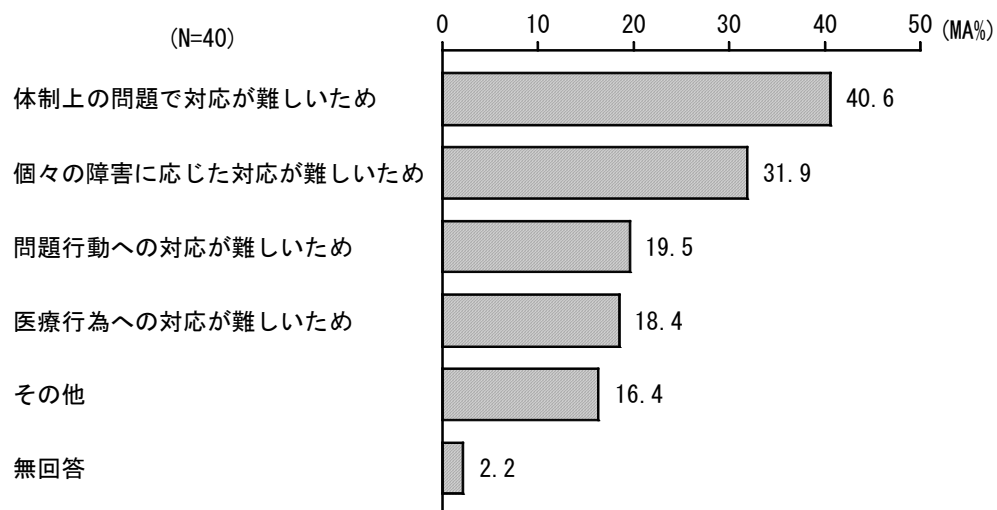
図 3-30 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無



障害や疾患等を理由に事業者から介護保険サービスの利用を断られたことがある人は、5.9%となっている。

イ 利用を断られた主な理由

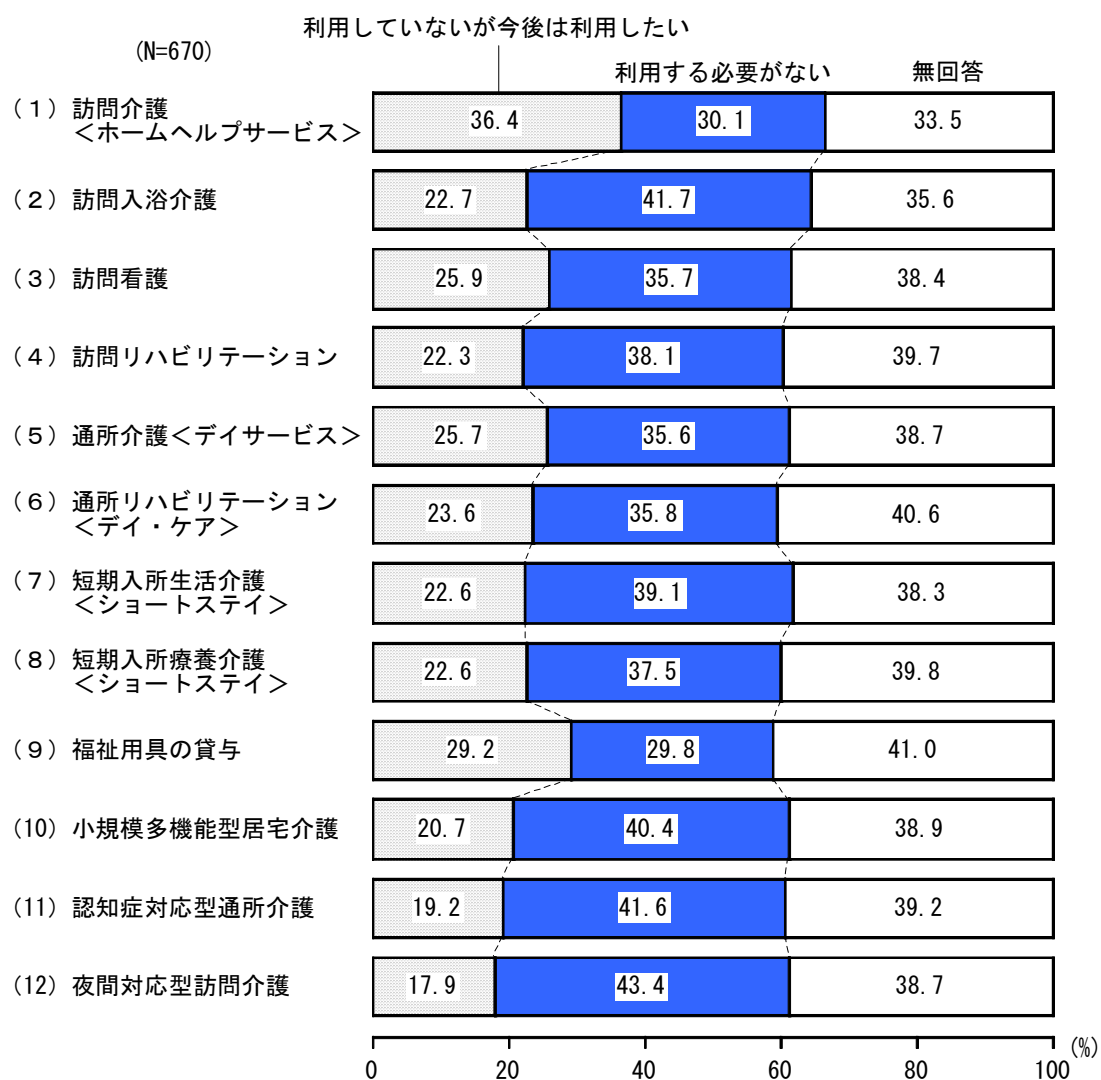
図 3-31 利用を断られた主な理由



サービスの利用を断られた主な理由としては、「体制上の問題で対応が難しいため」が40.6%で最も多く、次いで「個々の障害に応じた対応が難しいため」が31.9%、「問題行動への対応が難しいため」が19.5%となっている。

(3) 居宅サービスの利用意向

図 3-32 居宅サービスの利用意向

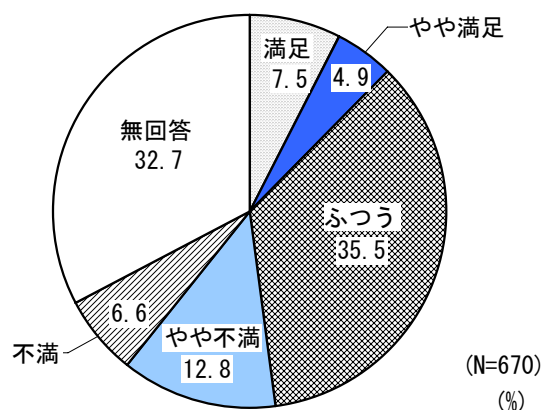


居宅サービスの今後の利用希望については、『(11) 認知症対応型通所介護』と『(12) 夜間対応型訪問介護』以外のサービスで20%を超えており、中でも『(1) 訪問介護（ホームヘルプサービス）』は36.4%で最も多くなっている。

(4) 事業者やサービス内容に関する情報への希望

ア 事業者やサービス内容に関する情報への満足度

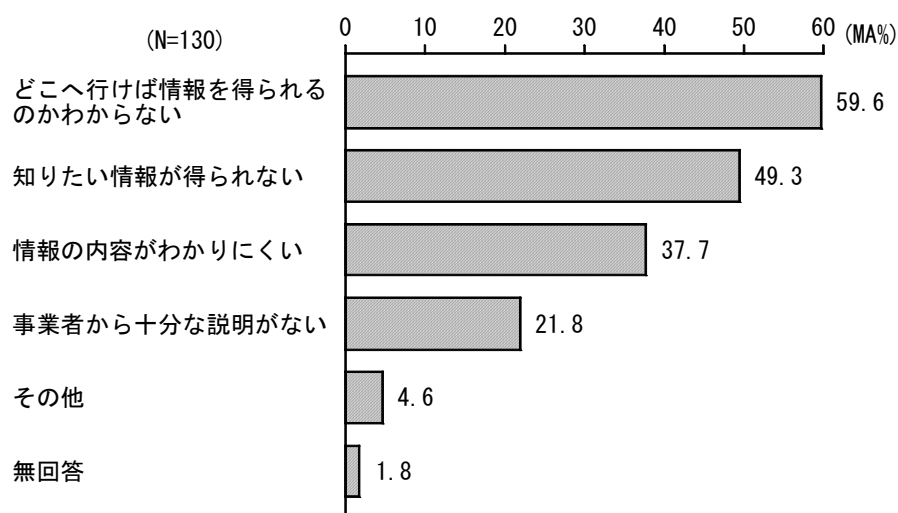
図 3-33 事業者やサービス内容に関する情報への満足度



事業者やサービス内容に関する情報入手について満足している人は、「やや満足」を合わせて全体の12.4%となっており、「不満」に「やや不満」を加えた『不満（計）』は19.4%となっている。

イ 不満を感じている点

図 3-34 不満を感じている点

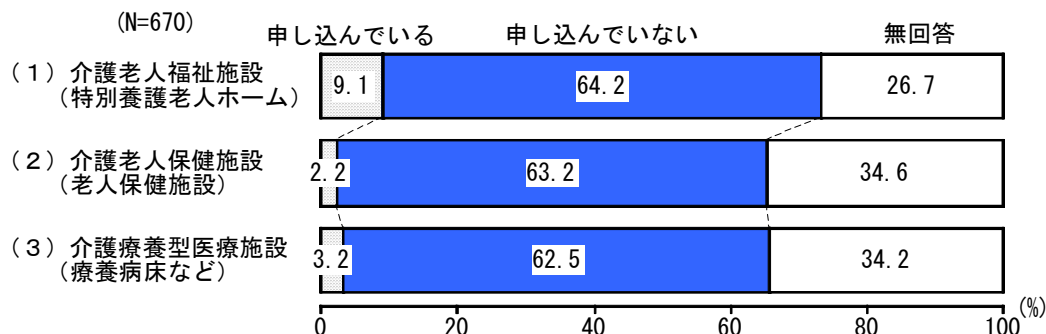


不満を感じている点としては、「どこへ行けば情報を得られるのかわからない」が59.6%と最も多く、次いで「知りたい情報が得られない」(49.3%)、「情報の内容がわかりにくい」(37.7%)、「事業者から十分な説明がない」(21.8%)の順で多くなっている。

(5) 介護保険施設への入所申込状況

ア 施設への申込みの有無

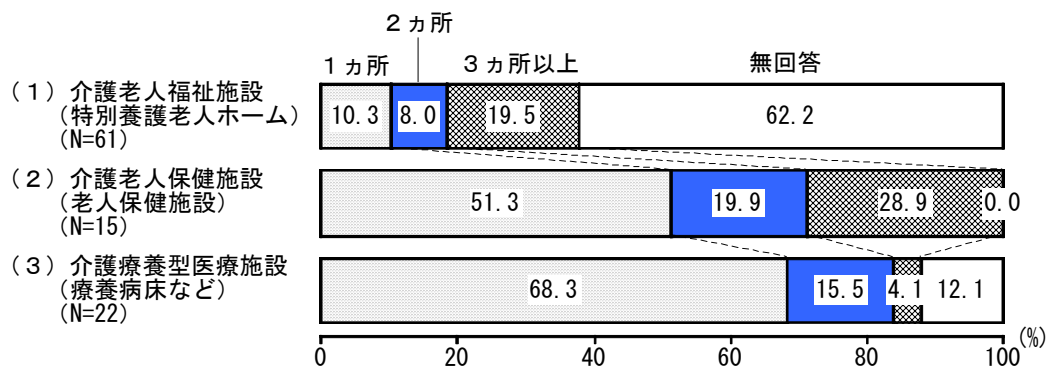
図 3-35 施設への申込みの有無



介護保険施設への申込み状況をみると、「申し込んでいる」は、介護老人福祉施設が9.1%、介護老人保健施設が2.2%、介護療養型医療施設が3.2%となっている。

イ 申込み施設数

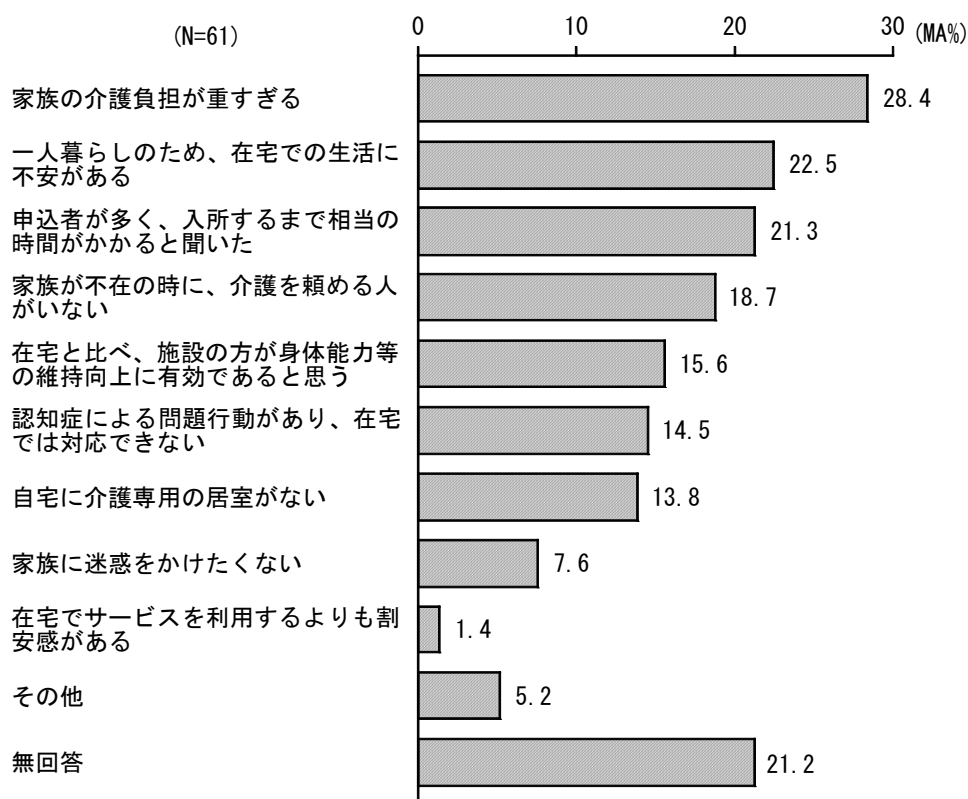
図 3-36 申込み施設数



申込み施設数については、介護老人福祉施設は「3カ所以上」が19.5%と最も多く、次いで「1カ所」(10.3%)となっている。介護老人保健施設及び介護療養型医療施設については、「1カ所」がそれぞれ51.3%、68.3%と過半数を占めている。

ウ 介護老人福祉施設に入所申込みをした理由

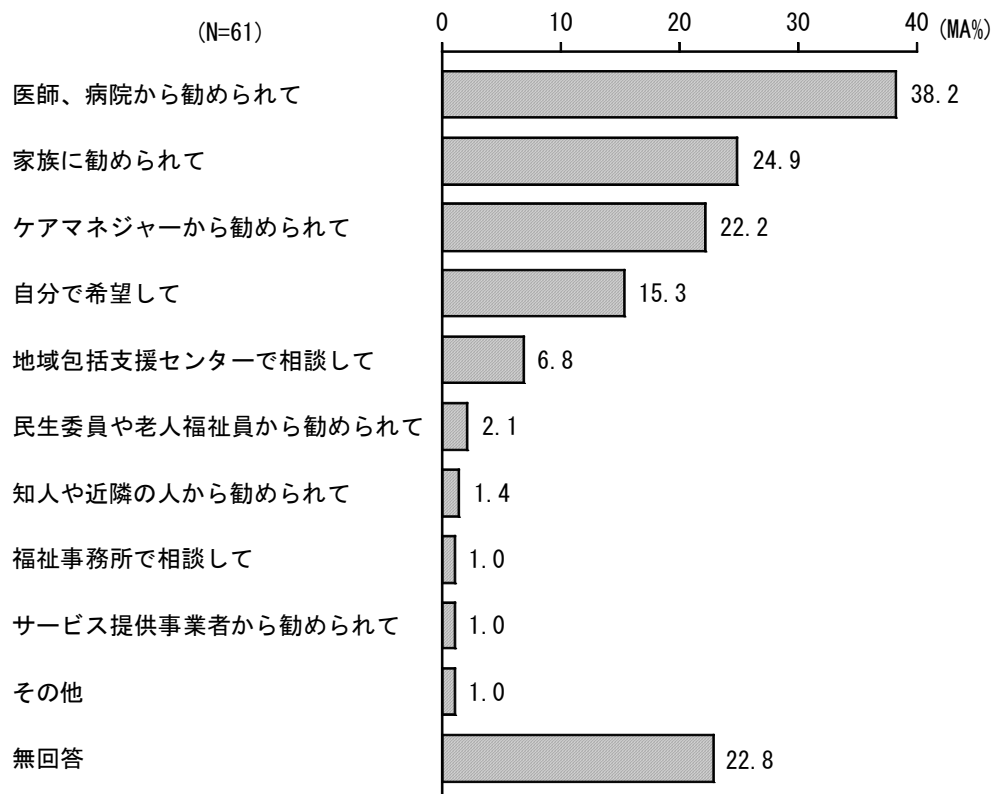
図 3-37 介護老人福祉施設に入所申込みをした理由



介護老人福祉施設に入所申込みをした理由としては、「家族の介護負担が重すぎる」が28.4%で最も多く、次いで「一人暮らしのため、在宅での生活に不安がある」(22.5%)、「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」(21.3%)、「家族が不在の時に、介護を頼める人がいない」(18.7%) などとなっている。

エ 介護老人福祉施設に入所申込みをしたきっかけ

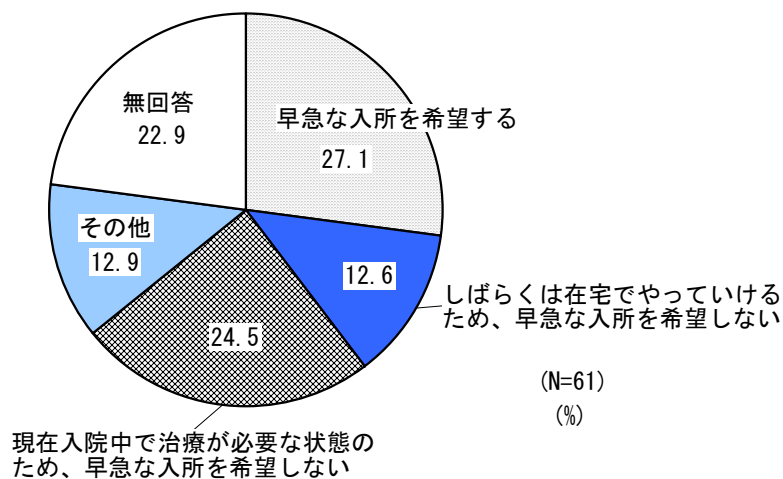
図 3-38 介護老人福祉施設に入所申込みをしたきっかけ



介護老人福祉施設に入所申込みをしたきっかけについては、「医師、病院から勧められて」が38.2%で最も多く、次いで「家族に勧められて」(24.9%)、「ケアマネジャーから勧められて」(22.2%)が多くなっている。

オ 介護老人福祉施設への早急な入所希望の有無

図 3-39 介護老人福祉施設への早急な入所希望の有無

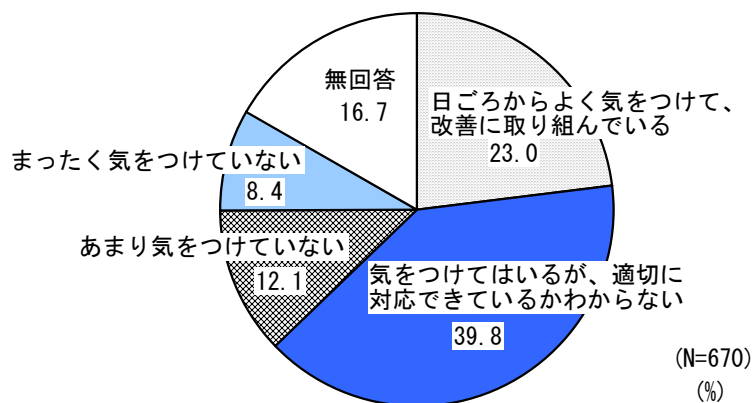


介護老人福祉施設への早急な入所を希望している人は27.1%であり、「現在入院中で治療が必要な状態のため、早急な入所を希望しない」が24.5%となっている。

4 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

図 3-40 心身の変化への対応・改善の有無

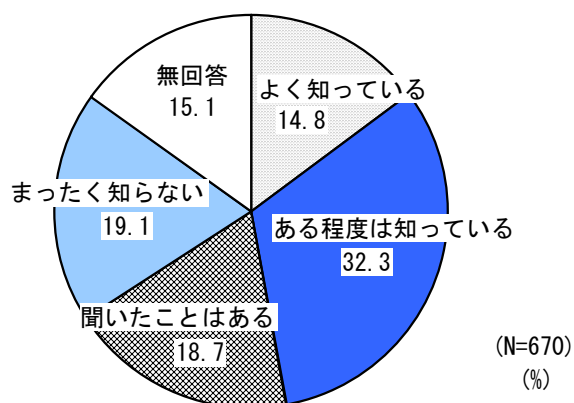


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の62.8%を占め、「改善に取り組んでいる」人は23.0%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 介護予防の認知状況

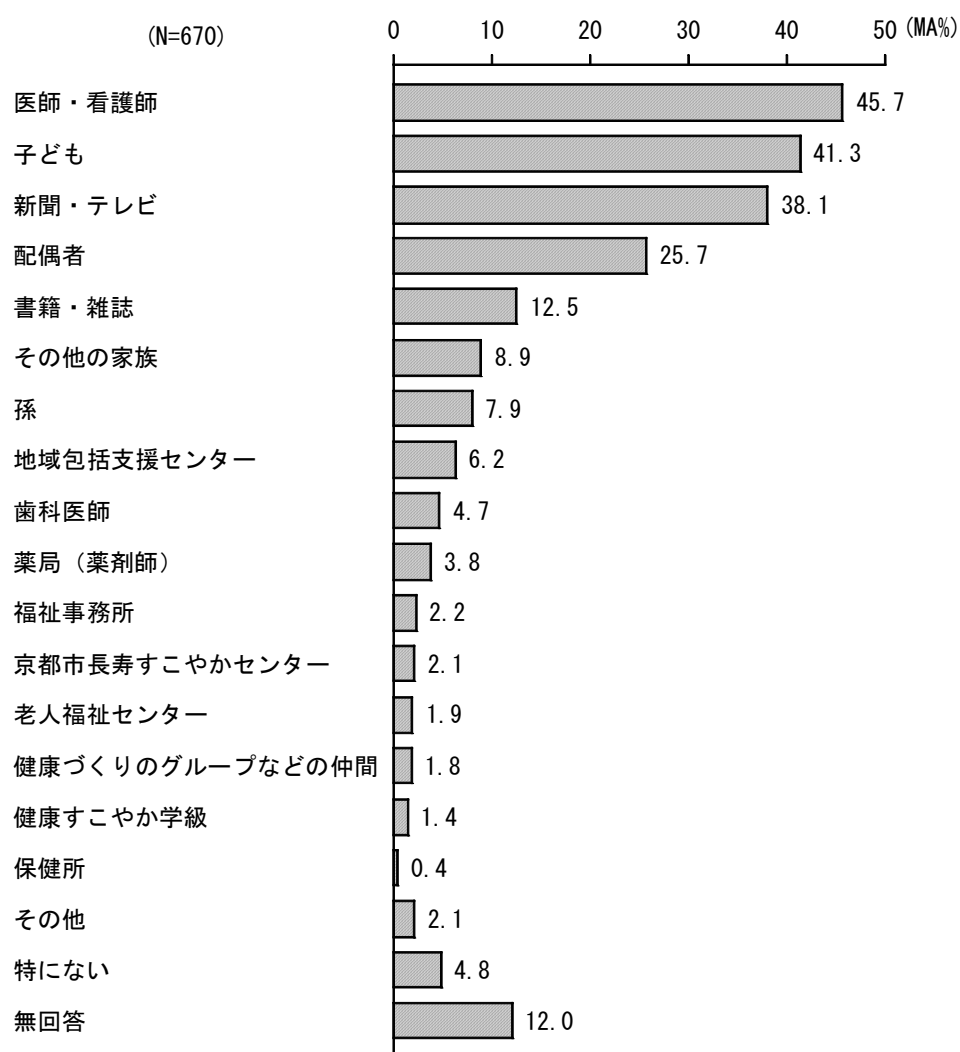
図 3-41 介護予防の認知状況



介護予防について、『知っている（計）』（「よく知っている」に「ある程度は知っている」を加えた割合）と答えた人は47.1%となっている。

イ 介護予防等に関する情報の入手方法

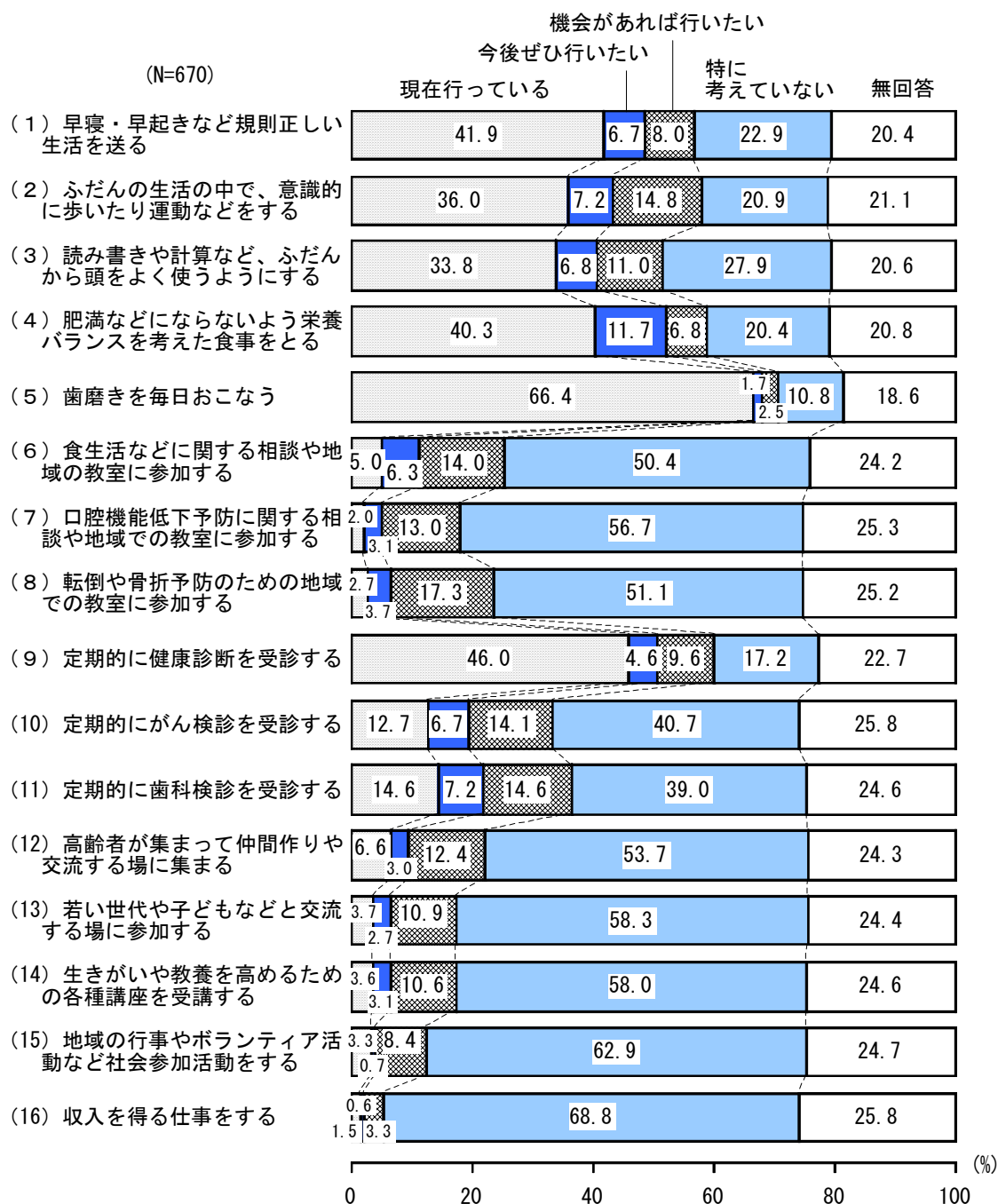
図 3-42 介護予防等に関する情報の入手方法



介護予防等に関する情報の入手方法は、「医師・看護師」が45.7%と最も多く、次いで「子ども」が41.3%、「新聞・テレビ」が38.1%となっている。

ウ 病気・老化の予防のため取り組んでいること

図 3-43 病気・老化の予防のため取り組んでいること



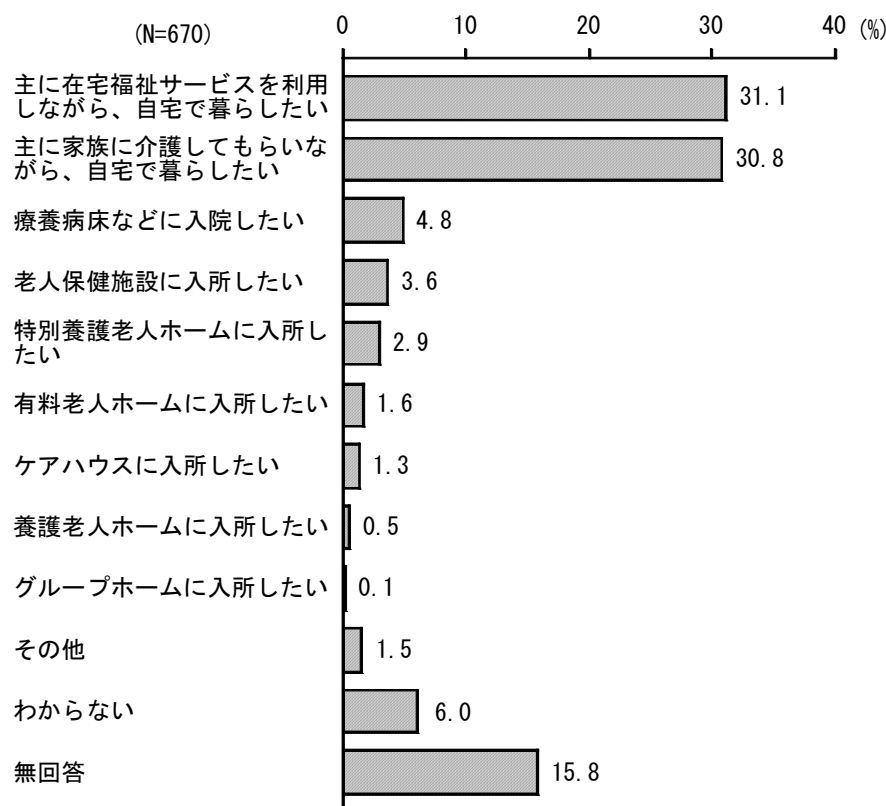
病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、『歯磨きを毎日おこなう』が66.4%と最も多く、次いで『定期的に健康診断を受診する』(46.0%)、『早寝・早起きなど規則正しい生活を送る』(41.9%)、『肥満などにならないよう栄養バランスを考えた食事をする』(40.3%) などとなっている。

今後、取組意向(「今後ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合)の高い活動は、『ふだんの生活の中で、意識的に歩いたり運動などをする』(22.0%)、『定期的に歯科検診を受診する』(21.8%)、『転倒や骨折予防のための地域での教室に参加する』(21.0%)、『定期的ながん検診を受診する』(20.8%)、『食生活などに関する相談や地域の教室に参加する』(20.3%) などである。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

ア 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

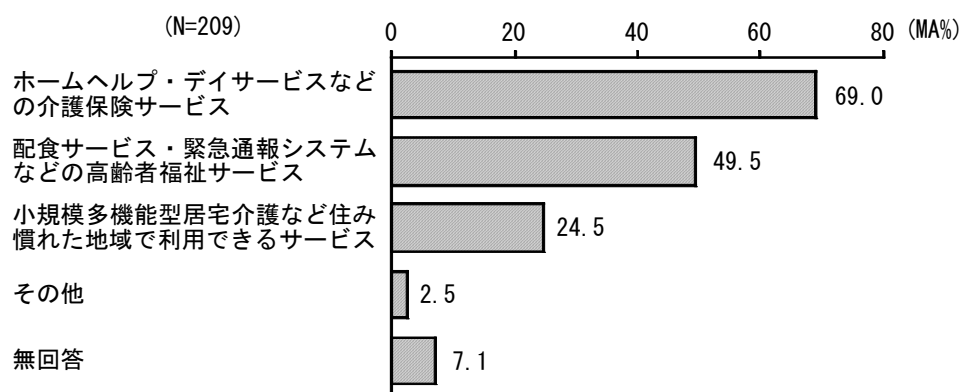
図 3-44 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方



調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が31.1%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が30.8%となっており、合計すると全体の61.9%が自宅での生活を希望している。

イ 在宅福祉サービスの利用意向

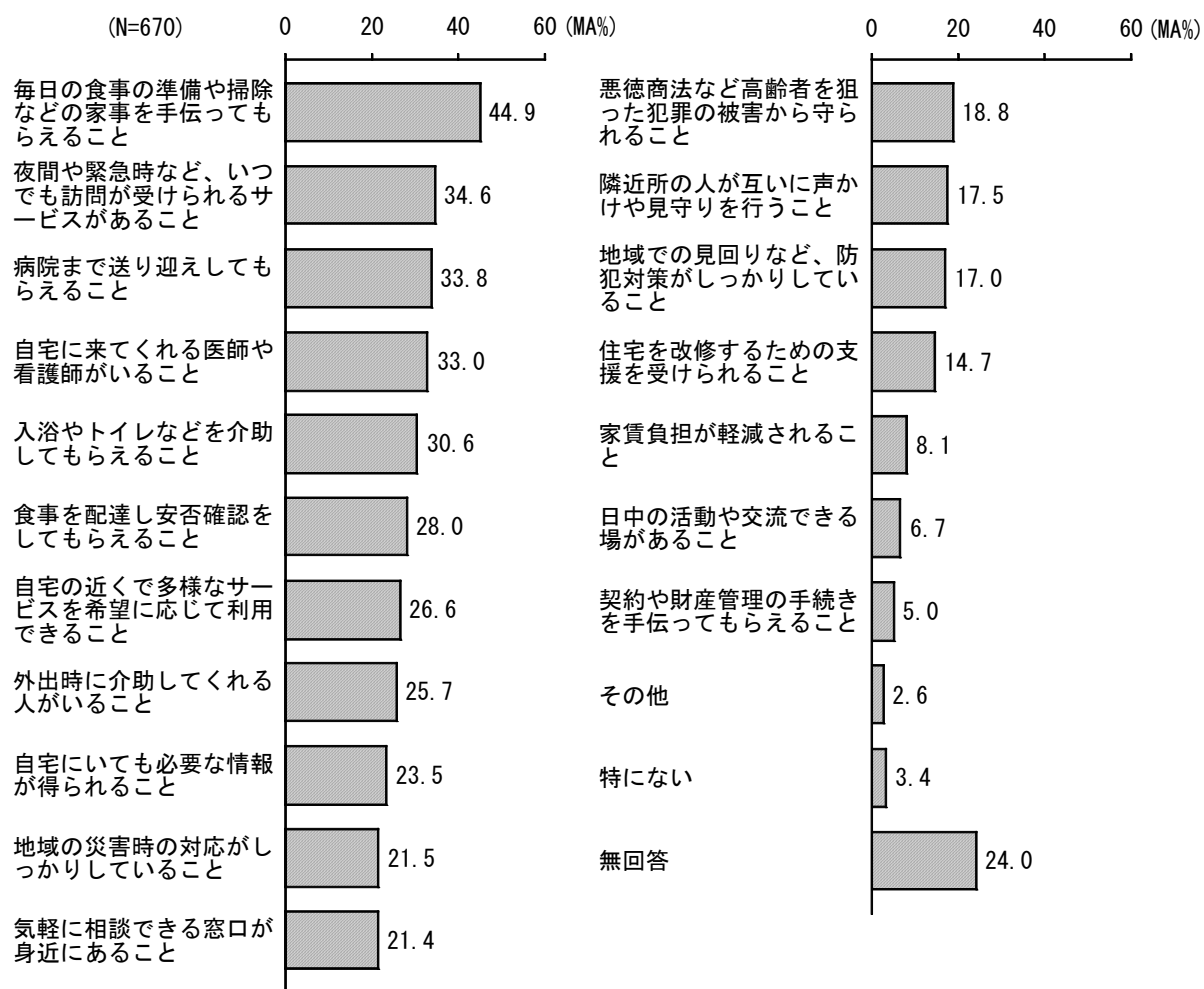
図 3-45 在宅福祉サービスの利用意向



自宅で在宅福祉サービスを利用しながら暮らしていく場合に利用したいサービスについては、「ホームヘルプ・デイサービスなどの介護保険サービス」が69.0%で最も多く、次いで「配食サービス・緊急通報システムなどの高齢者福祉サービス」(49.5%)となっている。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 3-46 在宅生活を続けていく上で必要な支援

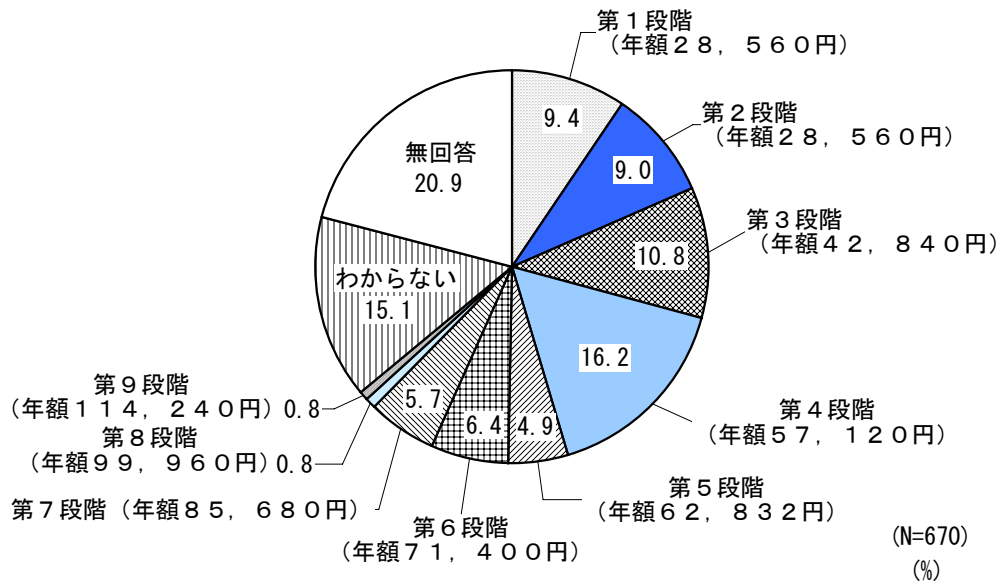


在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が44.9%と最も多く、次いで「夜間や緊急時など、いつでも訪問が受けられるサービスがあること」(34.6%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(33.8%)、「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(33.0%)、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(30.6%) などとなっている。

5 介護保険制度について

(1) 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

図 3-47 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

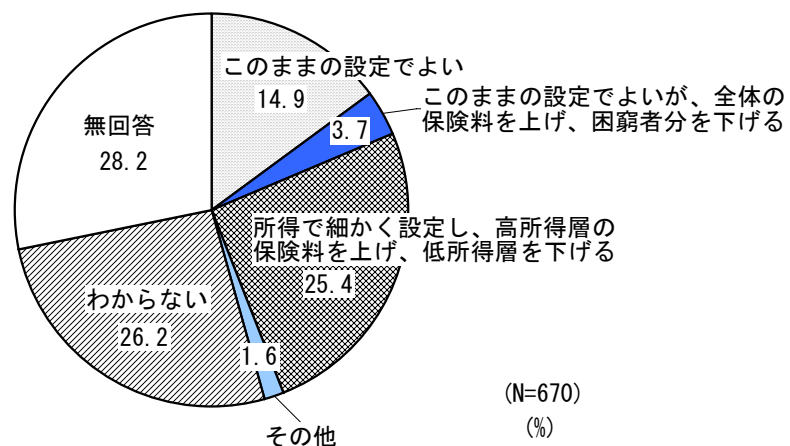


第1号被保険者保険料の所得段階別区分は、「第4段階」が16.2%、「第3段階」が10.8%と多くなっている。

(2) 保険料の設定および給付・負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定について

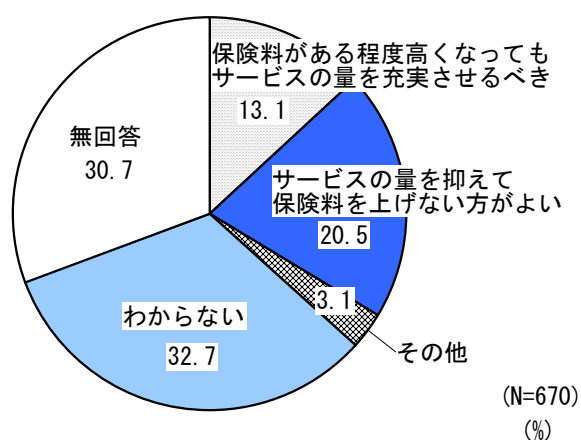
図 3-48 介護保険料の設定について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得で細かく設定し、高所得層の保険料を上げ、低所得層を下げる」が25.4%と多く、「このままの設定でよい」は14.9%、「このままの設定でよいが、全体の保険料を上げ、困窮者分を下げる」は3.7%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

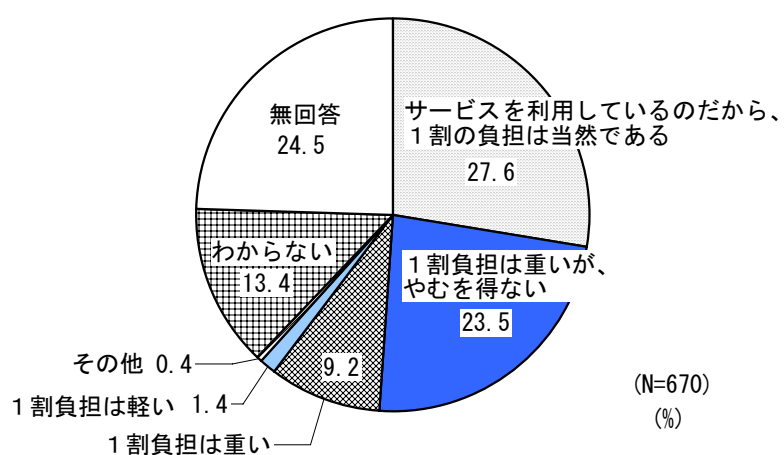
図 3-49 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「サービスの量を抑えて保険料を上げない方がよい」が20.5%で最も多く、「保険料がある程度高くなってもサービスの量を充実させるべき」は13.1%となっている。

ウ 利用者負担について

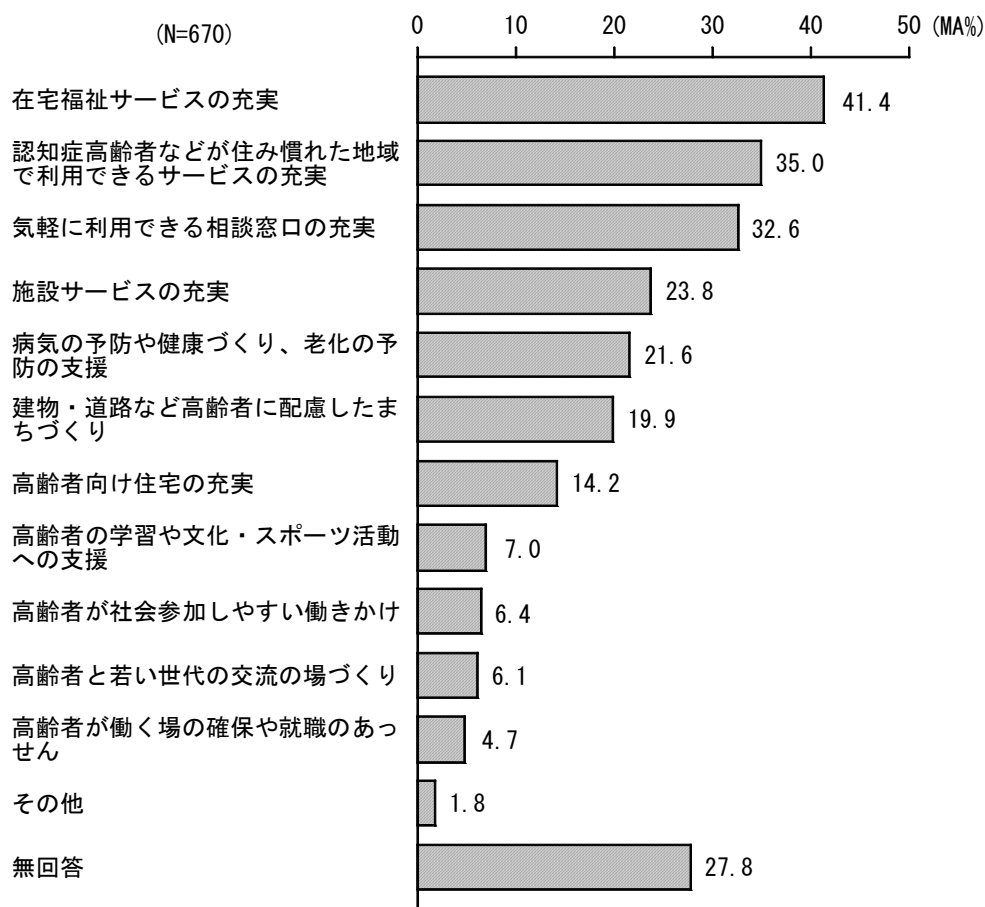
図 3-50 利用者負担について



介護サービス利用料の1割負担については、「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」が27.6%と最も多く、「1割負担は重い、やむを得ない」も23.5%と多くなっている。

(3) 高齢者保健福祉について充実を希望する施策

図 3-51 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「在宅福祉サービスの充実」が41.4%と最も多く、次いで「認知症高齢者などが住み慣れた地域で利用できるサービスの充実」(35.0%)、「気軽に利用できる相談窓口の充実」(32.6%)、「施設サービスの充実」(23.8%)、「病気の予防や健康づくり、老化の防止の支援」(21.6%)の順となっている。

6 在宅介護の状況について

(1) 介護者の続柄・年代

図 3-52 介護者の続柄

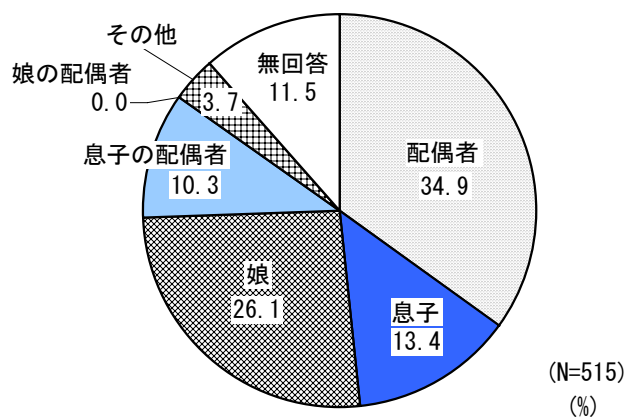
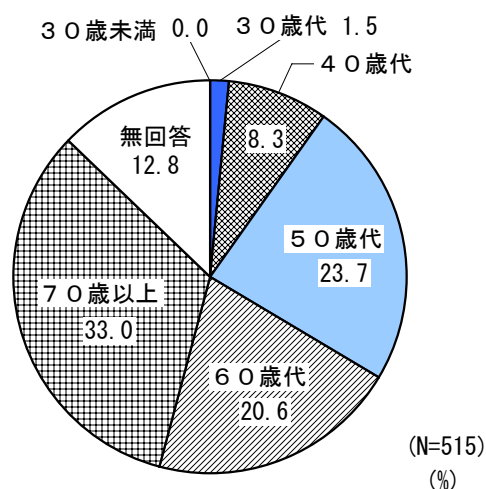


図 3-53 介護者の年代



調査対象者からみた介護者の続柄は、「配偶者」が34.9%と最も多く、次いで「娘」(26.1%)が多くなっている。

介護者の年代は、「70歳以上」が33.0%と最も多く、次いで「50歳代」(23.7%)、「60歳代」(20.6%)と、50歳以上が全体の77.3%を占める。

(2) 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

図 3-54 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

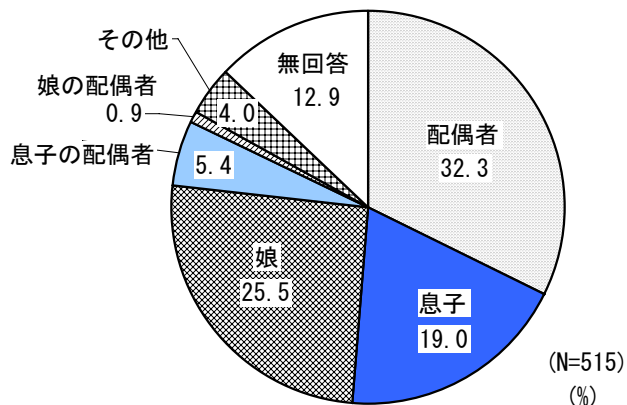
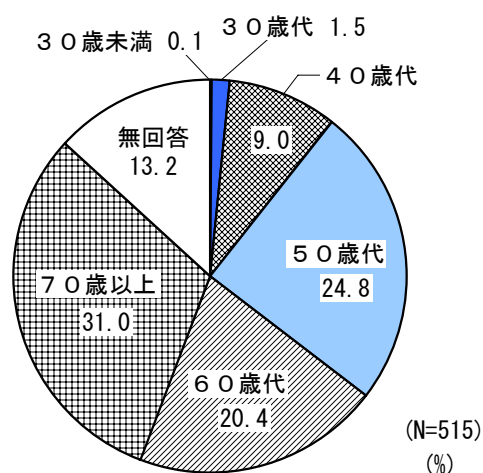


図 3-55 意思決定者の年代

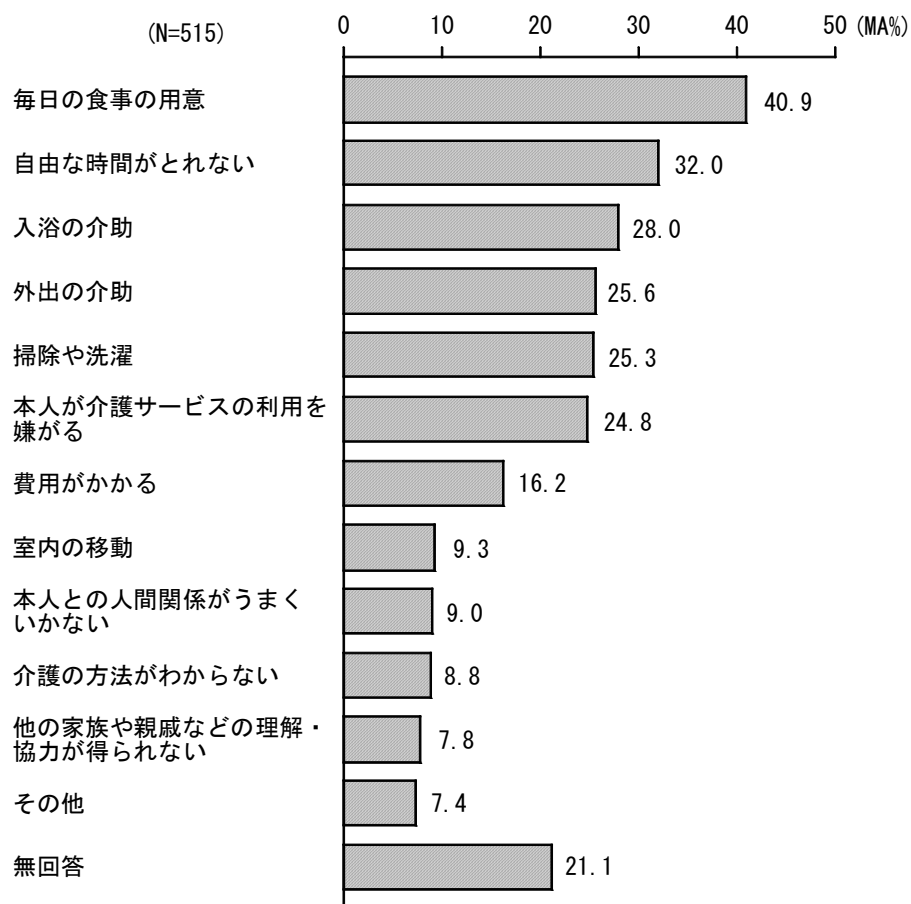


調査対象者がサービス利用する場合などの意思決定に最も関わっている人は、「配偶者」(32.3%)、「娘」(25.5%)、「息子」(19.0%)の三者が多くなっている。

この意思決定者の年代は、「70歳以上」が31.0%と最も多く、次いで「50歳代」(24.8%)、「60歳代」(20.4%)と、50歳以上が全体の76.2%を占める。

(3) 在宅介護の負担について

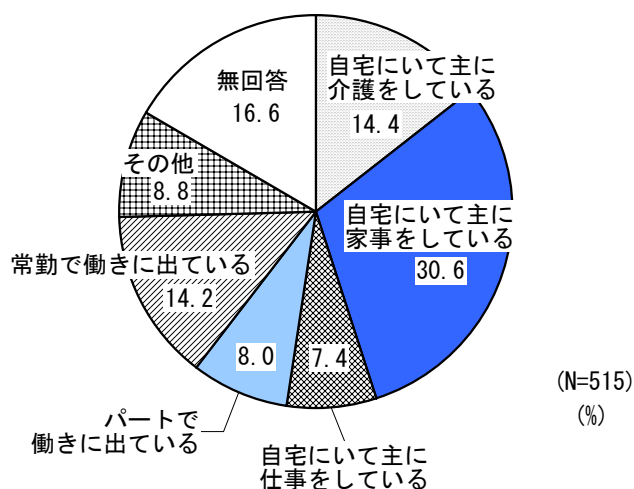
図 3-56 家庭における介護で負担が大きいと感じること



家庭における介護で負担が大きいと感じる介護内容は、「毎日の食事の用意」が40.9%で最も多く、次いで「自由な時間がとれない」(32.0%)、「入浴の介助」(28.0%)、「外出の介助」(25.6%)、「掃除や洗濯」(25.3%)となっている。

(4) 介護者の昼間の生活状況

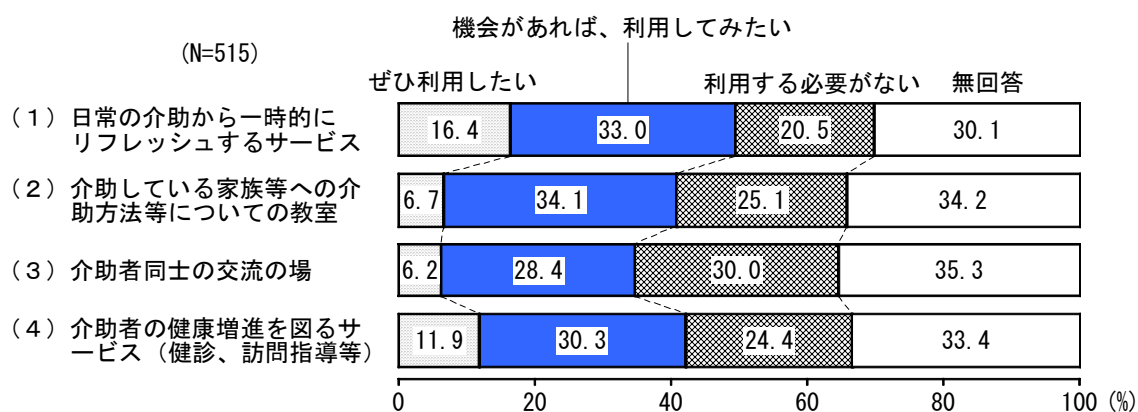
図 3-57 介護者の昼間の生活状況



介護者の昼間の生活状況を見ると、「自宅にいて主に家事をしている」が30.6%で最も多く、次いで「自宅にいて主に介護をしている」(14.4%)、「常勤で働きに出ている」(14.2%)となっている。

(5) 介護者支援施策に対する意向

図 3-58 介護者が利用したいサービス



介護者が利用したいと思うサービス(「ぜひ利用したい」に「機会があれば、利用してみたい」を加えた割合)としては、『(1) 日常の介助から一時的にリフレッシュするためのサービス』が49.4%と最も多くなっている。

第5章 若年者調査

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 4-1 記入者

調査数 (N)	宛名の本人	(上段：件 下段：%)		
		家族	その他	無回答
1392 100.0	1339 96.2	49 3.5	- -	5 0.3

アンケートの回答者は、「宛名の本人」96.2%に対し、「家族」3.5%となっている。

イ 本人が回答できない理由

表 4-2 本人が回答できない理由

調査数 (N)	(上段：件 下段：%)						
	病院に入院中	病气やけが	障害（身体障害、知的障害など）	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
49 100.0	2 3.5	3 6.2	5 10.5	3 6.9	5 10.4	26 53.8	4 8.8

本人が回答できない理由としては、「障害（身体障害，知的障害など）」が10.5%，「答えたくない」が10.4%などとなっている。

(2) 年齢別・性別構成

図 4-1 年齢構成

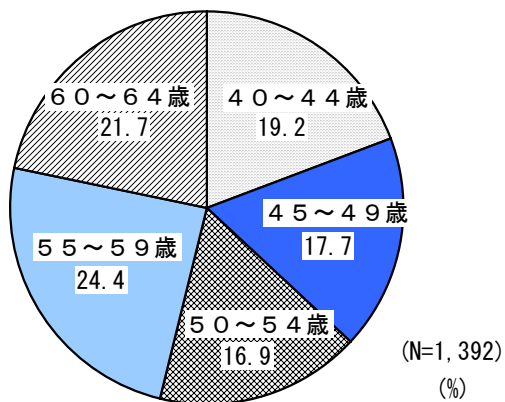
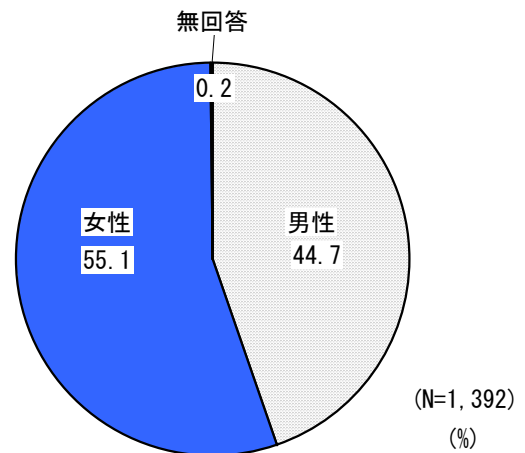


図 4-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「55～59歳」が24.4%と最も多く、次いで「60～64歳」21.7%となっている。

性別構成については、男性44.7%、女性55.1%と女性の方が多くなっている。

(3) 居住地域

ア 居住地区

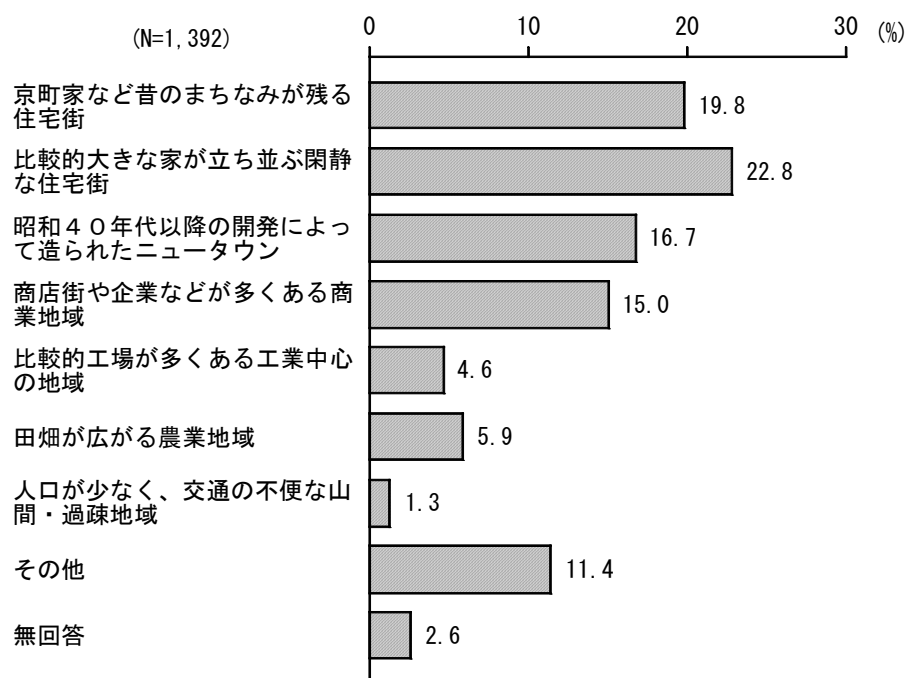
表 4-3 居住地区

調査数 (N)	(上段：件 下段：%)														
	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
1392	116	74	151	90	34	136	67	92	197	141	20	238	17	19	-
100.0	8.3	5.3	10.9	6.5	2.4	9.8	4.8	6.6	14.2	10.1	1.4	17.1	1.2	1.4	-

居住地区をみると、「伏見区」が17.1%と最も多く、「右京区」「左京区」「西京区」も10%を超えている。

イ 地域の特性

図 4-3 地域の特性

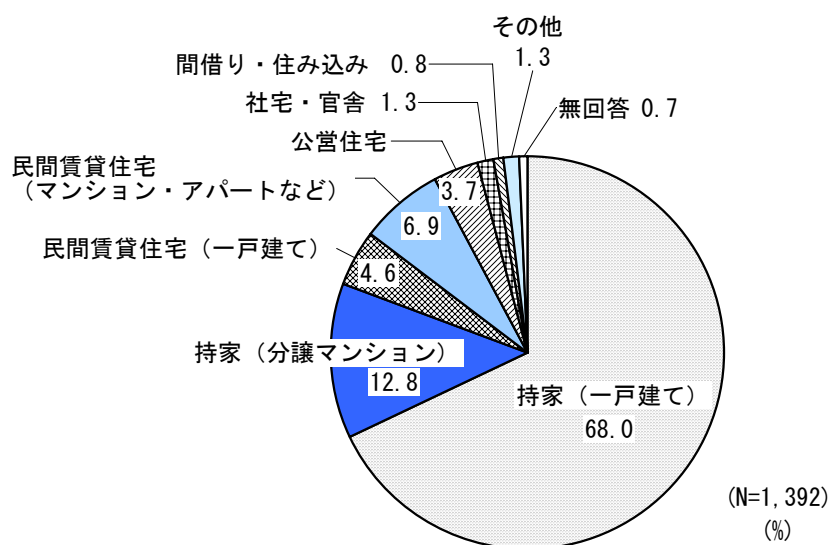


住まいの地域については、「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」が22.8%で最も多く、次いで「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」(19.8%)、「昭和40年代以降の開発によって造られたニュータウン」(16.7%)、「商店街や企業などが多くある商業地域」(15.0%)の順となっている。

(4) 住居形態

ア 住まいの形態

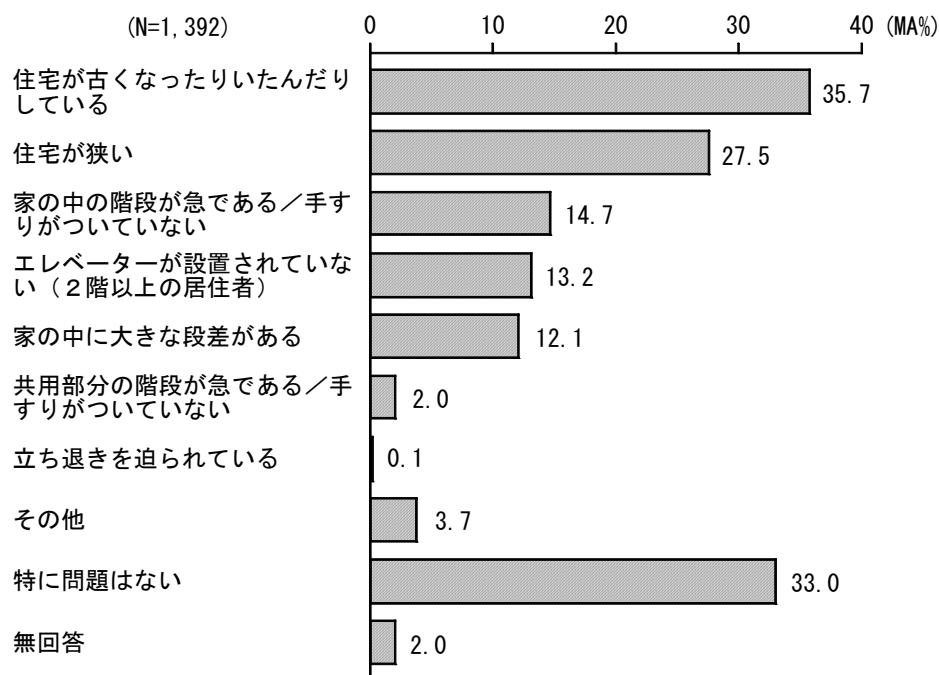
図 4-4 住まいの形態



住まいの形態をみると、「持家（一戸建て）」が68.0%を占め、そのほかは「持家（分譲マンション）」が12.8%、「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が6.9%などとなっている。

イ 住まいの状況

図 4-5 住まいの状況

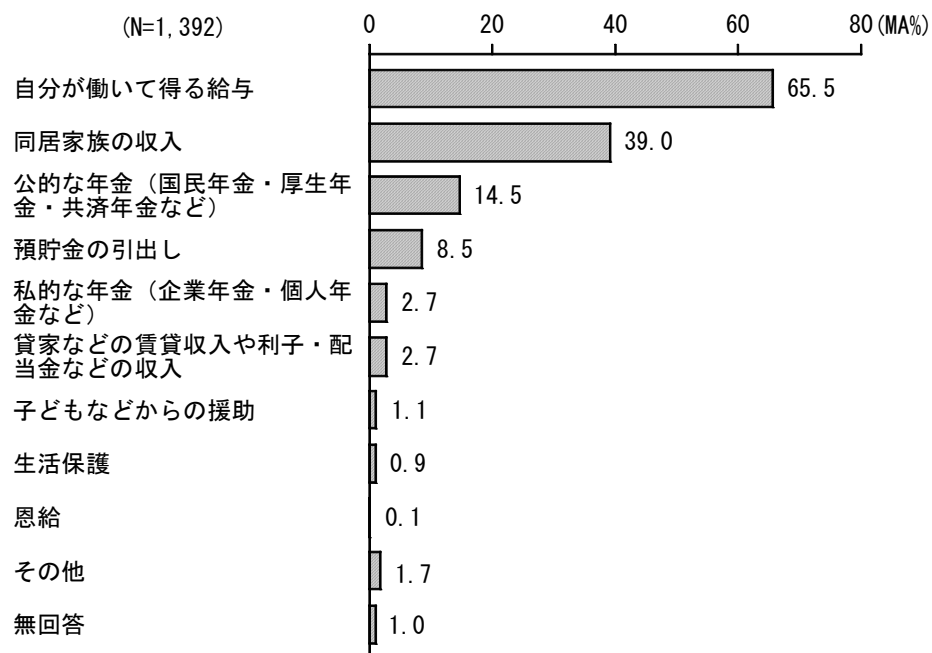


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が35.7%と最も多く、次いで「住宅が狭い」(27.5%)、「家の中の階段が急である／手すりがついていない」(14.7%)となっている。

(5) 収入

ア 主な収入源

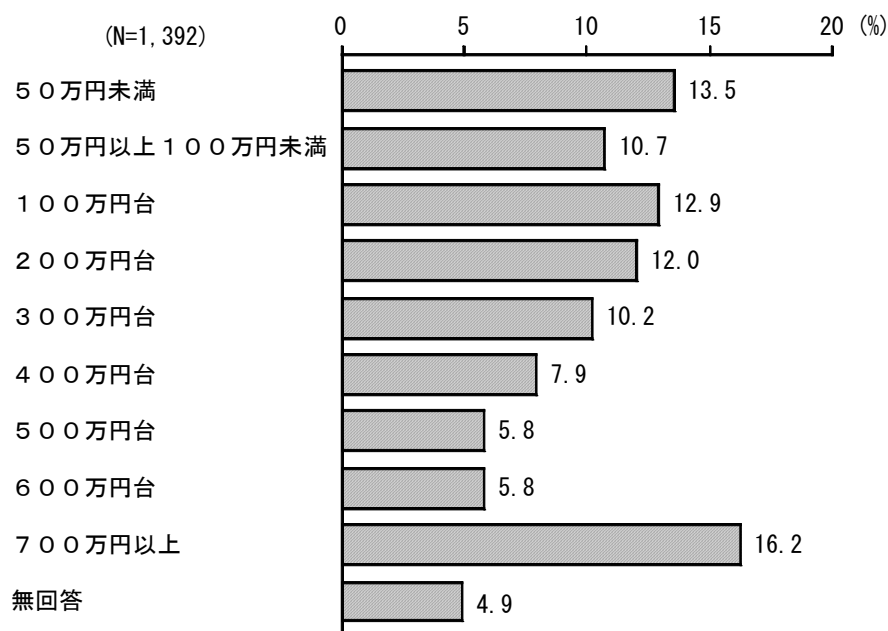
図 4-6 主な収入源



主な収入源については、「自分が働いて得る給与」が65.5%で最も多く、次いで「同居家族の収入」が39.0%、「公的な年金（国民年金・厚生年金・共済年金など）」が14.5%となっている。

イ 本人の年収

図 4-7 本人の年収

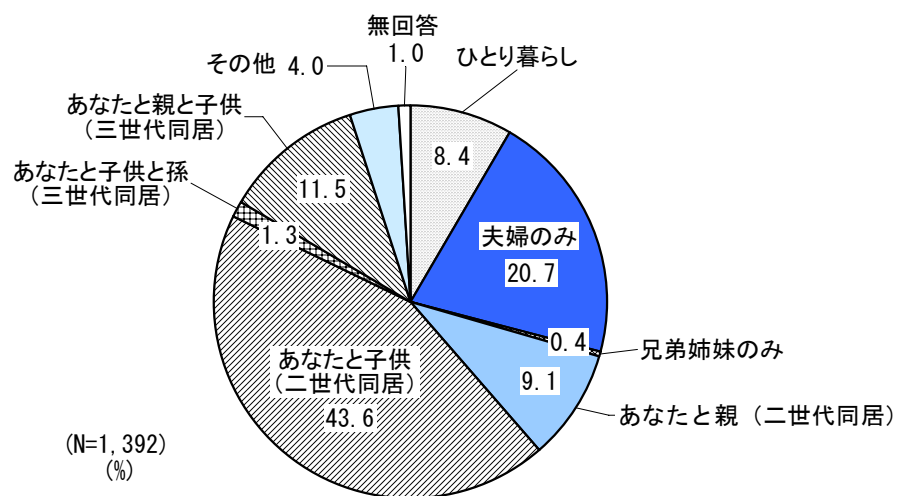


調査対象者本人の年収は、「700万円以上」（16.2%）、「50万円未満」（13.5%）が多くなっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成

図 4-8 世帯構成



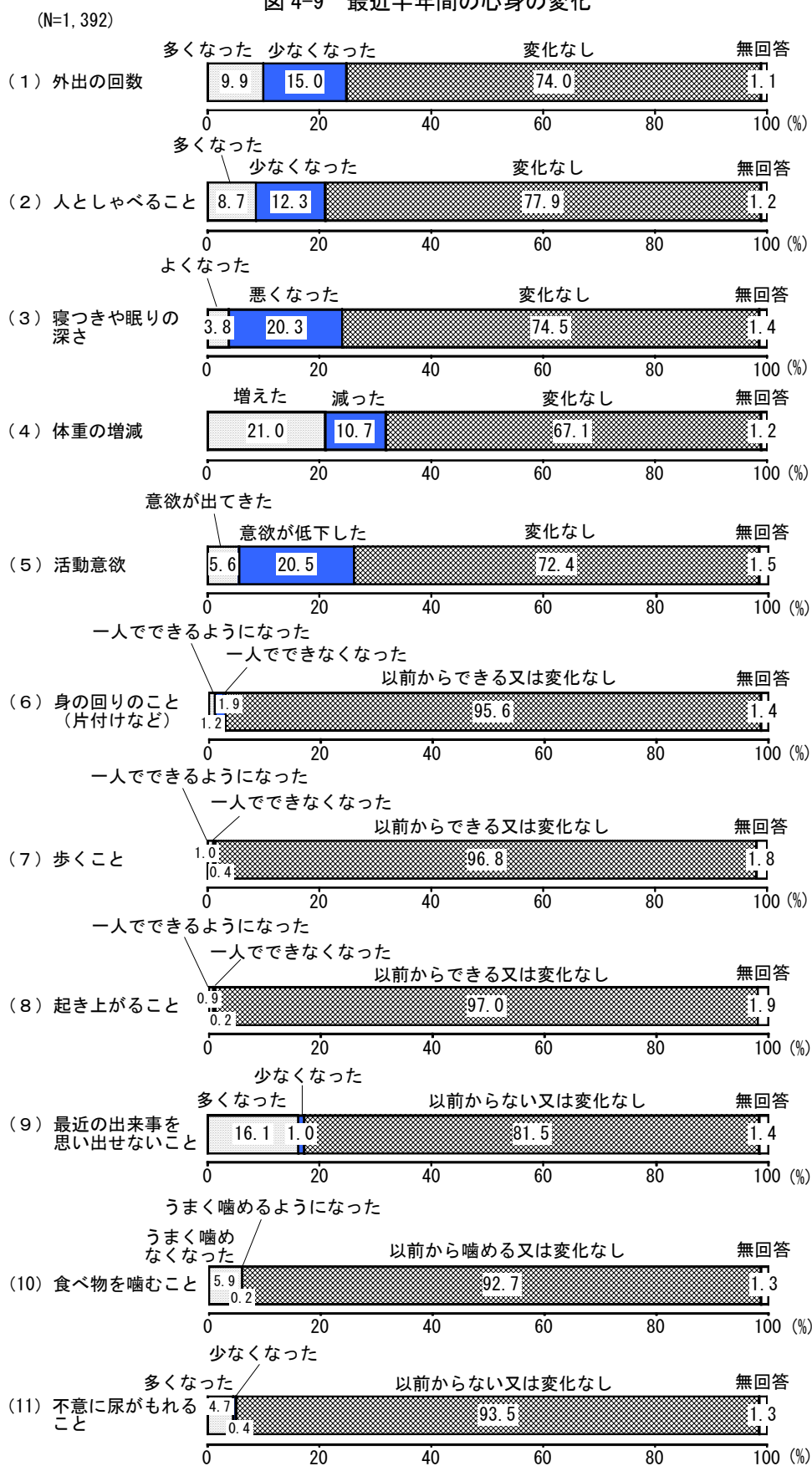
世帯構成は「あなたと子供 (二世世代同居)」が43.6%と多く、次いで「夫婦のみ」(20.7%)、「あなたと親と子供 (三世世代同居)」(11.5%)、「あなたと親 (二世世代同居)」(9.1%)、「ひとり暮らし」(8.4%)の順となっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

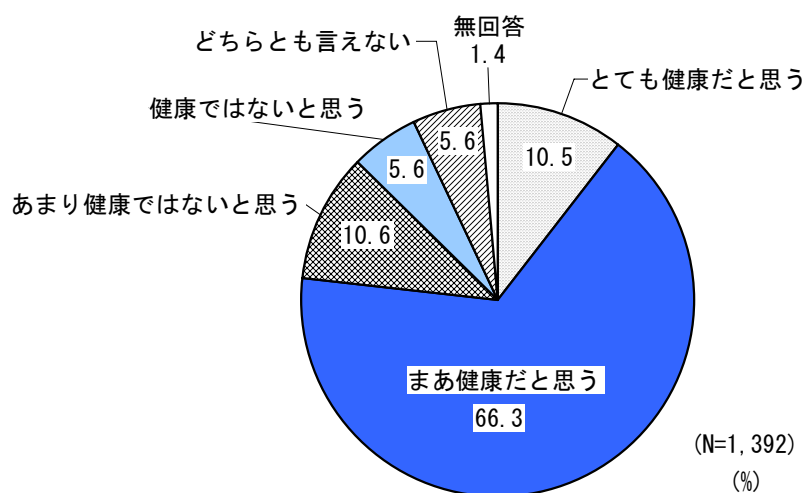
図 4-9 最近半年間の心身の変化



この半年間に心身状態に変化が見られたかたずねたところ、いずれの項目でも「変化なし」が60～90%台を占めるが、『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(5) 活動意欲』の両項目では、悪化もしくは低下を表す回答が20%強と多くなっている。また、『(4) 体重の増減』については、「増えた」が21.0%、「減った」が10.7%となっている。

イ 日ごろの健康状態

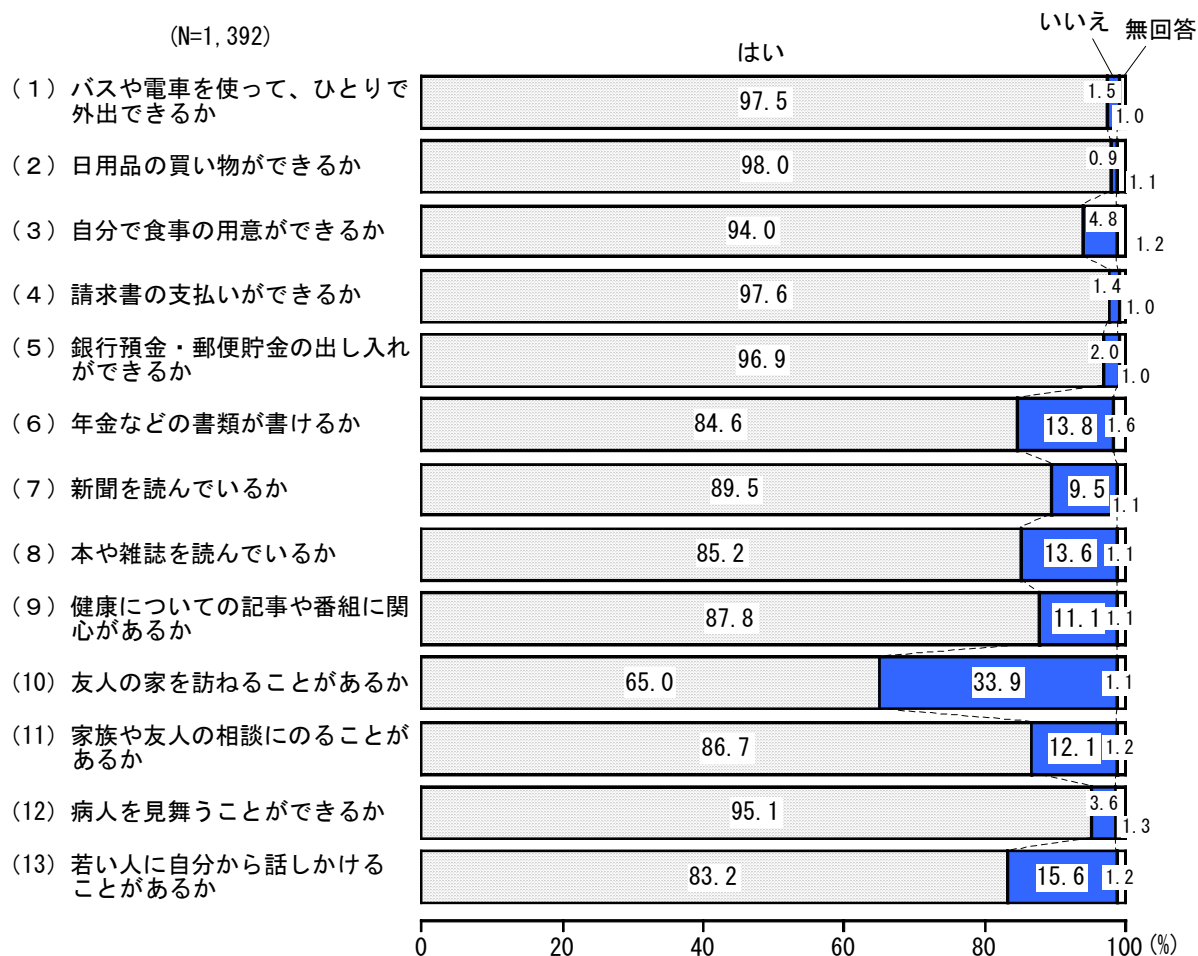
図 4-10 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う (計)』(「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合) が76.8%を占め、『健康ではないと思う (計)』(「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合) は16.2%となっている。

(2) 老研式活動能力指標（高次A D L）

図 4-11 老研式活動能力指標（高次A D L）

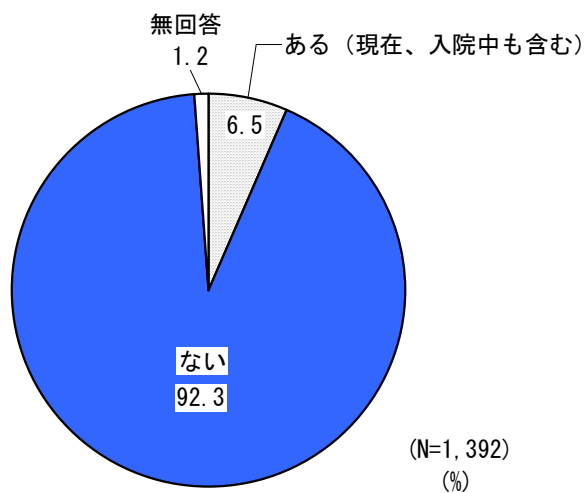


高次の日常生活動作をみると、老研式活動能力指標の13項目中12項目について「はい」が80%以上を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがある』のみ65.0%と低くなっている。老研式活動能力指標総合点の平均は11.7点となっている。

(3) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この1年間に入院した経験

図 4-12 この1年間に入院した経験



この1年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め6.5%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 4-4 現在治療を受けている病気

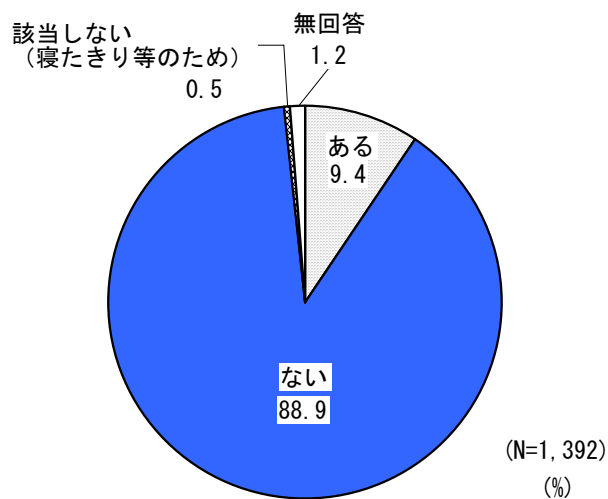
調査数 (N)	(上段：件 下段：MA%)															
	高血圧症	歯の病気	腰痛、膝痛などの病気	高脂血症	糖尿病	眼の病気	消化器系疾患	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	精神疾患	耳、鼻の病気	呼吸器系疾患（喘息、肺炎など）	肝臓病	腎臓病	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	泌尿器系疾患	結核
1392	208	147	144	97	88	78	52	48	37	35	27	20	14	13	12	-
100.0	15.0	10.6	10.3	7.0	6.3	5.6	3.7	3.5	2.7	2.5	1.9	1.4	1.0	0.9	0.8	-
																その他
																137
																9.9
																特にな
																659
																47.4
																無回答
																62
																4.5

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」15.0%、「歯の病気」10.6%、「腰痛、膝痛などの病気」10.3%などとなっている。

(4) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

図 4-13 この1年間に転倒してケガをした経験

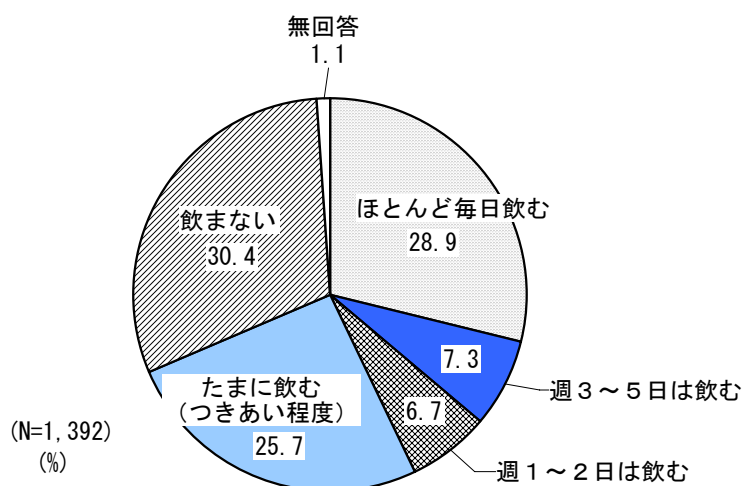


この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、9.4%となっている。

(5) 飲酒・喫煙の習慣

ア 飲酒の状況

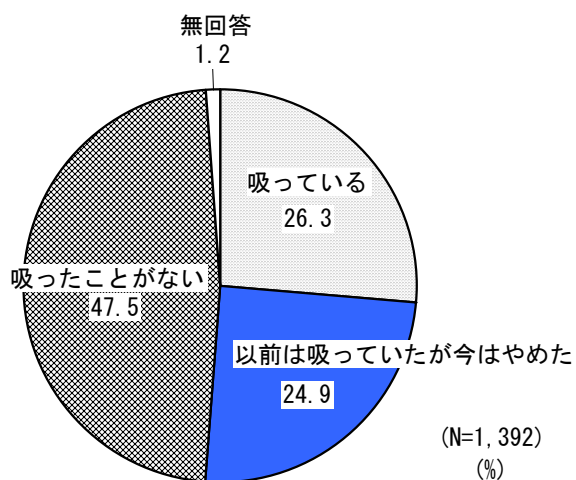
図 4-14 飲酒の状況



週1回以上の飲酒習慣のある人は42.9%であり、「ほとんど毎日飲む」が28.9%となっている。

イ 喫煙の状況

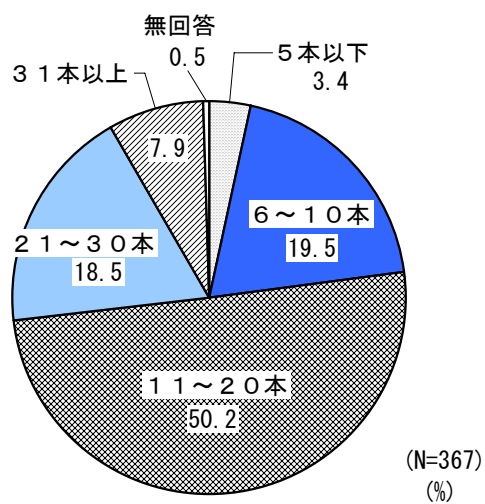
図 4-15 喫煙の状況



現在、喫煙習慣がある人は全体の26.3%であり、「以前吸っていたが今はやめた」(24.9%)を含めると51.2%を占めている。

ウ 1日の喫煙本数

図 4-16 1日の喫煙本数

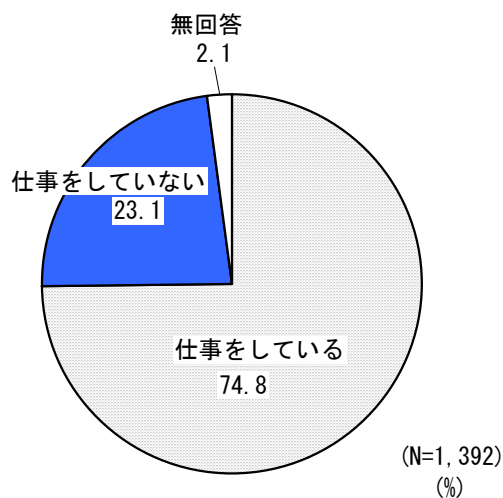


1日の喫煙本数をみると、「11~20本」が50.2%と多くなっている。

(6) 就労状況

ア 就労の有無

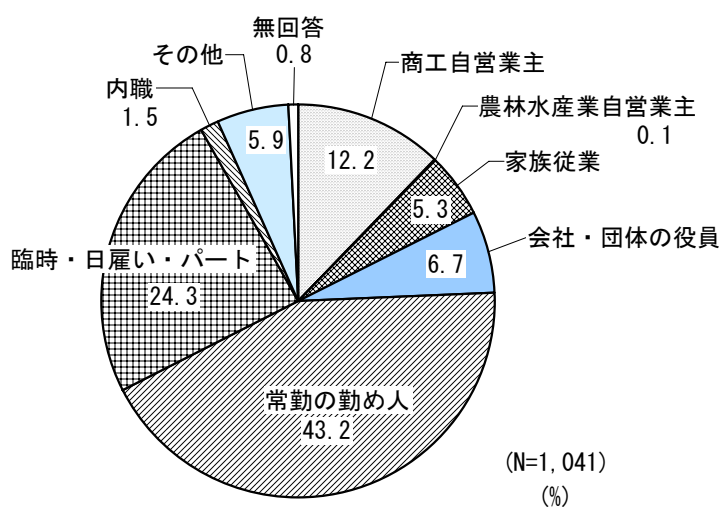
図 4-17 就労の有無



現在、就労している人は74.8%、就労していない人は23.1%となっている。

イ 就労形態

図 4-18 就労形態

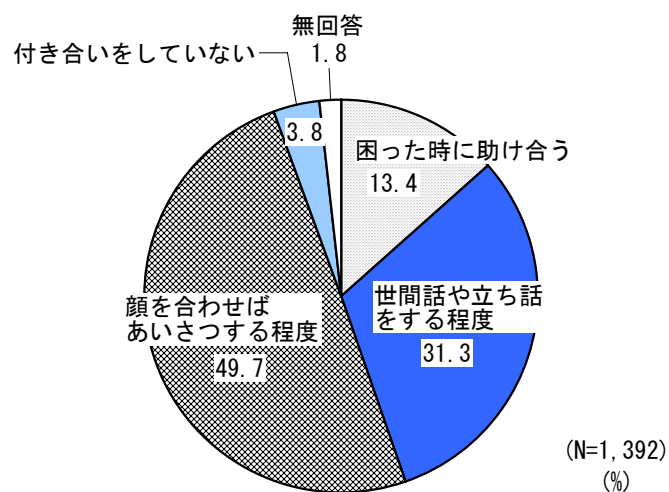


就労している場合の形態は、「常勤の勤め人」が43.2%と最も多く、次いで「臨時・日雇い・パート」(24.3%)、「商工自営業主」(12.2%)となっている。

(7) 近所付き合いと社会参加・生きがい活動の状況

ア 近所付き合いの程度

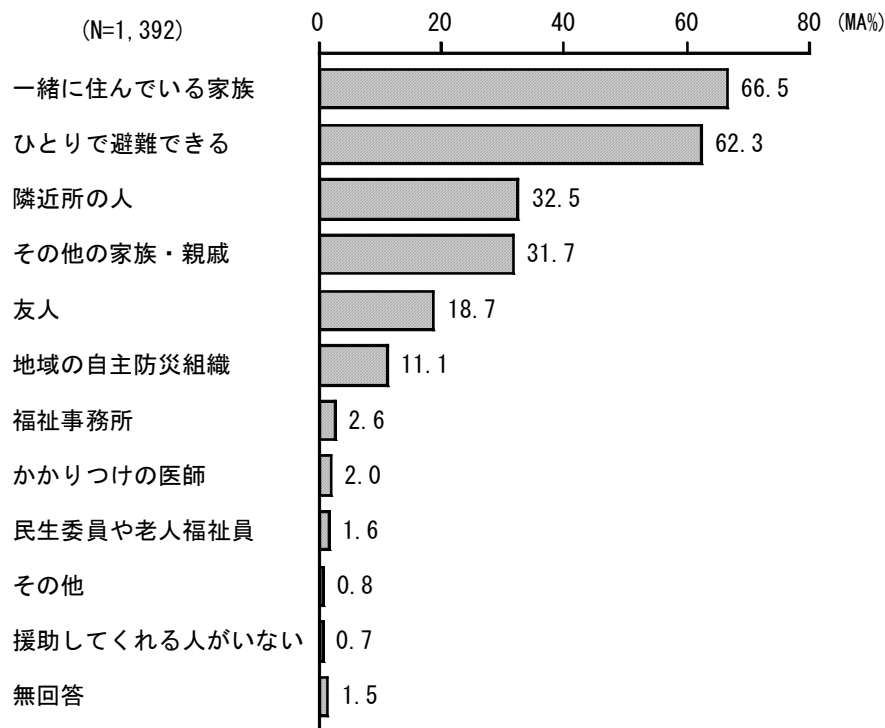
図 4-19 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度をみると、「顔を合わせばあいさつする程度」が49.7%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」(31.3%)、「困った時に助け合う」(13.4%)の順となっている。

イ 災害時に避難が必要になった場合の援助者

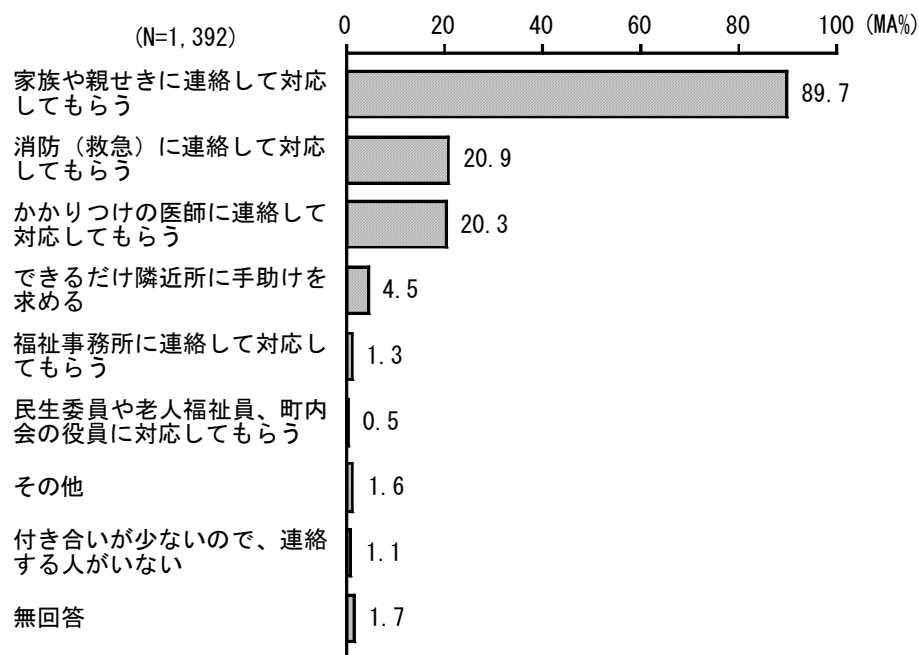
図 4-20 災害時に避難が必要になった場合の援助者



災害時に避難が必要になった場合の援助者については、「一緒に住んでいる家族」が66.5%で最も多く、次いで「ひとりで避難できる」が62.3%、「隣近所の人」が32.5%、「その他の家族・親戚」が31.7%となっている。

ウ 急病時の対処方法

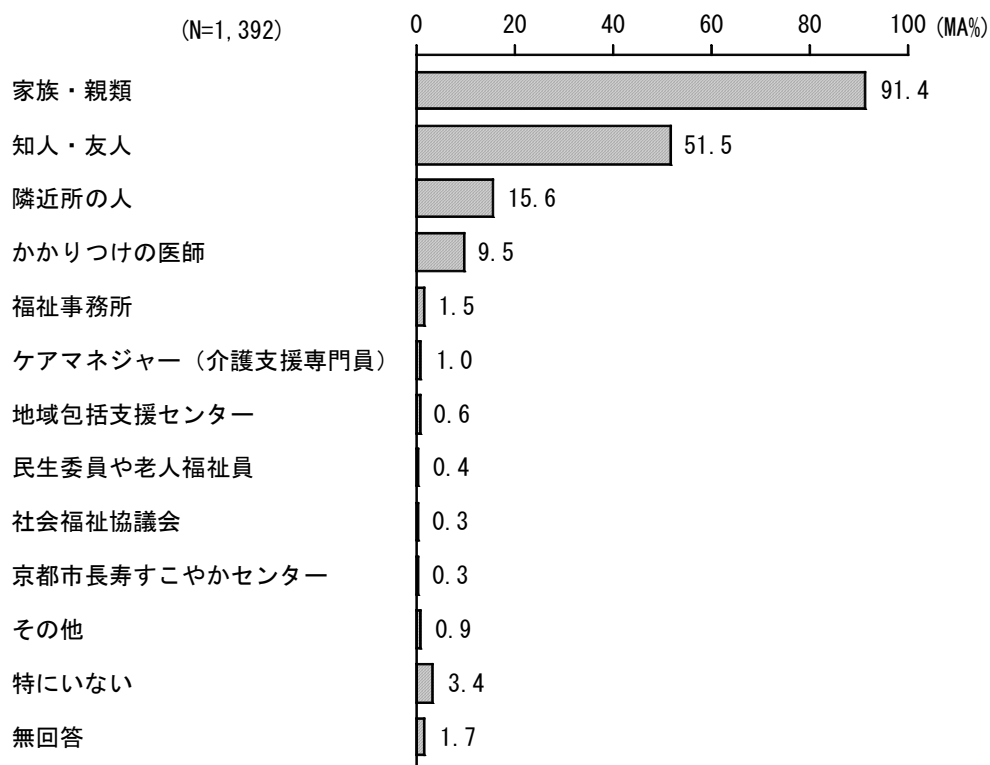
図 4-21 急病時の対処方法



急病時の対処方法については、「家族や親せきに連絡して対応してもらう」が89.7%で圧倒的に多くなっている。次いで「消防（救急）に連絡して対応してもらう」が20.9%、「かかりつけの医師に連絡して対応してもらう」が20.3%となっている。

エ 相談相手

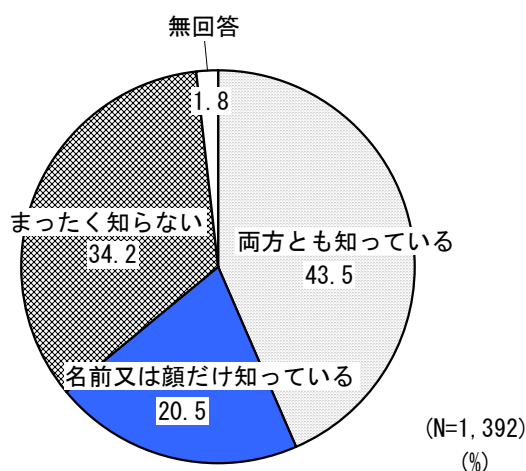
図 4-22 相談相手



相談相手については、「家族・親類」が91.4%で圧倒的に多くなっている。それ以外では、「知人・友人」が51.5%、「隣近所の人」が15.6%、「かかりつけの医師」が9.5%となっている。

オ 地域の町内会長の認知状況

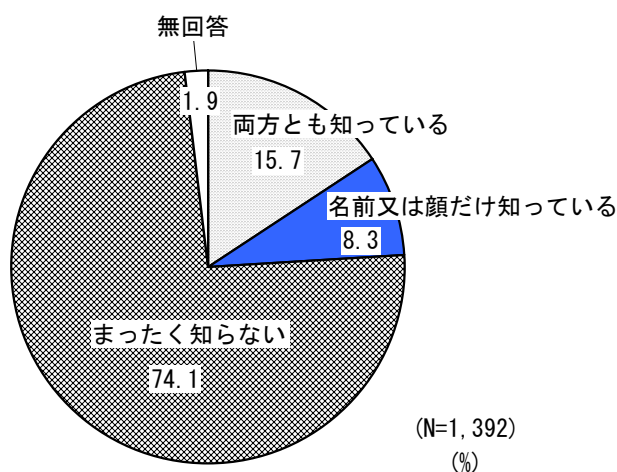
図 4-23 地域の町内会長の認知状況



地域の町内会長（自治会長）の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「両方とも知っている」が最も多く43.5%で、「名前又は顔だけ知っている」は20.5%、「まったく知らない」は34.2%となっている。

カ 地域の民生委員の認知状況

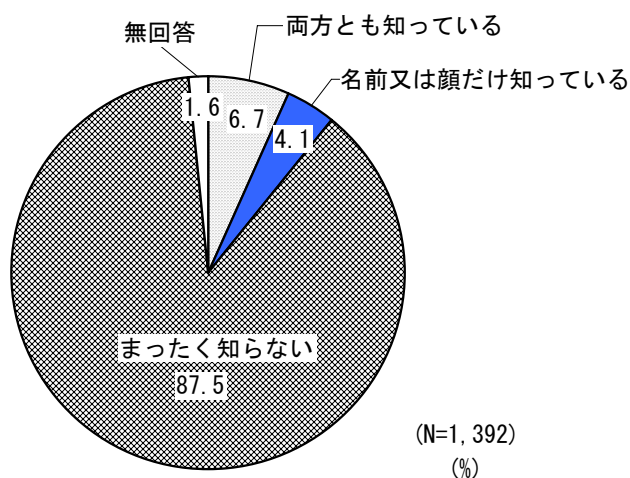
図 4-24 地域の民生委員の認知状況



地域の民生委員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く74.1%で、「両方とも知っている」は15.7%、「名前又は顔だけ知っている」は8.3%となっている。

キ 地域の老人福祉員の認知状況

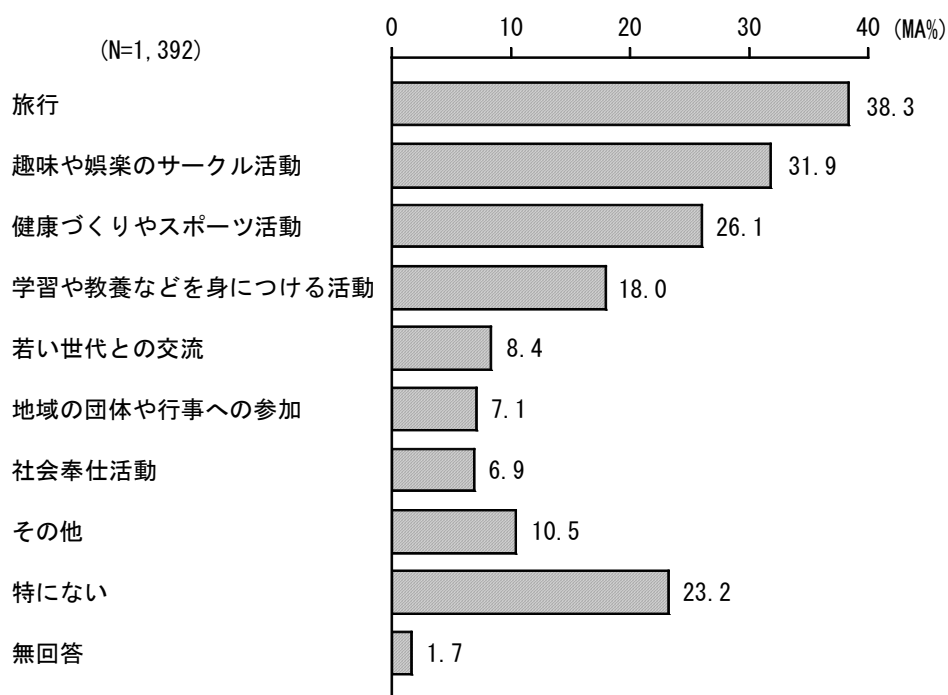
図 4-25 地域の老人福祉員の認知状況



地域の老人福祉員の名前及び顔を両方とも知っているかについては、「まったく知らない」が最も多く87.5%で、「両方とも知っている」は6.7%、「名前又は顔だけ知っている」は4.1%となっている。

(9) 生きがいを感じる活動

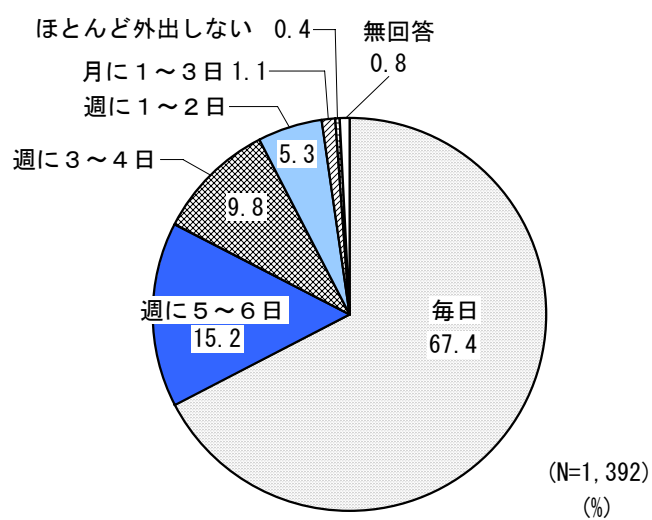
図 4-26 生きがいを感じる活動



現在生きがいを感じる活動は、「旅行」が38.3%と最も多く、次いで「趣味や娯楽のサークル活動」(31.9%)、「健康づくりやスポーツ活動」(26.1%)、「学習や教養などを身につける活動」(18.0%)などとなっている。

(10) 外出の頻度

図 4-27 外出の頻度

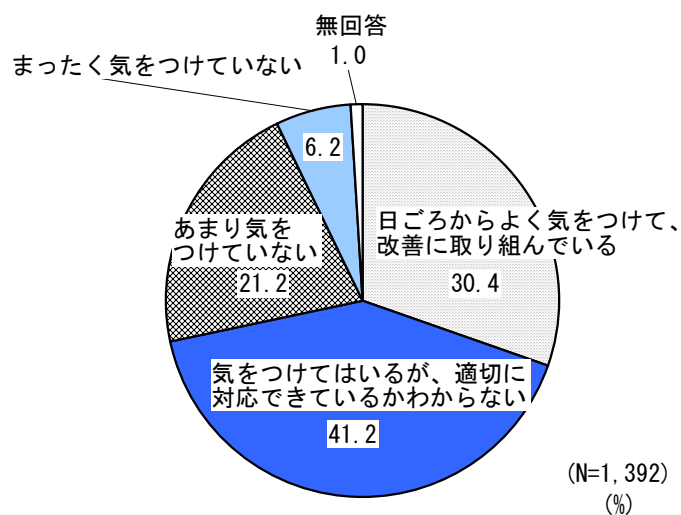


外出する頻度をみると、「毎日」が67.4%を占め、「週に5～6日」(15.2%)を合わせると80%を超える。

3 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

図 4-28 心身の変化への対応・改善の有無

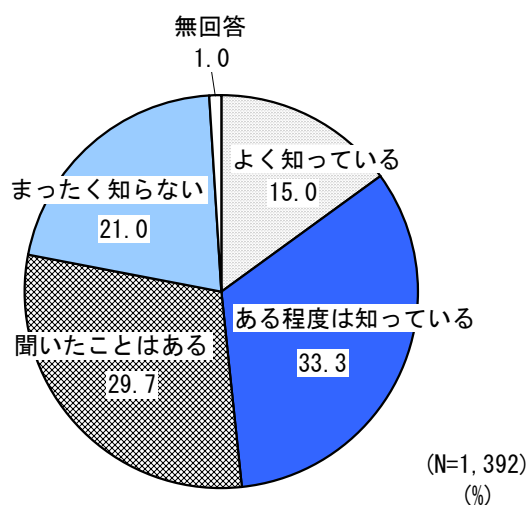


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の71.6%であり、「改善に取り組んでいる」人は30.4%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 介護予防の認知状況

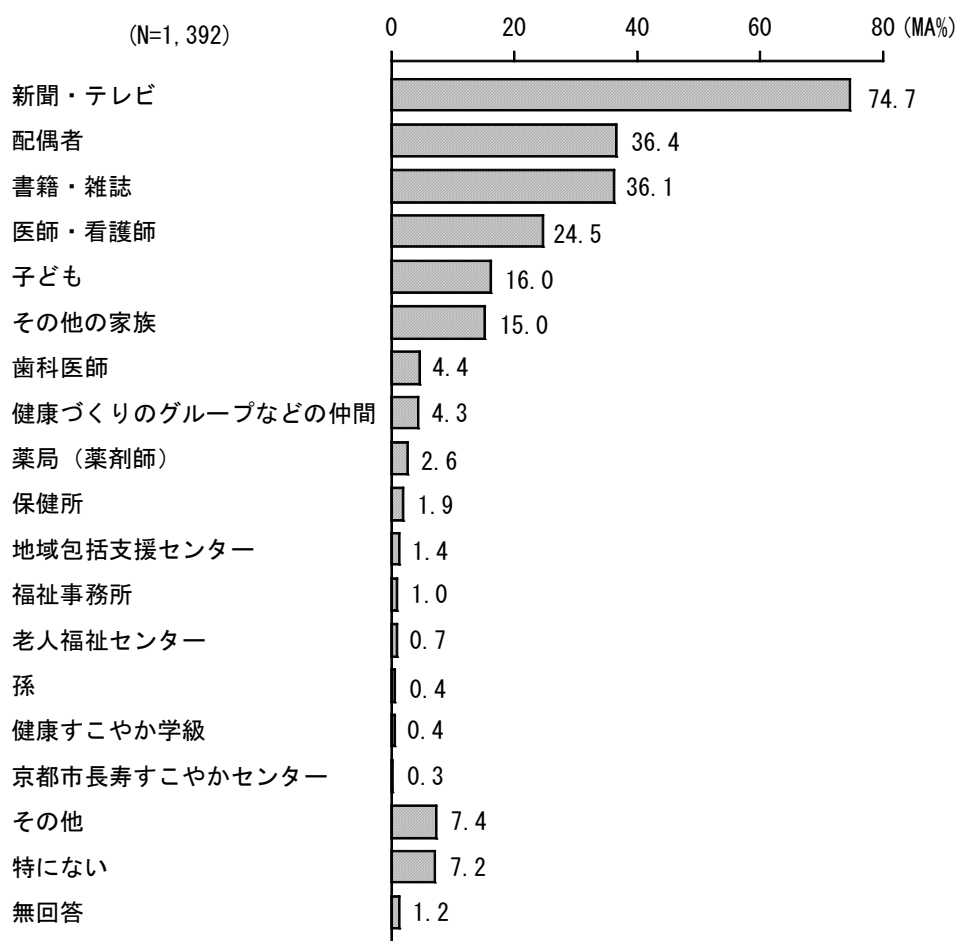
図 4-29 介護予防の認知状況



介護予防について『知っている』と答えた人は、「よく知っている」と「ある程度知っている」と合わせて48.3%となっている。

イ 介護予防等に関する情報の入手方法

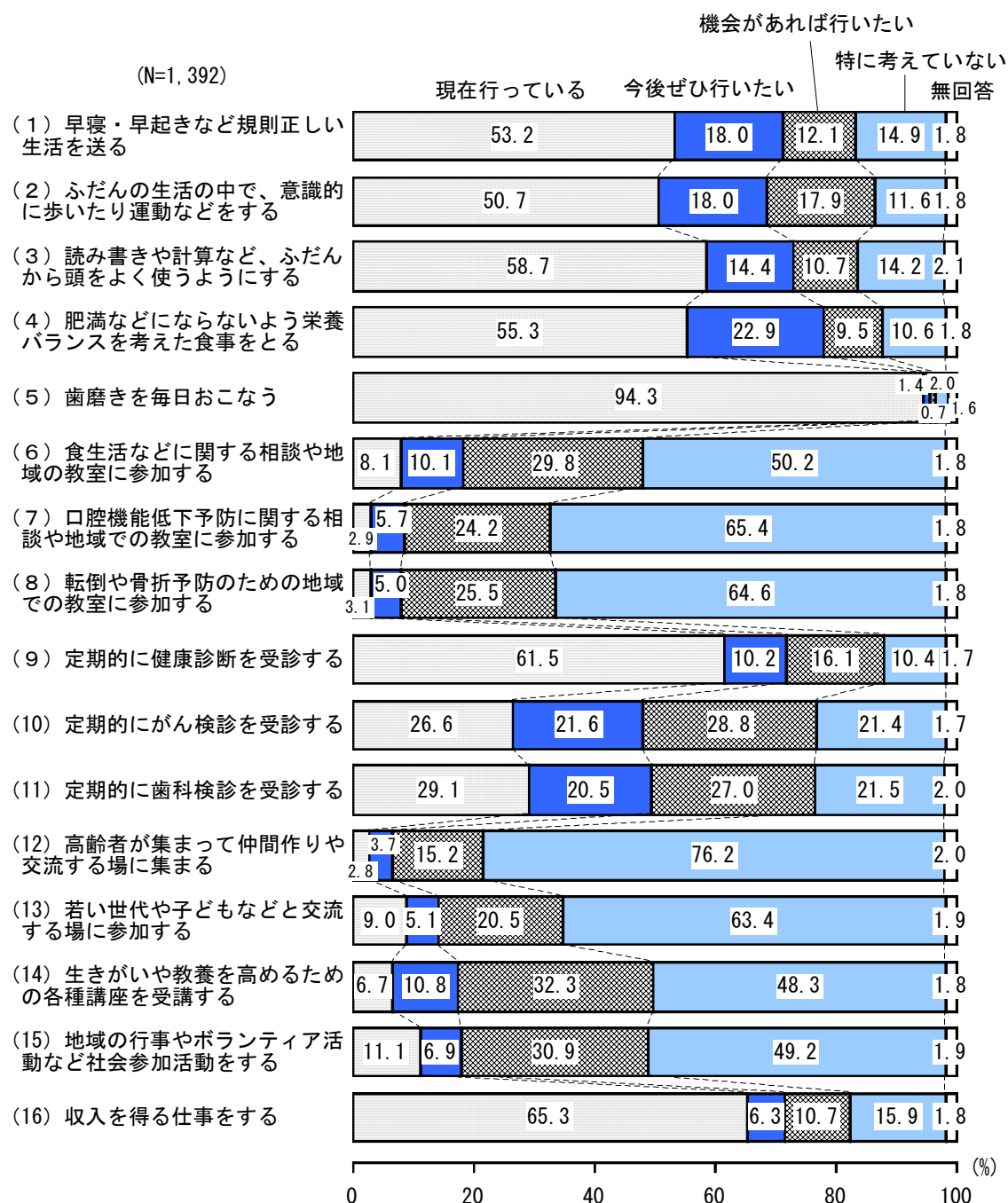
図 4-30 介護予防等に関する情報の入手方法



介護予防等に関する情報の入手方法は、「新聞・テレビ」が74.7%と圧倒的に多く、次いで「配偶者」(36.4%)、「書籍・雑誌」(36.1%)、「医師・看護師」(24.5%)の順で多くなっている。

ウ 病気・老化の予防のために取り組んでいること・取組への考え

図 4-31 病気・老化の予防のために取り組んでいること・取組への考え

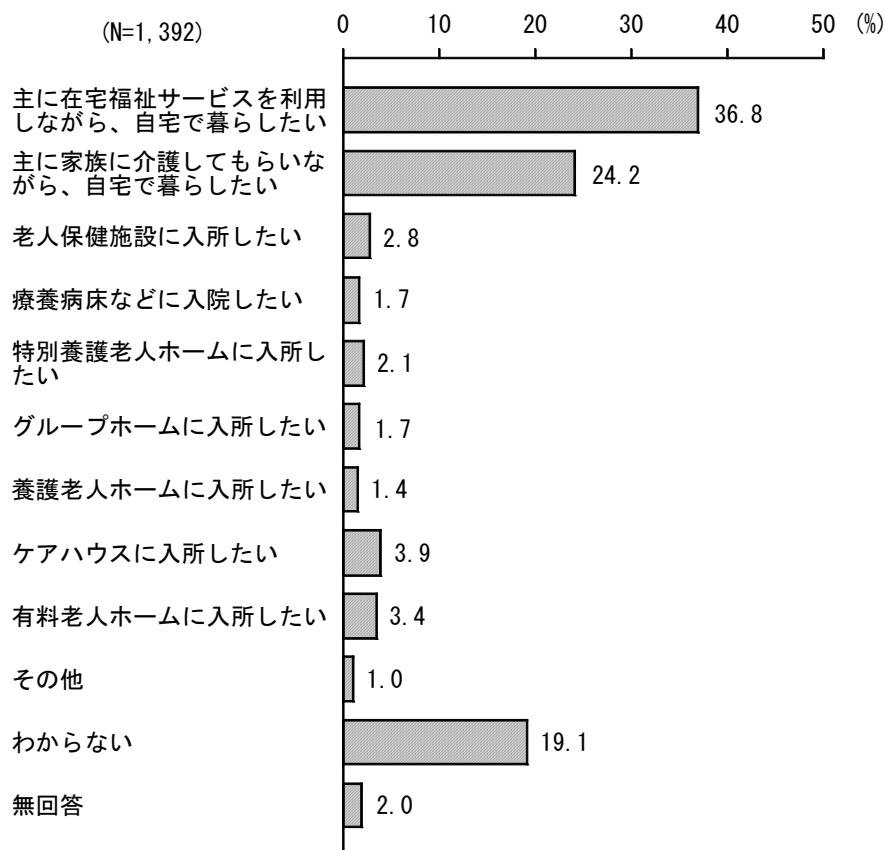


病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、『歯磨きを毎日おこなう』が94.3%と最も多く、次いで『収入を得る仕事をする』(65.3%)、『定期的に健康診断を受診する』(61.5%)、『読み書きや計算など、ふだんから頭を使うようにする』(58.7%) などとなっている。

今後、取組意向(「今後ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合)の高い活動は、『定期的ながん検診を受診する』(50.4%)、『定期的に歯科検診を受診する』(47.5%)で、『生きがいや教養を高めるための各種講座を受講する』(43.1%)、『食生活などに関する相談や地域の教室に参加する』(39.9%) も多い。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

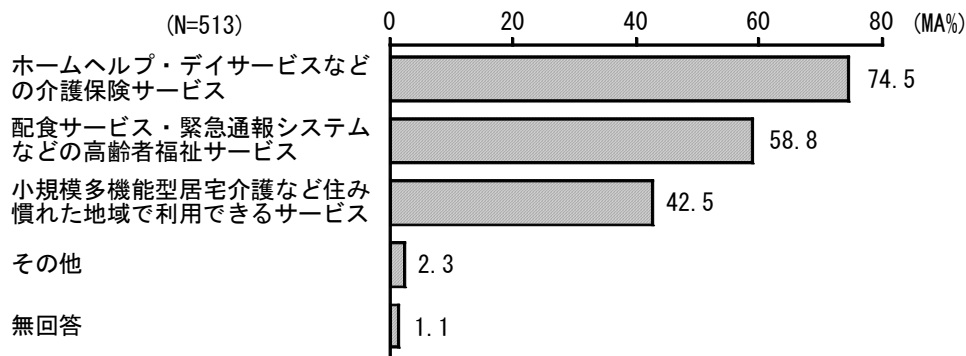
図 4-32 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方



調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が36.8%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が24.2%となっており、合計すると全体の61%が自宅での生活を希望している。

イ 在宅福祉サービスの利用意向

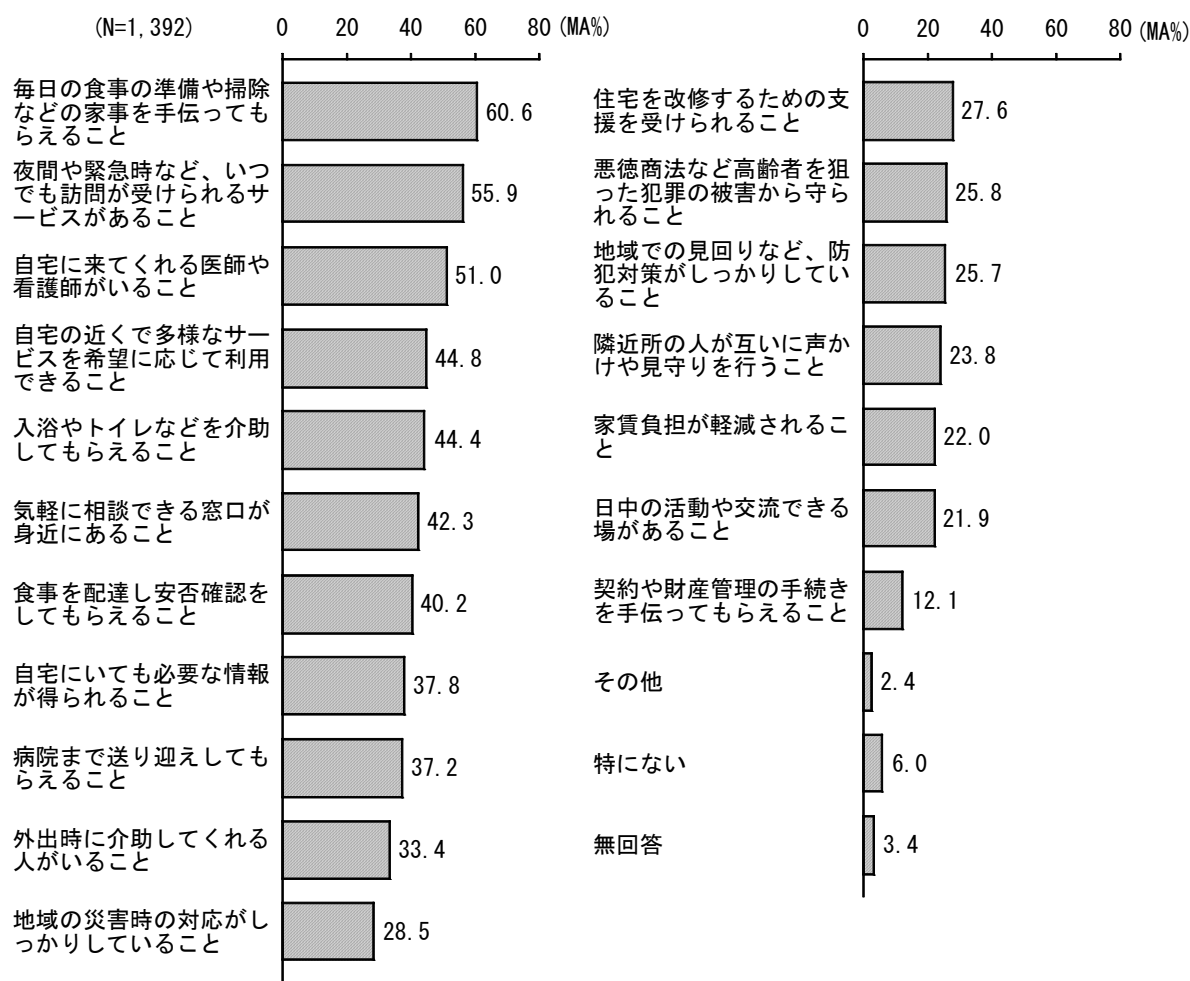
図 4-33 在宅福祉サービスの利用意向



自宅で在宅福祉サービスを利用しながら暮らしていく場合に利用したいサービスについては、「ホームヘルプ・デイサービスなどの介護保険サービス」が74.5%で最も多く、次いで「配食サービス・緊急通報システムなどの高齢者福祉サービス」(58.8%)となっている。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 4-34 在宅生活を続けていく上で必要な支援



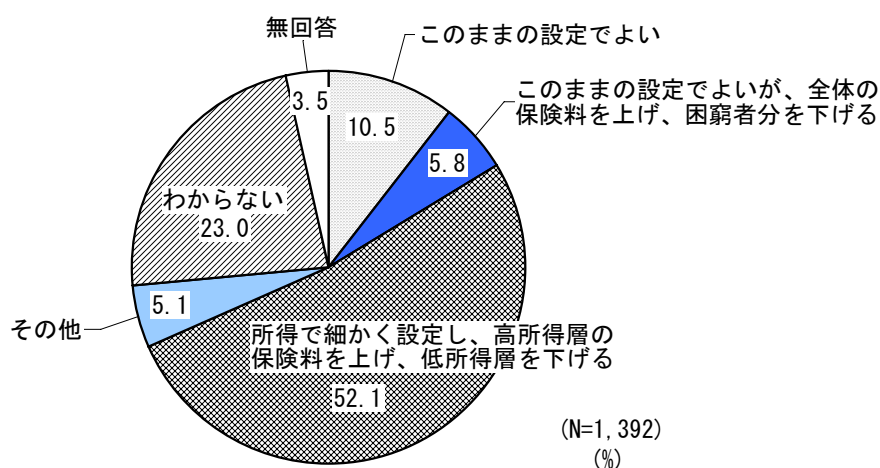
在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が60.6%と最も多く、次いで「夜間や緊急時など、いつでも訪問が受けられるサービスがあること」(55.9%)、「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(51.0%)、「自宅の近くで多様なサービスを希望に応じて利用できること」(44.8%)、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(44.4%) などとなっている。

4 介護保険制度について

(1) 保険料の設定および給付・負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定方法について

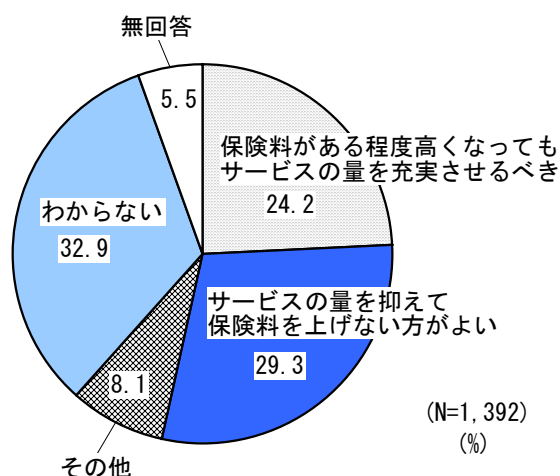
図 4-35 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得で細かく設定し、高所得層の保険料を上げ、低所得層を下げる」が52.1%と多く、「このままの設定でよい」は10.5%、「このままの設定でよいが、全体の保険料を上げ、困窮者分を下げる」は5.8%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

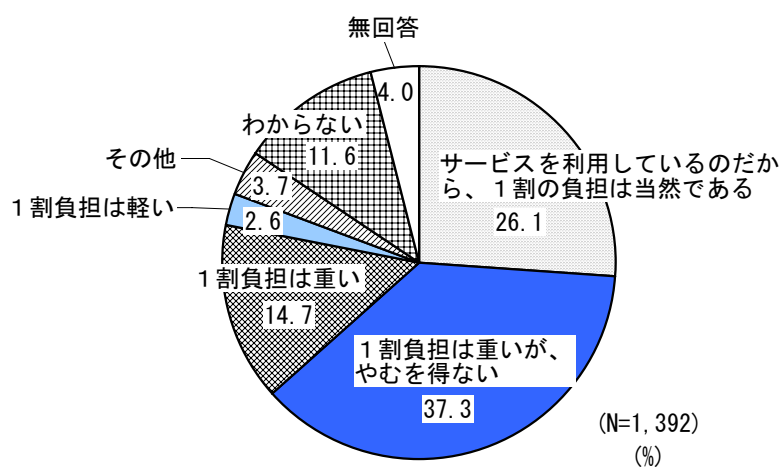
図 4-36 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「サービスの量を抑えて保険料を上げない方がよい」が29.3%で最も多く、「保険料がある程度高くなってもサービスの量を充実させるべき」は24.2%となっている。

ウ 利用者負担について

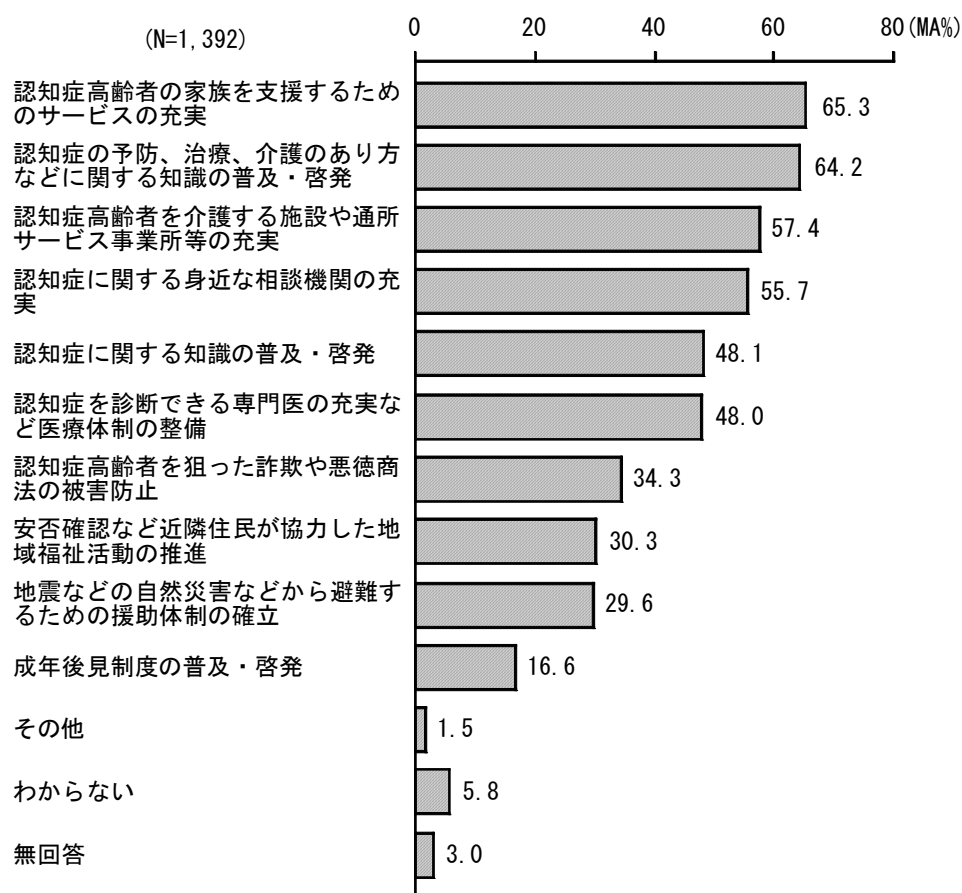
図 4-37 利用者負担について



介護サービス利用料の1割負担については、「1割負担は重いが、やむを得ない」が37.3%と最も多く、次いで「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」(26.1%)、「1割負担は重い」(14.7%)となっている。

(2) 認知症高齢者対策で必要なこと

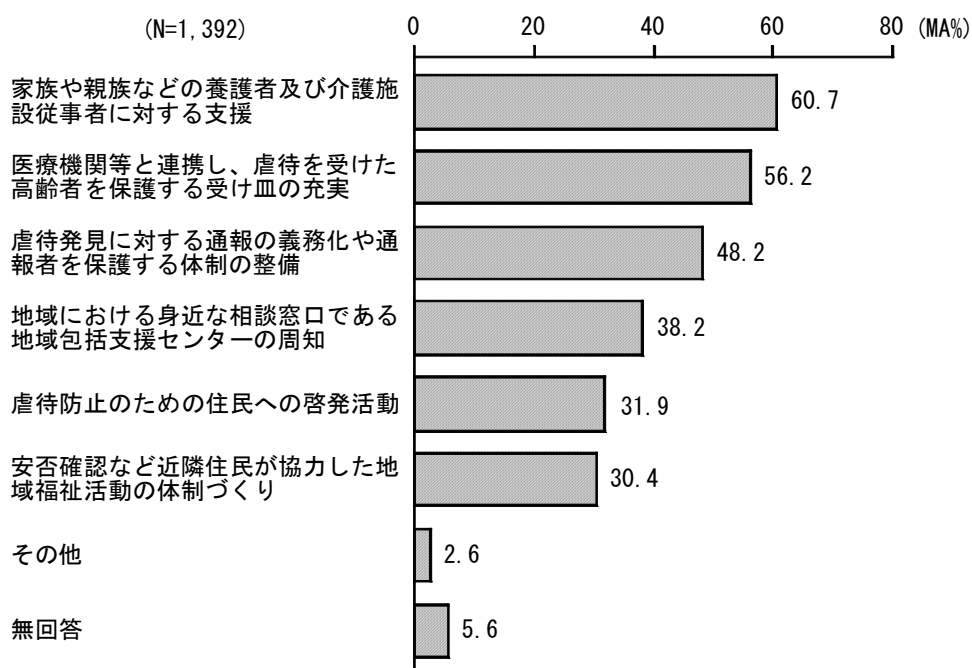
図 4-38 認知症高齢者対策で必要なこと



今後、必要だと思う認知症高齢者対策としては、「認知症高齢者の家族を支援するためのサービスの充実」が65.3%で最も多く、次いで「認知症の予防、治療、介護のあり方などに関する知識の普及・啓発」が64.2%、「認知症高齢者を介護する施設や通所サービス事業所等の充実」が57.4%、「認知症に関する身近な相談機関の充実」が55.7%となっている。

(3) 高齢者虐待防止に関する重要な取組

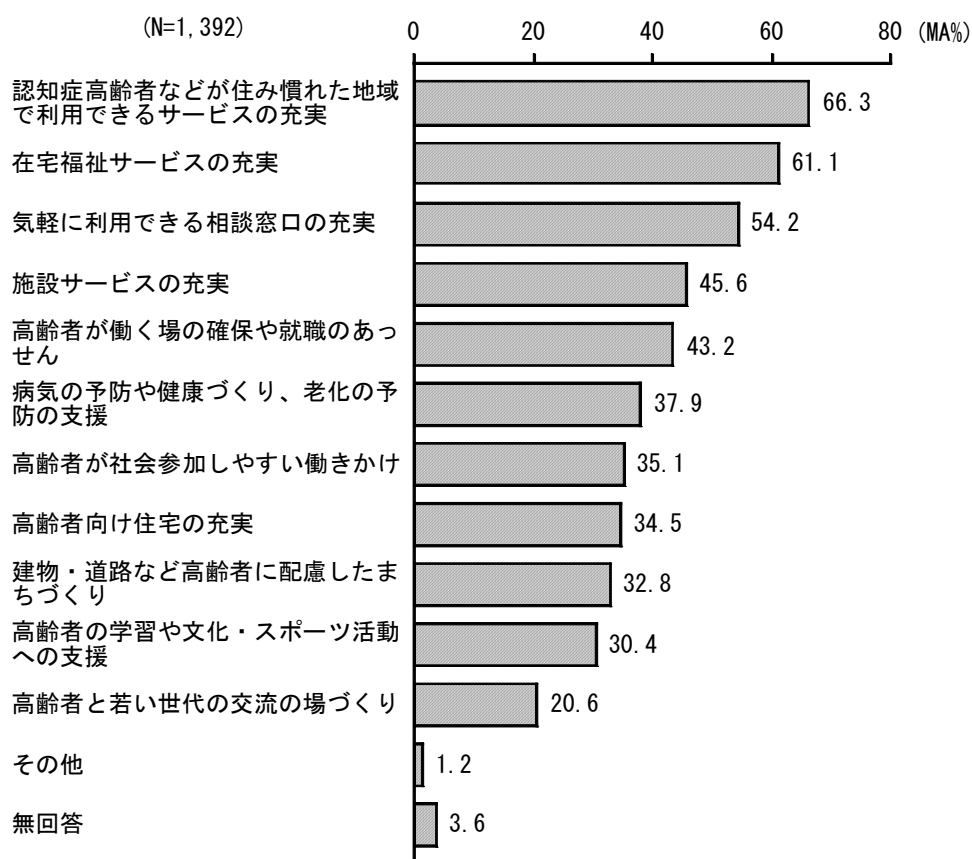
図 4-39 高齢者虐待防止に関する重要な取組



高齢者虐待防止に関する重要な取組については、「家族や親族などの養護者及び介護施設従事者に対する支援」が60.7%で最も多く、次いで「医療機関等と連携し、虐待を受けた高齢者を保護する受け皿の充実」が56.2%、「虐待発見に対する通報の義務化や通報者を保護する体制の整備」が48.2%、「地域における身近な相談窓口である地域包括支援センターの周知」が38.2%となっている。

(4) 高齢者保健福祉について充実を希望する施策

図 4-40 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「認知症高齢者などが住み慣れた地域で利用できるサービスの充実」が66.3%で最も多く、次いで「在宅福祉サービスの充実」(61.1%)、「気軽に利用できる相談窓口の充実」(54.2%)、「施設サービスの充実」(45.6%)、「高齢者が働く場の確保や就職のあっせん」(43.2%)となっている。